

兩國は結局に至る迄其力量を驗せざるべからず、第二、平和を永く確めんが爲めなり、若し目下の時機に於て平和を主張せられんか、其平和は唯一時繼續のものなるべく、支那は復讐の準備をなし、日本は得べきものよりも少なきを得たるが爲め快々として憚ばず、侵略の姿勢を執るべし。長き間には日本が百戰百勝すべきこと必らず確かとは決して云ひ難し。况んや今日は日本が不利なりしやの風説(第二軍に就きての風説)さへあるに於てをや。若し之をして眞實ならしめんか、日清兩國共に戦争は容易に起すべきものにあらずとの觀念を學び得べきこと眞に喜ぶべし。然れども我輩は此風説に信を措くものにあらず、乃ち日本が破竹の勢ひを以て連勝すべしと信する者なり。若し斯くの如くならんか、傲慢無禮の支那人等をして愈、起つこと能はずとの會得に達せしめんこと是亦吉事と云ふべし。抑も歐羅巴は何が故に其官吏は唯是、盜賊將校は懦夫、軍隊は烏合の人足、其風俗は野蠻にして、其權政は幾億萬の蒼生を世界開闢以來、會て人間に知られ又知られ能ひしものゝ中にも、最も野蠻瘴惡なる政體に陥れ、その内部は腐敗の毒氣を以て充満し、足許さへ確かならず、突かるれば倒れんばかりの王朝を扶持す

べきや、斯くの如き扶持は耶蘇教國の體面を汚すものと云ふべし。若しも紛擾滅裂の中より公明なる法律、正大なる政府及び民衆一般の幸福開明の影にても流れ出づる者とせば、我輩は寧ろ斯かる王朝の顛覆せられて、諸省の鮮血中に漂はんことを希望するものなり。而して此改革は日本の勝利が之を成功し得べし、否既に成功しつゝあり、されば我輩は歐洲列國が仲裁に着手せず、乃ち支那に向つて自ら其敵國と談合するより、外道なき旨を明々地に申渡すこと適應の所置と信するものなりと。

平和と人道との爲めに最も傾心せる米國政府が、如何に觀察を下せるかは大統領の教書の一節之を證して餘りあり。曰く、合衆國が諸外國に向ひて平等公平の交りをなしたること、幸ひにも外國の認むる所となりたるの一例は、日清兩國政府の請求によりて顯はれたり、即ち兩國政府は戦争の爲め國際の一時斷絶せし敵國在留の臣民に對し、戦争中正當の範圍内に於て保護を與へられんとを合衆國の代表官に請求せり、依つて該官等は之を承諾したるに就きては一時誤解を生じ、彼等は交戰國の代表官が平日執行せるだけの權力を行ふものならんとし、

之を恐れたる者なきにあらざりしが、元來好意を以て承諾したる職務外の事なれば、さる恐れのあるべき筈なく、直にこれも明白となれり。蓋し日清間の戦争は更に合衆國の政略に危難を及ぼさることなしと雖、兩國に對して我貿易の次第に發達すること、及び支那の内部に永住若くは寄留する我國民に危難を及ぼすの恐れあること、此二點の關係あるが故に、其成行きに就きては大に注意せざるべからず。始め日本が朝鮮の改革を主張するよりして起りし紛議に就き、予(ク)リーヴランド氏は米韓條約に従ひ、其調停を周旋せざるべからざる必要を感じたれども、不幸にして遂に兵力を用ふるに至りたれば、其好意も從つて徒勞となり、東洋に於て最も有力なる兩國間に此戦争を見るは寔に悲むべきことなり。而して合衆國は此兩國との貿易上の利害を保護し、且つ居留の我國民の安全を計らざるべからざるが故に、兩國共に名譽を以て和を構するの機會あれば、予は之を仲裁するの注意を怠らざるべし。

戦争を別として、日本は我合衆國と益、親密なる交際を結ばんとし、又その國の内治外交を改良して、内は十分圓滑なる政務を行ひ、外は列國の間に十分平等なる

交際をなさんとして我聲援を求むるの心は、益、我合衆國の注意を喚起せり、今日の日本帝國は既に舊時の日本にあらず、故に此新進國民との關係は、他の強國と毫も異なることあるべからざるものなりと。

然れども米國輿論の一部には大統領の意向に反對論者もありたり。紐育ブレッズは曰く、合衆國は今日東洋の戦争に干渉する必要もなく、權利もなし、大統領クリーヴランド氏は、曩に布哇に於て米國子孫が設立したる新政府を顛覆して、同國を英人の手に渡さんことを計畫し、爲めに米國人民より非常の攻撃を受けたるとあるにも拘らず、今また日清戦争に容喙して相變らず英國の爲めに盡力せんとするは抑も何故なるや、吾々の更に解する能はざる所なり、日本は既にその敵を打破り、今や將に最後の打撃を下さんとしつゝある者なるに、縁もなき合衆國が自ら進み出で、予(ク)仲裁を試みんとするは、最も拙劣なる政略と云はざるを得ず。若しも往年普佛戦争の際、普軍が既に巴里の城下に迫り來りたる其時に臨んで、合衆國より仲裁を申し出したるならんか、彼等は唯一も二もなく其申出を退け、我政府に向つて、要らざる世話を焼く勿れとの忠告を與へしに相違あるべか

らず。されば今日若しも日本が我國に對して、同様の返答をなさざるならば、これぞ全く其國民が天性禮儀を重するが爲めにして、其心中に思ふ所は獨逸人が類似の場合に遠慮なく口に出す所と毫も異なる所なかるべし。蓋し若しも日本と支那とが互に協議の上、合衆國の仲裁を求め來りしならば、固より應ずるも差支なしと雖、實際の處、今日まで未だ其事ありしを聞かず、日本は外國の仲裁を求むるをなさざるのみならず、其議會は外國の仲裁者を容るべからずとの旨を公言したる程なり。若しクリーヴランド氏にして飽くまでも仲裁を試みんとの決心ならんには、吾々合衆國議會は大にこれに反對し、假令如何なる事情あるも支那及び英國の利益の爲めに、日本が其戦勝に依つて折角得んとしつゝある報酬を犠牲に供するなからんことを勧告するものなりと。

一方戦争の速に終局せんことを希望せる觀察者には、ロンドン、エコノミストの如きあり。曰く、日清戦争に就きて何人も希望する所は、成るべく穩當なる約束を以て、速に其局を結ぶにあり、若し今の儘にして長く戦の續く時は、日本も支那も其費用は莫大なるべし、兩國の國力は世人の想像するよりも恐らくは富裕なるべ

しと雖、兩國共に國庫の歳入甚だ多からず、而して軍費の出所は、結局歳入に歸するの外なからん、勿論孰れも君主國なれば、強て獻金を申付くことを得べけれども、これを以て永く戦争を續くることを得べしとは思はれず、故に其永引くは假令歐洲列國の干渉なしとするも、猶且つ兩國の不幸なり、况んや或は其憂ひあるに於てをや、彼等は今日の所急に干渉を敢てするの利害を有せず、露佛の意向に就きて風説する處も恐らくは訛傳なるべけれども、兎に角永く續く時は、如何なる困難を生ずるやも知るべからず、又兩戰闘國の孰れにせよ、力の不足を感ずる時は、歐洲列國の内便宜の國に向ひて同盟を申込むまじとも限らざるべし、而して支那若し結局の勝利を得る時は、恐らくは日本に償金を要求し、且つ幾年かの間は歐洲の諭告を受けざるべし、之に反して日本若し勝利を得れば、茲に一新國を生じて北太平洋の均勢を維持せんとするには、既に列國各巨額の費用を擲ち、艦隊の備へあるが上に、一層巨額を支出して之を増加するの止むを得ざるに至るべく、且つ又日本は一時興奮して益、冒險の心を起し、容易ならざる大事を企てん爲め、或は歐洲の大國と堅固なる同盟を結ぶとあるべし、果して然らば歐洲

各國の爲め一般文明の爲めに利益と云ふべからず。尤も日本が東洋諸國の謀叛心を増長せしむべしとは、何人も信する所なり。即ちボルネオの英領の如き、諸植民地をして統轄に苦しましめ、暹羅の如き亞細亞の諸國をして戦争を事とするに至らしむべし。

加之、日本が勝利を得る時は、支那の未來に最も恐るべき結果を生ずべし。即ち西藏支那、トルキスタン、滿洲等は必らず其管轄を脱し、支那本部も亦四分五裂の有様となるべし。是等諸地方の一國として支配さるゝは、既に數百年來のことにして、支那が一種の人類より成立つと稱するは、一方より云ふ時は事實相違なければ、其南部と北部は平生決して親密なるものにあらず。湖南の如く殆ど獨立の實ある地方もあり、動もすれば叛を謀る者ありて其勢ひの強勢なる長髮賊の亂を見ても明かなり、幾百萬の人を殺し、十四年の歲月間を騒がしたるは、一は南北の和合せざる處より生ぜし者にして、僅に外國の武人即ち米人ワード英人ゴードン二將軍の力によりて平定するを得たるものなり。之に依りて見るも、一般の人民は滿清政府に心服するものにあらず、たゞ衆寡敵せずと信するが故に抵

抗せざるのみ、中央政權の全國に及ぶは有名無實なるを知るべし。而して滿清政府は假令敗北するも其政體を變ずるを肯んせず、即ち文權のみを以て支配せんとの心は、何人も之を改めしむる能はざるべし。然るに李鴻章の歐式兵は十萬に足らず、其兵全く敗走すれば、恰も先年ワード將軍が兵權を托せられし時と同様の政府となり、第一には朝廷に對する叛亂起り、第二には各地方一般の官吏に對する叛亂起らん、既に無政府の有様となれば、支那本部百五十萬方里は面目を一變して、各地皆獨立し、幾年かの騒動は從來の貿易をさへ殆ど中絶せしむべきが故に、今の秩序を以て平和を維持し、大に商賈の發達するものと比すれば、實に偉大の相違なるべし。故に英國にもせよ、露國にもせよ、或は又佛國にもせよ、是等諸國の政治家が兩戰鬪國に勸告し、穩當なる約束を以て和を講せしむるの機會を得ば、成るべく速にその方法を求むること、最も得策と云ふべけれ。勿論今日は尙その時にあらず、如何となれば支那は未だ其敗を曉る能はず、日本は戦勝に激してしかもその熱度尙甚だ強ければなり。さりながら長く續く間には、其勸告を容るゝの時あるべし、一箇月幾程の兵士を減するか、今日の割合未だ知る能はざれ

ども追々内地に進むに従つて其數を増すべきは疑ふに及ばざることなり、而して僅か一島嶼に據るの國は、永く其滅兵に堪ふる能はざるべし。尤も歐洲諸國の海陸軍とても同様なれども、兎に角に日本が突然偉大の功を奏するならば、遂に道理に耳を傾けて承諾するに至るべし。

尤も我輩は大に兵力を用ひて干涉すべしと云ふものにあらず、今日の場合には未だ干涉すべき理由を有する者一國もなく、而して兵備に就きて考ふるも、露國は未だ陸軍を用意せざるが故に、運動の準備あるものは唯英のみ、殊に突然大に運動して干涉するが如きは危きことなり、如何なる大事を引き起すも知るべからざるのみならず、兩國の人民は必らず其國を惡むべし、而して何れの惡みを受くるも得策と云ふべからず、されば歐洲列國聯合するにあらざれば、脅迫はなすべからず、然るに聯合は到底行はれざることなれども、外交政略の上に於て從來の失敗にも拘らず、遂に目的を達するの期あるべし、而して其期甚だ遠からざるべし、其時に至れば勿論日本は相當の報酬を受けざるべからず、さりながら朝鮮の安固を與ふる事は不可なり、其半島を得れば支那の爲めに常に憂ひとなり、假令約

束を以て一時は平和に復するも、再び破裂してしかも今度は一層危險を生ずべし、兎も角も兩戰鬪國が稍疲勞を感ずるに至れば、和議は行はれざるべからず、而して其期は日本の勇敢に驚きたる英人の想像するよりも案外早かるべし、外國への進軍は毎日其人數を損傷すべく、而して百哩外の島國より之を補充するは到底間に合はず、よし又補充し得るとするも、勞力と費用とを要する點に思ひ到らざるべからざるなりと。

日本の勝利に伴へる其實力の表現は、嘗に諸種の仲裁觀を生みたるのみならず、開戦當初の豫期に反したる結果として、シカゴ・レコードの如きは下の如き言をなせり、曰く、今回の戦争に就きて最も豫想外の出來事は、過日來日本軍が連戦連勝の勢ひを以て滿洲の支那兵を縦横に驅逐しつつあるの一事なり、蓋し日本は最初の數戦には勝を占むるの實力を有すれども、愈支那帝國が其無盡藏の富源を開放して、國中の諸所に屯在せる幾十萬の大兵を續々繰出すときは、流石の日本も力盡きて退却せざるを得ざるべしとは、開戦のはじめより局外傍觀者の口を揃へて豫言したる所なれども、今日までの成行を見れば、此豫言は全く事實に

中らざるものゝ如し、支那帝國が戰鬪の材料に富めることは、彼が屢、援兵として大軍を戰地に派遣したるの事實に由つて明かなれども、如何にせん、これまでの實驗に據れば、彼の出兵は唯徒に日本をして新勝利の機會を得せしむるの具たるに過ぎず、日本の軍隊は海に陸に戦うて勝たざるなく、攻めて取らざるなく、支那の版圖を蹂躪して、恰も無人の里を行くが如し、而して偶、北京政府の派遣したる新手の援兵に出會することあれば、忽ち之を撃倒し、若くは追ひ拂ふて容赦することなし、しかのみならず、支那の内地には現政府に向つて不軌を企つる不平の徒少なからず、彼等は既に蜂起の徴を現はせり、之を要するに支那の陸軍は目下全く支離滅裂の有様に陥り、其無力無能なることは海軍と異なることなし。此くの如き次第にして吾々は今や、蕞爾たる一島國が自家に十倍する大國を情けもなく打ち据ゑて、其大國が却つて頻に哀を乞ひつゝあるの一奇觀を目撃することとはなれり。聞く所によれば、支那は既に日本に向つて、平和休戦のことを申出でたる處、日本は臺灣島を我所有となしたる上に、二億弗の償金を得るにあらざれば、戦を止めずとの旨を答へたりと云ふ。日本にして若しも果して斯かる請

求を口外したる以上、其聽かれざる間は、彼は決して満足することなかるべし。然りと雖、假令第一回の和議が如何に結局を告ぐることも、この度の戦に日本の最大勝利は即ちかれが全世界より收得したる尊敬に外ならざるべし、これまでは唯其風俗と美術との一種不思議なるを以て、世界に知られたる日本人民は、今や實に其文明の進歩せることを實際に表はしたるのみならず、事に當り非常に勇敢にして能く遠大の侵略策を計畫し、又これを實行するの力に乏しからざるの事實を世界一般の人民に知らしめたりと。

佛國の政論家、フリエリー氏は書をヴェイルレトフに寄せて曰く、勇武なる日本は益、その軍事上の名譽を高めつゝあり、過日來、日本勝利の電報は續々到達して吾々は一々これを記録するの暇だになさ程なり、支那は一撃して日本を屈服せしむるつもりにて戦争を始めたるに、その目的全く齟齬して、今や殆どなす所を知らざる者の如し。人口四千萬の小國は、四億五千萬の人民に打勝ちたり。嗚呼、勇武なる日本よ、苟も文明進歩の主義を奉ずるの人にして、汝の勝利を喜び稱せざるものはなし、今日支那が既に敗北して窮困の餘り、日本に向つて平和を請求し

たる條件なりと云ふを聞くに、如何にも馬鹿々々しくして、逆も日本を満足せしむるに足らず、而して支那の黒幕となりて、竊にこれを助くる者は英國なり。彼は曾て西班牙を助けてサンセバスチアンを奪取したるが如く、又埃及王を助けて埃及を占領したるが如く、今や支那を助けてまた何か得る所あらんと企圖する者なり。英國は日本の勝利を或程度に制限し、其支那より受取るべき償金の額をも英國自ら之を定めんと主張せりと云ふ。果して然らば實に不當の干渉と云はざるを得ず。抑も此度の事件に歐洲諸國が何故に容喩せざるべからざるか、吾々の甚だ理解に苦しむ所なり。支那は自ら其國力をも量らずして、漫に無禮無法の舉動をなし、遂に日本と戦端を開き、今は既に散々に打負かされたる者なれば、日本が其勝利の報酬として、自ら制する所あらんとするは誠に當然の次第なり。支那又滿洲臺灣其他の土地が支那の所有に屬すると、日本の所有に屬すると、英國に取りて如何なる相違ありや。又朝鮮をして日本の保護國たらしむるは、支那の屬邦たらしむるに比較して、英國の爲めに何程の害ありや。又支那が償金十億弗を支拂ふ其時まで、日本をして支那の海港及び税關を差押へしむる事に向つ

て英國は果して聊かにても反對するの權利ありや。蓋し英國は日清戦争に就きては毫も直接の利害を感せざる者にして、従つて之に干渉するの權利を有せざる事明かなり。然るに彼は過般來歐洲及び合衆國を説いて、仲裁の事に賛成せしめ、平和を回復するの口實を以て干渉を恣にし、其結果として支那帝國の一部を得んとに汲々たり。吾々は佛蘭西、露西亞及び合衆國が斷然斯かる不正當の干渉に反對せんとを切望する者なり。支那にして若しも自ら防禦せんと欲せば、國內に十分の人數あり、かれの缺く所は唯氣力のみ、かれは今日他國より救助を仰ぐの必要はなき筈なり、且つかれば好んで戦を始めたる者なれば、運拙くして敗北したる上は、其不運に甘んずべきこと固より當然なりと云はざるを得ず。獨逸は既にその艦隊に命令して、有事の時には英國の司令官の指揮を受けしむることとなせりと云ふ。此一事は即ち英國が三國同盟と利害を共にする第四の同盟國たるの事實を最も明白に證明せるものと云ふべし。英國は既に佛蘭西の敵位に立てるものなれば、これより以後佛蘭西はかれの歡心を求むるの必要もなく、彼の爲めに脅喝せられて無益の心配をするの患ひもなかるべし。吾々はこれまで

専ら世人をして日本に同情を表せしめんことを勉めて聊か功を奏したるを悦ぶと同時に、今後益々日本の正當なる要求を辯護して、以て西洋諸國の兵力の爲めに日本の権利の損傷せらるることなからしめんを期するものなり。目下支那に於て起りつゝある出來事は、毫も歐洲の利害に關係する所なければ、歐洲諸國がこれに干渉するの権利は固よりあるべき筈なし。日本をして其戦勝の利益を十分に收得せしめ、又英國をして假令かれが獨逸及び伊太利の助けを受くることも、最早や世界の大王にあらずとの事實を斷然會得せしむるは、蓋し目下の急務なるべし。

同氏は尙シ、*Journal des Débats* に一論を掲げて曰く、日本の文明は近來大に發達し、其政治、軍事、司法、行政等の組織は、却つて模範を佛蘭西に取り、或點に於ては却つて之に改良を加へたる者さへあり。殊に教育制度の如きは、最も著しく發達し、學校法の未だ行はれざる時に於ける佛國に比すれば、數等の上に位せるものと云ふべし。我國人の能く知る如く、日本は自國の有名なる人物を我國に派遣して、我文學、理學、美術、軍事等を研究せしむると同時に、又佛國より政治家、學者、法律家等

を招聘して、一々之を使用しつゝあり。例へばボアソナード氏の如きは、日本政府の顧問となりて、其法典を編制するに與りて大功ありし人なり。而して我國と日本との交際は、常に最も親密にして、此上に望む所の者あるを見ず。又日本人は鋭敏活潑にして、能く働き能く艱難に耐へ、勇敢に正直に、器用に風流に、勉勵にして才智に富み、水夫としても兵士としても、申分なき人民なり。之を要するに日本人の氣象と佛國人の氣象とは、大に相似たる所あるが故に、或は日本人を稱して亞細亞洲の佛人なりと云ふ者あるも、決して無稽の言にあらざるなり。然るに支那人は日本に比して全く趣を異にして、五千年間更に進歩したるもなく、苟も文明の事と云へば、徹頭徹尾反對するを常とす。しかのみならず、支那は佛蘭西に對して、殊に反抗の實を表はし、現に彼等の海陸軍には、夥多の獨逸士官を使用しつゝあり。以上述ぶるが如き次第なれば、單に感情の點より云ふ時は、我々佛國人は是非とも支那を擯けて日本に左袒せざるを得ず。又此たび日本が支那に對して戦を開きたる其目的は、朝鮮をして支那の制御を離れて獨立せしむるにありとの事實は、吾々をして日本に同情を表せしむるの大原因たるべし。兎に角に人口

僅に四千萬の小國が、四億五千萬の臣民を有する大國と戦つて、之を撃ち破るを見ては、誰か勝者の勇氣熱練を稱讃せざることを得んや。支那は東京に於ける我領地より云へば、隣國にして、而も我が爲めには甚だ好まじからぬ隣國なり、而して世界中何處に於ても、我競争者たる英國は、巧みに支那を使喚して以て我進路を妨げ、種々様々の損害を我に加ふるを以て、今日支那の力を殺いで之を微弱ならしむるは、佛國の爲めに大利益なり。されば目下日本が支那に打勝ちつゝあるは、佛國に取りて得難き幸福にして、日本の勝利の大なる其割合に佛國の受くる利益も亦大ならざるを得ず。吾々が過般の紙上に東洋の極端に於て露西亞と日本と佛蘭西と三國相同盟して以て、英國及び其屬邦とも云ふべき支那を抑制すべし云々の旨を主張したるも、全く此故に外ならず。彼ジョンブルは既にコークハンなる人の口を借りて、例の直言を吐露したり(此人は先年英國官吏の資格を以て、東京戦争視察の爲めに派遣されたるあり)氏は此程英國の或新聞記者に向つて、余の信する所に據れば、朝鮮問題は遂に歐洲全體の戦争を惹起すの恐れなきにあらず、何となれば英國は決して露國をして太平

洋の沿岸に於て大勢力を得しむることを許さざるべきが故に、これが爲め兩國の間に戦争を生じて他の歐洲諸國も自然其争に引入れらるゝことなきを期すべからざればなり。この次第を語りたり、而して佛蘭西の新聞紙が何れも眞面目に斯かる虚喝的の謔語を傳播して怪しまざるは實に驚くの外なし。蓋し吾々の所見を以てすれば、支那の人口四億五千萬は、世界萬國に取りて永久の危険物なれば、該帝國が文明の風に化せられて、恐るべき力を現はす其前に、早く之を分割するこそ上策なれと信する者なり。吾々が日本を愛して支那を疎んずるの理由は、概ね右に述べたるが如く、感情の點より、云ふも利害の點より論ずるも、佛國は日本を味方として是に充分の同情を表せざるべからず、抑も佛國は共有の敵を防ぐが爲めに、既に露國と同盟したるものなれば、今日又同様の目的を以て日本と同盟するに於て何の差支あらんやと。此くの如き日本に對する同情論は、其後數月にして全く變化し、日本の最大仇敵の位置に立ち、清國の最大恩恵者となりたり。列強人士の眼光のつねならざることを以て後戒となすべきなり。今茲に露西亞人の側より見たる觀察點を一瞥せん

か。露國の一高官は英國スタンダード通信員に語りて曰く、東洋に於ける英國の利害が如何に重大なりと云ふも、朝鮮國今後の始末を如何にすべきやとの問題に就きては、露國の感んずる利害の方遙に大なり。若しも日本が目下の勢ひに乗じて益勝ち誇るときは、彼は必らず其勝利に對する賞與を請求するに相違なかるべし。而して日本が第一に求むる所のものは、即ち朝鮮の領土に外ならざるべけれど、露西亞は決して該國の占領を許容する能はずとは余の信する所なり。蓋し我國の爲めに謀りて、支那の如き遲緩なる退歩的の國民をして我國境にあらしむことと、直に日本人と境を接することとの間には雲泥の差違あればなり。然れども假に今、日本が外交上の抗拒を願みずして、遠慮なく朝鮮を占領し終りたりと想像すべし、其時に臨んで露西亞が日本と戦争を開かば、結局我國の勝利に終るべきこと疑ひを容れず。然れども戦争の初期に於ては、日本が既に占領地に集合したる兵力に當るに足るべき兵數を繰出すことは、露國の現狀に照して非常に困難たり、兎に角に我帝國の極東たる朝鮮地方に於ての戦争は我國の爲めに最も苦しくして費用多きを免かれざるべしと。

又一海軍教官は語りて曰く、日清戦争の成行は我露國に關係する事極めて大なり、看よ我渺茫たる西伯利の領土特に黒龍州地方は支那、朝鮮に境地を接し、而して浦鹽斯德并に其近傍居民の日常缺ぐ能はざる食牛の需要は、悉く朝鮮より輸入するにあらずや。故に一朝有事の日に際し、若し朝鮮が露國に向つて食牛の輸出を禁する時は、露國沿岸一帯の地は忽ち最大貴重なる食牛を得ずして、如何ともする能はざる悲境に陥るに至らん。蓋し朝鮮は平時に於て露國に向つて最も有利なる食牛輸出を絶つが如き無稽なる商略を執らざるは必然なりと雖、若し清國の純然たる屬邦となりたる後、清國にして露國と釐を醸したるときは、朝鮮に令し露國へ食牛輸出を禁するが如き策を執るは清人の長所なり。我同胞諸君は必らず銘記せるならん、我露國黒龍沿海州一帯の地は、往時清國の版圖に屬せしを以て、清國は一八八一年以降、常に時機を窺ひ、該地方を全然恢復せんとして銳意計畫せることを。特に近時清國は露國境界線に沿ひ、盛に屯田兵を配置し、堡壘胸壁を増築し、又該地方に向つて鐵道を延長せんとす。この鐵道の如きは、決して商業を擴張するの目的にあらずして、正しく露國に向つて兵威を揮はんとす

るの底意に外ならず。又清國は我領海に屢兵艦を派し、浦鹽斯德港へも往々強勢の装甲艦を以て編成せる艦隊を差遣せり。此くの如きは、決して平和的の舉動にあらず。日本人の我露人に對するや、常に友情を表し、又場合の許す限りは、我に援助する事を努めたり。例へば一八七七年以降、露英の間紛紜を來たし、屢平和を破らんとするの危機ありて、東洋に航する我艦隊は、英艦の爲め困難に陥れられたる事數回、英人は我に優れる堅牢強勢の艦隊にて我艦船の到る處に追尾し、我艦隊の石炭缺乏に困めるを察し、我艦の寄港すべき諸港に蓄在する石炭は、我に先んじて一時に悉く買占めたる等實に我に對して傲慢無禮の舉動を示せり。斯かる際に當つて、日本人は形跡上我に懇篤なる友情を表し、我艦をして諸港内に潜伏せしめ、且つ石炭食料品等を支給し、其厚誼至らざる所なかりき。以上記せる所に就きて觀察すれば、清人の露國に向つて敵意を表するだけ、日本人は我に對し友情を示せるにあらずや、故に露國若し新聞紙大半の所見に遵ひ、今回の日清事件に關し、日本國の政略に妨害を與へ、清國を保護するに於ては如何なる重大の事件を惹起すべきか、これ最も潜心考究すべき問題なりとす。

此朝鮮問題は如何に終結すべきや、素より未だ判定するを得ず。雖若し清國が戰爭に全勝を得て、朝鮮半島を主宰せんか、日本軍兵は必らず朝鮮の地を撤去せざるべからず。然る時は清國は露國に對し、尙一層危険なる隣邦となり、其勢ひに乗じて黒龍州地方恢復の機を窺ひ、侵略策を講ずべし。若し又露國が朝鮮問題に干渉し、日本の政略に大なる妨害を與へ、之が爲め日本は數百年來の仇敵なる清國征服の大目的を達すると能はざる時は、我に向つて日本人の憤恨は、骨髓に徹して我の讐敵となり、一朝我と兵を構ふるものあるときは、日本は必らず我敵國中の一と同盟提携して露國に抗するならん。然る時は我東洋の門戸たる浦鹽斯德港口の前面に横はるかかの連綿たる日本諸島は、殆ど我巡航艦の東洋に出入する通路を扼塞し、恰も黒海艦隊のダーゲネルス海峽、若くはバルチック艦隊のスカゲルオク海峽に於けるが如く、我太平洋艦隊も日本諸島のため其運動を全く遮断せらるゝこと明瞭なり。尙一層我に於て不利なるは、若し日本國にして露國の干渉妨害するに拘らず、戰爭に勝を制し、朝鮮半島を占領せんか、其時に於ては一敵國の上に尙強勢なる日本を加へ、畢竟するに接壤の北隣に二大強國を購求し

たるに異ならず。是に依つて之を見れば、露國は隣邦に危険なる支那一國を有する事に満足し、今回の朝鮮問題に關しては、巧みに計益して最親友邦を日本に求め、之と同盟提携して東洋の大勢を處理するは、最も得策なりとす。要するに此策を實行するは決して難事にあらず、露國は唯日清衝突を終始傍觀し、毫も日本の政略に干渉せざるの一事にあるのみ。然れども朝鮮問題に關し、若し英人之に干渉し、所謂馮水に乗じ捕魚の利を占め、延いて露國に損害を與へんが爲め、日本人を抑壓せんとするが如き舉動あるに於ては、我露人は正々堂々の論鋒を揮つて、飽迄日本人を擁護せざるべからずと。一は日本の朝鮮に據るを有害なりと、一は有利なりとせり。

ア・ミー・エンド・ネビー・ガゼットは曰く東洋より近着の報道は、試に戲言を以て云へば、清國は收縮したる海綿を敲きて之を膨脹せしめ、其措置に困めるものゝ如し。而して日本が其手を收むるの好機到來したりと思へるや否や明かならず、歐米の諸國も敗北したる一方の哀願に應じ、平和回復の爲めに干渉を試みんと覺束なし。其故如何となれば、第一諸國の利害其軌を一にせず、動もすれば相衝突せ

んとするの恐れあり、第二に諸國協心同力事に従ふとするも、後難の萌芽を生せしめ、好ましからざる事態を醸すを免れざればなり。今日の場合、日本に向ひ諸國の意思を強ふるの不可なるは、殆ど一考をも要せざるにして、若しも之を斷行せんと思せば、困難と危険とに遭遇せざるを得ず、同時に清國が危急の位置に迫れるは、明々白々にして、たとひ其四分五裂の慘境に陥るべしとの説に同意する能はずとするも、其危急に迫れるは之を認めざるを得ず、と言へり。倫敦タイムズは一面より日本の立場も亦決して安固ならざることを痛論し、しかも干渉の容易ならざるを切言せり。曰く、人氣の熾なるは甚だ愉快なる時代なれども、悲しむべし、其後には失望落膽の時代至らざると殆ど稀なるを、既に此戦争の名を聞き、未だ適當なる報告を見ざるものは、日本の取りたる方針の良否に對し疑ひを抱くに至りしが如し。思ふに數週日の内に更に多數の人は、其事業の初め一見したるよりも實際上甚だ困難なるを悟るに至るべし。其始め日本軍が能く功を奏し得べしと想像せられたるものも、今に至りては一も其目的を達し得べしと思はるゝものなく、且つ鴨綠江に於ける日本軍の戰鬥力は、著しく強大なるものと誤

想せられたり、日本軍が平壤の一戦を以て其進路を一掃したるは事實なれども、其進路を一掃して支那人を追ひ拂へる事、鴨綠江に強大なる軍隊を屯せしむる事は、實際に甚だ縁遠き事なり。日本の先進軍隊が重大なる砲隊を備へ、且つ國境を守る支那兵を打破すべき戦闘力を有するにあらざれば、少くとも奉天府を陥るゝの望は甚だ覺束なかるべし。目下の状況にては、日本が既に其位地の困難に打勝ちたりと信ずるは、殆ど謂はれなきことにして、殊に日本軍隊の寒氣に堪へ得べき時日は、今や残す所甚だ短かし。北京襲撃の如きは始めの程こそ愉快なる夢の如くに承認せられたりしも、今は北京防禦の爲め大兵を募集するの要さへなきが如きに至れり。又日本が鴨綠江沖の海戦以來、握り得たる海上権よりも、尙一層完全たる海上権を得るにあらざれば、臺灣の侵略は到底實行すべからず。又旅順攻撃の風聞は、屢耳朶に觸るゝ所なれども、これ亦中々容易の業にあらず。それ失敗は時の何れを問はず、甚だ不幸なるものたるは論を俟たず。雖、初冬に於ける失策即ち日本艦隊の今日の如き有様に於ける失策を以て、其最も甚だしきものとなす。思ふに是等の諸計畫は一として今月中は固より、日本軍の運

動に堪ふべき日限を今六週間ありと見積るも、其内には成功する事を得べしと思はるゝものなし。且つ吾人の察する所にては、日本人民は其艦隊運動の比較上、頻繁ならざるを見れば、皆日本海軍を以て沮喪したるが如く感ずるに至るべし。斯くして所謂支那の頑冥を懲らすの甚だ困難なるを悟り、當時皆當然なりと思考する所の要求額を漸々減少して、遂に戦争終局の道を開くに至らん。日本人が漸く經驗を積み、以上の如き安全なる方法を知るに至る迄は、外國の干渉はたとひ好意を以てするものと雖、反省を促す事を期すべからず。固より中立諸國の利益を害する事少なからざるのみならず、目下の状況にては、交戦國の何れも其損害を償ふべき利益を得る事の甚だ覺束なき無益の戦争に終りを置かん事を希望するの點に於ては、世界の文明國たるもの一として異論なかるべし。以上の範圍内に於て、各國皆説を同ふすると疑ひを容れずと雖、其實一致は餘り要用の一致にあらず。然れども兩交戦國が自ら諸強國に依頼するの甚だ良策なるを發見するの日は、將に來らんとして、而も其日は甚だ遠からざるが如し。只今日は未だ其日にあらずと云ふのみ、是迄も他の諸強國は吾人と同じく平和の

恢復を望みて、其時の熱せざるを願みず、徒勞に過ぎざる一致の運動をなさん事を望むが如しと雖、たとひ兩交戦國が心竊に平和を欲するに至れるも、猶諸國合同の干渉は到底實行すべからず、又希望すべからざる所なり。何となれば彼等は全體の主義に於て一致するも、其利害は各自皆趣を異にするを以て、各國胸中に不服を抱く事なくして悉く同意すべき方策を立つるは、甚だ困難なる事なればなり。况んや斯かる方策は必らずしも彼等の勢力を維持するの良法にあらざるに於てをや。されど若し交戦國が共に心に平和を欲して、只感情と外面の形式の行違ひより互に相敵視する如きあらば、此時こそ親交諸強國の盡力を要する時なれば、同盟干渉又は同盟仲裁は兩國の感情を制せんとして、却つて之を促すべき壓抑、若くは道徳上の壓制を試むるの疑ひを生ずることあるべし。又更に兩國の間に感情の外實體上の不和ありとすれば、合同運動は益、實行すべからざるものとなり、且つ益、壓抑等の汚名を受くるなるべし。

旅順陥落前に於ける時期に一線を劃すれば、大體に於て以上の諸觀察が殆ど代表的のものたるを見るべし。而してこゝに特に注意すべきは、此時期に於て已に

日本の勝利に對し嫉妬の餘銜の現はれ來るべき兆候を存することこれなり。米國桑港クロニクルの一論、之を證するに至れり。即ち目下の狀況にては、日本が一時其戦勝の勢ひを挫折せらるゝか、或は寧ろ大に敗北する方、東洋全體の爲めに謀りて利益なるべし。蓋し日本が今日其陸海軍を有するは、恰も子供が豆鐵砲を持つものに異ならず、自ら防ぐの術なき者に向つて發するときは、豆鐵砲も甚だ恐るべき武器なれども、若しも誰にても出で來りて其豆鐵砲を二つに敲き折り、子供を十分に鞭撻するものあらば、始めて事の眞實の情態を知ることを得べし。日本をして制限なく進歩せしむるは、世界の平和の爲めに聊か危険なり。かれ日本人は其新に得たる文明をば非常に誇稱せり、彼等の多數は中心より日本は今後必らず文明世界の大大勢に影響を及ぼすに至るべしと確信せり。されば彼等にして若しも首尾よく支那を屈服せしめたらんには、必らず又他に征服すべき國土を求むるに相違あるべからず。其時に臨んで彼等の相手が、若しも歐洲人或は米國人にてあらんには、彼等は如何に手厳しく打懲さるべきか想像するに餘りあり。故に日本にして果して眞に自家の利害を知る者ならば、今回支那に對し

て得たる勝利を以て満足するに如かずと冷評せるを見るべし。

乙、旅順陥落後に於ける彼等の觀察

已にして旅順の堅塞陥るや、彼等の觀察は變化の度を加へたり、十二月三日發上海電報は歐洲諸國の驚愕を急報し、歐洲諸國より達したる電報に依れば、日本軍が旅順の險要を占領したる一事は、歐洲諸國の人心に非常なる感覺を與へ、此日本軍の大勝利は一般の驚歎を招きたり、日本は已に強大國の列に入り、其陸軍及び海軍は兵學上最強國と同等の者たることは、諸國の既に承認する所なりと言へり、此頃、に於ける佛人の喜悅の如きは殆ど意外の感あり。

有名なる巴里の新聞、ブチー・ジュールは旅順の陥落に就きて、論評を試み、日清兩國の開戦以來、世人はみな日本の勝利を期したるが中にも、佛人の如きは一層其必然を期し、戦報の達する毎に喜悅を表したる折柄、茲にまた旅順口陥落の報に接して欣抃雀躍、吾人の喜悅は實にその頂上に達したり、歐風に訓練され歐風に武装されたる日本軍は、所謂恐怖の發電機を支那人の頭上に装置したるものなり、吾人の喜悅は何ぞ之に加へん、蓋し我輩が斯く日本軍の勝利を無上に喜悅

するは、先年東京に屍を曝したる我同胞の爲め復讐するを喜ぶなり、而して其復讐は特に我輩の望む所に達せんとす、何となれば日本人は旅順の陥落を以て戦争の終局とせざるべければなり、又此勝利を以て亞細亞に蟠まる前世界の妖怪退治の手始めと吾人は認むるなり。

日本人は既にかゝる功績を顯はしたる上は、敢て躊躇すべからず、進んで陸海軍の全力を以て北京は云ふも更なり、速に其南部福州地方をも攻撃占領すべし、これ佛蘭西全國の擧つて日本に望む所なり、日本の勇將猛卒よ、武力によりて占領したる都市城廓は、請ふ飽くまで之を占領して、更に一步も譲るべからず、日本國民が清國の各要地を占領したる曉には、亞細亞に於ける文明進歩の度を一足飛びに三世紀程早からしむるものなり、而して文明進歩の最も著しき東洋の一國が野蠻退歩の最も著しき他の一國を征伐するは、世界の人類に恩恵を垂るゝものにして世に珍らしきことなり。

嫌惡すべきよりも寧ろ恐るべく、實に世界各國の共に齒ひすることを耻づるかれ清國人は、世人をして決して攻撃する能はざる者と承認せしめ、佛國の如きは既

に數回嚴罰を加へたれども、今日目前に見るが如き愍然なる無能無氣力とは未だ信せざりき。小軀なれども日本人は、實に世界の人口に膾炙するかの詩句即ち風聞は果して虚を傳ふるか、はた實を傳ふるかと云へる一句の味ひあることを曉らしめたり。

實に日本の戦功は、清國に統一の權能なきこと、及び國家を維持する資力、軍事上の能力共に皆無なることを知らしめたり。潤袖の衣服に美麗なる紐釦を附して己れの非を飾る清將は、一發の砲聲に心膽を奪はれ、忽ち逃走するもの多きを知らしめたり。其他所在の軍を統率する統領は、暴戾なる盜賊にあらざれば、收斂瀆職の奇怪なる一團たることを知らしめたり。是等の怪物は恰も粘土を以て兩脚を製したる銅像の如く、日本人の武勇に對しては、殆ど我輩の想像にも及ばざる速力を以て逃走せり。

熱案するに、我安南の境上を屢屢がせし清國海賊の一團は、甚だ猛惡なる戰士を以て組織されたるものと如く、既に我將校も彼等は戦ひを知るものなりと稱せり。然るに一團の内に於ても他の一隅は毫もこれに類せず、我輩の怪訝に堪へざ

る所なり。たゞ清國の廣大なるを驚くの外なきのみ。蓋し十九世紀の終りに於て、世界の二問題は満足に解釋されたるものと云ふべし。即ち混沌暗黒の亞弗利加及び支那二大陸は、歐洲人努力の餘澤を以て開放されたり。素より支那大陸は今日直に瑞西の湖邊、ピレネの山間に遊ぶが如く、容易に漫遊を企つべからずと雖、日本にして若し其勇敢なるが如く、外交の政略にも巧みなる以上は、必らず見事に終局を結ぶべきが故に、其力を以て此怪物を殲じ、巢窟を開發するも蓋し遠きにあらざるべし。元來此戦争は日清兩國の格闘なり。されば歐洲各國は勿論亞米利加諸國と雖、其間に一言の容喙を許さず、又容喙すべき謂はれなし。日本大元帥陛下は親しく北京に臨御あらせられ、叙慮のまゝに全清國の區劃を詔らせ給ふとも、誰れ一人として、かれこれ申上ぐるものなかるべきを信するなりと極言せり。

此種の放漫なる諛辭は數ふるに遑あらず。此場合に於ける日本に對する米國方面の輿論の一半は、紐育ブレスの論する所に就きて窺ふを得べし。同新聞は日本が東洋の表面に新國として頭角を現はせし一事は、十九世紀の將に逝かんとす

る歲月の中に起りし所の最も記憶に存すべきことと證明せられんとす。日清間の戦争は最も非常なる革命を完全ならしめんとする事件にして、此革命は亞細亞の状態と運命とを動かせしむる百餘年前の佛國革命が歐羅巴の制度と運命とを動かせし如く、十分の力を示せしものなり。佛國に於けるが如く、日本に於ても成功の見込ある革命の要素は、睡眠の形に於て存在し、唯人と事情とが之を搦破して活潑の働きをなせしむる秋を待ち居たるなり。畢竟するに如何に徹頭徹尾抜目なき教誡を以てするも、ペルシヤ人は決してスバルタ人たるも能はず、如何なる刺撃、如何なる訓練を受くるも、支那人の性質は日本人をして亞細亞洲中、拔群の帝國たらしめし所の心質に發育すること能はざるなり。日本人は逸たる太古より武邊の省愼ありて愛國の心深く、敢爲勇行なる人種なり。之に反して支那人は兵士の職務を以て、唯ゴロツキ及び科人にのみ適したるものと心得、而して愛國心は支那語の中に解釋なき所の情操たり。日本人は西洋の方法及び軍器が彼等の年來、馴れ來りし所のものに勝れることを見るに敏にして、支那人のなせしが如く頑として祖先の道に固着するをなさず、即ち帝及びその臣僚は苟く

も日本の國狀を進めて近代の進歩改善の域に至らしむるものと算定されたる改良なれば、孰れも銳意熱心に採用したり。教育、司法、財政及び陸海軍の制度は歐米の諸制度を綿密に研究し、之より抽き來りし形を臺として總て皆新規に作り替へ、人民をして事物の新秩序に全然順應せしめんが爲めあらゆる盡力をなしたり。幸ひにして日本には宗教癡の征服を要する者はなかりき。即ち人民の宗教は曾て干渉されず、日本國民は耶蘇教國の文明を採用せんが爲めには、耶蘇の教法を採用せざるべからずとの命令にも接せざりき。日本の治者は束縛せられざる良心、即ち束縛せられざる心を有せり、故に凡そ如何なる教法にても、強迫して之を奉せしむることは主として偽君子を生せしむる刺激たりとのことを認めたり。この故に總ての種類は寛許され古より傳來したる國教は獎勵されつゝ、旭日の士には良心を強迫するの形跡更になじ。

凡そ二十五年來、日本は新制度の下に支配されたり、國民の勢力を注ぎたるは獨り帝國の海陸軍養成のみにあらず、則ち日本の成長は凡ての事に向ひたるものにして、日本が世界に向つて發表する商賣及び實業上の勢力の證左は、今回の日

清戦争に示したる其力量と富源との實地説明の洪大なるに譲らず、凡そ四千萬の結束したる人民と効力の點に於ては世界第一流に位する海陸軍とを有し、富源豊饒にして其人民には實業上、獨立自活の國たるべしとの決心ある日本諸島は、事苟くも人類全體、殊に亞細亞大陸の利害に關する問題に於ては、今後決して蔑視する能はざるなり。大英國は其東洋に於ける威望の幾分を殺ぎ取られんとするを見て、心も心ならず、痾癢を起すべし。雖、英人は勇氣に於ても、決心に於ても、又其頭數に於ても、自家に劣らざる國民を挑みて、是迄の亞細亞の戦争とは甚だ異なりて勝敗の數或は甚だ異なる結果を生ずるやも知れざる所の戦端を開くを、敢てせざるべし。亞米利加人はクリーヴランド政府が、政界の總ての方角に於て英國の利害に阿諛するにも拘らず、胸襟を開きて日本を文明國の仲間に歓迎すべし。倫敦及び聖彼得堡に於ては憂ひを含み、其他の諸首府に於ては心留めて質問されたる所の問題は、即ち日本が如何なる方針を執るの傾向あるやと云ふと是なり。之に對する答は日清戦争の決定さるゝ或日までは明かなるを得ざるべし。然りと雖、既往の日本の政略は、彼が今後、多分實行すべき所の運動を

指示するものとして可なり、即ち日本は是まで海外領地を擴張せんとするの意向を示したり。今を去ること二十年前、日本の新文明なほ幼稚の曉に於て、彼が第一着になせし仕事の一は、支那に迫りて琉球の日本所屬を認定せしめしことなり。日本は又西班牙とカロリン群島の所領權を争ふべしとの意志を示したり。而して日本政府は此一條をば支那を征服したる後に落着せしむべきものとして遣し置けるが如し。臺灣島は日本が垂涎する所の戦利品たり。蓋し島民の中には日本人の子孫さへありて、日本人は難破船の日本水夫を謀殺せし所の蠻民懲罰の爲め、一八七四年に於て軍隊を臺灣に派出したり、この故に若しも日本が支那に向つて臺灣の讓渡請求を主張し、以て面積一萬五千平方哩にして現存の數より遙に大なる人口を支ゆるに足る所の亞細亞近海最良島の一を帝の有たらしめんとするも驚くべきにあらず。日本は朝鮮をば儀式上、獨立國として取扱ひ、其實これを統御すべきこと勿論なりと論じたり。

又デーリー・アルカス(英人)は、近來日本が文明的戰術に迅速なる進歩をなしつつあるに就きては、其影響を蒙るものは、皆に支那人と濠洲にある我同胞のみな

らざるなり、支那征伐の戦に日本の勝利は最早疑ひなし、又假令支那が如何に歐洲諸國に訴ふる所あるとも、日本は更に頓着せず、斷然自家の心に適當なりと思ふだけの報酬を要求するに相違なかるべく、歐洲諸國は皆これを以て勝者たる日本國の權利なりと認むるならん。如何となれば彼等が地を易へて今日の日本と同様の境遇に居る時支那に對して必らず拒絶すべき其條件を日本に向つて承諾せしめんとし、數國聯合して之を強ふるが如き無法の處置に出づることなかるべければなり。されば日本の驚くべき發達の影響をば、歐洲殊に英國が直接に感ずる時は、戦争の濟みたる後にありと知るべし。抑も吾々英國人は二三十年來保護貿易なる障害物の爲めに諸文明國に對する商賣の路をば大に狭められ、今唯東洋の市場のみを目的として、我製造業を維持する有様なるに、然るに今回戦争の結果として支那帝國の全體が外國貿易に開かるべし、此一事は日本政府の支那に對する要求中の一なりと聞く、と同時に、吾々は思ひ掛けなくも茲に最も恐るべき商賣上の競争者と相接せざるを得ざることとはなれり。是まで世人は動もすれば日本人を輕蔑して、單に西洋の眞似する者となし、其性質の輕卒にして

徒に變化を好む處、恰も小兒に異ならずなど稱して頻に嘲弄するものなきにあらずりしかども、吾人は嘗て斯かる説に同意したる事なし。蓋し日本人が創造よりも寧ろ模造の力に富めること、事實に相違なきが如しと雖、彼は物を模造するに當つて、必らず最良の手本を撰ぶの常にして、今日既に世界中最上の文明國を手本としたる上からは、かれは容易に此手本を放棄することなかるべし。日本皇帝陛下の政府が國家の進歩發達を謀るに熱心なるは、今更云ふまでもなきことにして、今回の戦争に日本軍が若々勝利を得るも畢竟するに、かれが熱心に戦争の技術を學んで怠らざりし明證として見るべきものなり。然るに日本人は嘗に戦術のみならず、平和の技術に於ても亦歐洲諸國を模範として驚くべき進歩をなせるの證據甚だ多し。日本皇帝陛下の目的は日本國をして東洋の英國となし、軍事に於ても又工業上に於ても、世界の一大強國たらしめんとするにあること疑ふべからず、これを即ち日本の發達が、大英國未來の繁昌の爲めに甚だ恐るべき危險物たる所以なり。數年來文明國の工業にして、日本に植附けられたるもの甚だ多く、何れも尙幼稚の時期にあれども、支那帝國の版圖にして一たび外國

貿易の市場となるときは、是等の工業は必らず非常の刺撃を受くるに相違なく、且つ又其刺撃は支那の當に拂ふべき賃金の注入に助けられて、尙一層の効果を現はすべし。抑も日本人が百般の手仕事に巧にして機轉に富み、勞力を厭はずして報酬の薄きに満足するとは、世人の普く熟知する所なり。吾人の聞く所に據れば東京、京都、大阪等の大都會に於ても壯年男子一日の賃金は六片乃至二志四片の間にあり、婦女の賃金は一片半乃至五片、少年の賃金は男女共に大人よりも頗る安直なりと云ふ。また日本にて普通の労働時間は十二時間なれども、中には職工を交替せしめて一晝夜、寸時も休まざる其上に、日曜日にも平日の通り營業する會社あり。最近の調査に據れば綿糸に關する製造業に従事する職工のみにても、全國を通じて其數二萬二千以上あり、而して彼等の労働する工場にては何れも最近の發明に係る英國製の器械を使用し居れり。現にポルトンにては日本の新工場に用ふる器械の注文を受け、盛に其製造に従事しつつあり。右の如き次第なれば、日本は東洋商賣の競争者として英國の爲めには、最も案外にして、又最も恐るべき敵手たること喋々を俟たずして明かなり。就中かれの最も得意とする

點は其位置の勝れる事、人民生活の費用少なき事、安價なる労働者甚だ多き事、工場取締に關する窮屈なる法律なき事、人民一般に機轉に富み仕事に巧みにして且つ風流の氣品ある事、東洋諸國と通貨の本位同一なる事等なり。目下我製造業中にて眼前日本の爲めに蠶養せらるゝの恐れある者は綿糸に關する事業なれども、今後十年間には他の製造業とても如何なる境遇に陥るや計り知るべからず。今や日本は既に英國と對等の條約を結んで、公然大國の仲間へ込まれたれば、是より以後英國の資本は續々日本に注入され、英國の企業者は内地に入込み、安價なる労働者を利用して種々の製造業を起すに至るべし。近來英國にて一種の論者が漫に資本家を敵視し、あらゆる手段を盡して、之を攻撃する。其一方に於て、政府も亦労働者の投票を得んが爲めに、種々様々の法律規則を設けて實際に行はるべからざる空理空論を實行せんとし、是が爲めに個人の權利、自由を毀損することをば毫も憚らざるが如きは、英國の資本及び資本家をして外國に赴かしむる一大原因と云はざるを得ず。蓋し商賣なるものは、架空の主義理論などによつて左右せらるゝものにあらず、其頼みとする處は、唯有形の事實あるの

み。然るに不幸にも目下の大事實は、即ち英國が今日まで其製造業の最良得意と認め來りし東洋の市場をば、日本の爲めに突然奪ひ去らんとしつゝあるの事なり。實に今日の事態は容易ならざる次第にて、平素勞働社會の利害に重きを置くなど自稱する人々は、此際大に救急の策を講せざるべからずと、吾人は敢て勸告する所なりと、所論稱讚に次ぐに恐怖を以てするに至りたるを見るべし。殊にジャバングゼットの如きは、時に歐洲諸國の干渉を招致せんと試むるものゝ如かりしなり彼の所論の要旨に曰く、

日本は既に諸外國公使の最も伶俐にして敏腕なるものさへ察する能はざりし所のもの、即ち支那帝國は單に獅子の皮を被れる一驢馬に過ぎざることを看破せり。歐洲の外交家は只月俸に衣食し、上官の命令は一も二もなく服従するを以て足れりとせり。然るに日本は大に然らず、外面の如何に眩せられず、能く内情を探り得て支那の己に腐敗したるを知り、陰かに時の至るを待てり。其間日本は諸外國の遠く及ぶ能はざる巧妙の方法を以て間諜を放ち、支那の形勢を窺ひ、且つ地勢を調査し、海灣の深淺を測量し、砲臺を圖寫したり。是を以て見る時は日本は

昔に斯くの如き方法を支那、朝鮮の二國に行へるのみならず、必らず之を香港、新嘉坡、印度等にも行ひつゝあるや明かなり。且つ若し日本にして其國勢益々盛なるに至らば、遂に西比亞其他の地方にも此方法を施すと云ふべからず。何となれば旅順口の占領は、天下に、此自尊にして膨脹的國民が其熱練にして、而も死を見ること歸するが如く、戰を好むこと常業よりも甚だしき軍隊を率ゐて、東洋の天地に跋扈せんとすることを示せる者なればなり。斯かる大勢力は、誠に世界の恐るべき恐嚇者と云ふべきものにして、若し日本の新聞紙を一見せば、直に其極めて侵襲的のものたるを知るべし。是に於てか歐洲諸國が一考すべき諸問題は起り來る。日本は其欲する所如何なる條件にても之をなすの權あり。或は日本は我々の友人なり等の語は、新聞記者の慣用する語調なれども、若し之を一轉し支那をして勝者の地位にあらしめば如何、必らずや全く其事情を異にするものならん。然れども此戰は一個の廣告且つ膨脹的のものなれば、歐洲諸國は是によりて斯かる勇敢なる國民は何れの度迄其國境を弘め、以て其蠶食力を逞うし得べきやを考察するの機會を得たり。友義、友情等の語は、只是一時の世辭にして、今

英、佛、米及び獨、露の諸雜誌は皆異口同音に「日本は我が親友なり」と呼ばざるものなし。然れども今日の政事家は、必らずしも明日の政事家を制し得べき者にあらざる。看よ五十年前は英佛同盟して露國に抗したりしも、今日は佛露相結んで英を制せんとしつゝあるにあらずや、日本は驚くべき敏腕を以て支那の内情を洞察し、愚昧なる英國外交家を玩具視したり、然らば遂には其敏腕は能く歐洲諸國を離間するの力あるやを知るに足るべく、その未だ生長せざるの時に及んで是を剪断せんか、將其欲する所、取る所に任じて以て其陸海軍を膨脹せしめんか、日本の南方には豊饒なる島嶼相連り濠洲も亦甚だ遠しとせず、故に其植民地が僅に三箇月間に支那の大帝國を蹂躪せる一強國に隣するは、實に患ふべきことなり。日本の要求條目は定めて重大なるものなるべく、少くも臺灣及び金州半島を得、且つ朝鮮の實權を握らんことを要求するなるべし。事若し爰に至れば歐洲の砲銃製造家、造船家は互に争ふて日本の注文に應じ、五十年にして英國の如き大艦隊を見るに至らん。日本は實に實力權利なる福音を傳へつゝあるなり。歐洲の諸強國は手を束ね甘んじて其地位を承認せんか、將汝が是だけをなすは可なり、

然れどもこれより多くをなすなかれと云はんか、今日これを決せずんば十年の後には更に決し難かるべく、更に二十五年を経ば遂に決すること能はざるに至らん。然れども如何に英露は其艦隊を増加するも、日本の莫大なる要求を拒むべきにあらず、日本の勝利は實に勇斷者をして不果斷ならしめ、不果斷者をして臆病ならしめたり。然らば強ひて今日之を決せんよりは優柔不斷之を子孫の責任となすは、今日の政事家に取りて大に便宜なるとなるべし。吾人は實に今日の結果は此くの如きものなるべしと思ふなり。縱令英國政事家は能く此危險を知ると雖、之に干渉するの勇なかるべく、また露國が干渉するの時機は未だ熟せず、故に吾人は日本が漸々其土地を弘め、ビットの時の英國の如く自由自在にその權を振ひ、其海陸軍を擴張して遠からず一大強國となるを傍觀せざるべからず。歐洲權力の平均は數百萬の兵を蓄ふるの必要を生せしめたるのみならず、又東洋權力平均の問題は生命の危險を加へ、且つ更に強大なる海軍の必要を生じたり。誠に日本は大に自ら祝賀して可なり、其多年精勵の結果は、今や既に黃熱して全世界は皆これを羨望し、其親交を得んことを望めるにあらずや、若し日本をして徒に

平和に安んせしめば、或は只其美術の巧緻、禮容の優美、天候の晴朗なる土地として空虚なる名譽を保つに過ぎざりしならんのみ、何を以て今日の大名を博するを得んやと。

此時に方り英國一部の論者には、かの戦事の當初、日本に對し無感覺なりし英國の論者中には、なほ頗る鹵莽突飛たるを免れざれども、日本との同盟を德憑せんとするものさへ生じたり。英國毎週記者の如きは、近來世上に風説する所に據れば、英國政府は歐米諸國と相謀りて、日本をして、其勝利の報酬を得せしめざることを勉めつゝあり云々と、此風説の虚報ならんとを切に希望する者なり、何となれば目下東洋に於て唯一の活潑力ある文明國民をして、我反對者たらしむるほど、英國の爲めに不利益なる政策なかるべければなり。日本人は全く自家の實力に由つて此度の戦に勝を得たる者にして、彼等は實に我朋友として、又同盟として最も適當なる人民なり。此度列國中にて仲裁談を發議したる者は露西亞なりと聞く。吾々は英國政府が決して斯かる危険なる陷阱に近づくなからんとを偏に勸告せざるを得ず。日本人は鋭敏にして才智ある人民なれば、若しも英國が其同

盟者となりて、補助を與ふるとあらんには、彼は必ず悦んで之を承諾し、英人の好意を感謝すべし。之に反して支那の頑固なる人民は、國家的の觀念に最も乏しきを以て、假令英國が之に向つて如何に好意を表すとも、彼等は更に我恩義に感ぜざるのみか、或は我國が折角彼等の利益を謀りて、實施する事柄の意味を了解するの明さへなかるべし。ジョージ・カルゾン氏は其近着「東洋の問題」中に、露國が支那の北境を窺ふの模様を記して、今日トルキスタン及びバミールに於て支那の邊境を脅す者は露西亞なり、チベットに於て人知れず常に蠶食に忙しき者も露西亞なり、滿洲に注目して隙を窺ふ者も露西亞なり、朝鮮に垂涎する者も露西亞なり、而して目下亞細亞の大陸に一大鐵道を敷設して支那の北境三千五百哩の何れの點に向つても咄嗟の間に大兵を繰出すとを得るの用意をなしつつあるも亦露西亞なりと論述せり。然るに茲に不思議なるは、カルゾン氏を始めとして、其他の論者中に一人として過ぐる十五年間に日本の文明と兵力とが如何に増進して、これが爲めに東洋問題に如何なる大影響を及ぼすに至りしかを眞に了解する者なきの一事なり。日本が過般來の戦争に現はしたる勇氣と實力とは、彼を

して北東亞細亞に於ける露西亞の侵略を防止するの保障たらしむるに最も適當なり。日本は露西亞の好敵手にして、彼は之と戦ふことを恐れざる者なり、日本は露西亞に對して朝鮮を持するの力あれども、支那には其力なし、又日本は露國をして版圖を南方に擴張せしむるときは、自家の前途に大害あるのみならず、現在に於ても危険少なからざることを承知せり。されば日本は露國の侵略を防禦する眞の保障にして、英國の爲めには天然に定まりたる同盟國なりと云ふも可なり、日本人は英國人と同じく島國に住し進歩自由の主義を好み、海上に力強く商賣に巧みにして、物事を速に覺るの能あり、又冒險の氣象に富み活潑にして勇敢なり、又日本は英國人と夥多の點に於て利害を共にする中にも、露國を敵として之に備ふるの一點に於ては、兩國の利害に些少の輕重あることなし。此くの如き次第なれば、今日我國政府の取るべき政略は、速に日本に熱談して双方の間に氣脈を通じ、日本に對して正當なる條件の下に平和を致すの一事にあるのみ。此くの如くするときには支那の爲めにも甚だ都合なるべし、何となれば支那はこれに因つて幸に亡國の難を免かるべければなり。思ふに支那は朝鮮を

失ふもさまでに苦痛を感ぜざるべく、又日本は朝鮮を得ることを以て非常の利益をなすべし、故に平和の條件として先づ日本に朝鮮を與へ其上に又臺灣を取らしむるも可なり、又支那の艦隊を残らず日本に引渡さしむるも差支なし。兎に角に英國政府は露西亞の舉動に最も深く注意して其陰謀の實行を妨げ、一方に於ては日本の正當なる要求を賛成して其人民の歡心を收め、同時に又支那に對しては和議を周旋して滅亡の災を免かれじめ、以て我に向つて好意を抱かしむるの謀をなすこそ目下の急務なるべしと論下せり。

丙、旅順口陥落の際に生じたる甚だしき彼等の虚報

旅順口陥落は日本に對する觀察に一變化を與へたり、彼等歐米の論者は稱讚に次ぐに恐怖を以て來りたることは、前に列記したる所の如し。此時此際、惡罵的記事は世界の新聞紙に掲げられたり、其事實は素より無根なり、然れども彼等が如何に熱罵酷評を試みたるかは、一項を摘記するの價值あり。此虚報の發信者は米國ウォール通信員クリールマンなり。彼の所報の要旨に曰く、
朝鮮を獨立せしむる爲めに起りたる戦争は、此たび突然にも最も野蠻なる征服

の戦と化し去りたり。日清戦争は最早野蛮に對する文明の戦争とは名づくべからず。過ぐる四日間、日本は其軍隊の足下に文明を蹂躪したり。蓋し旅順を陥れ世界に比類なき砲壘を占領したるの一事は、日本人の性質として虚心平氣に看過する能はざる大事件なりしものと見え、彼は二三時間に俄然數十年前の野蛮兇悍の境遇に後戻りしたり。旅順口の市民は殆ど残らず虐殺せられ、武器を帯びず抵抗をなし得ざる人民は、今日迄も尙日々殺戮せられつゝあり、爲めに市街には死屍の山を築けり。旅順口陥る前までは、日本の第一第二軍共に敵に對して義侠にして、且つ深切なりしと余の目撃して保證する所なり、現に十一月十七日金州を出發して旅順口に向ふ其時迄も、日本の軍旗には一の汚點なかりき。戦闘の當日、日本の軍艦八九隻は海岸に沿うて一線をなし、水雷艇は波濤の間を馳せ廻りて、港内より夥多の男女老幼を積乗せて出で來る支那船を、片端より打沈めたり。之が爲め死骸は海面に充滿せり、日本兵の旅順市街に進入するや、彼等は其同僚の首級が耳と鼻とを殺ぎ取られて、繩を以て吊るされあるを目撃したり。又市中第一の道路には、日本人の首を以て飾り付けたる粗造なるアーチ立ち居たり。彼

等は親しく此有様を見て大に忿怒し、それより見付け次第に支那人を殺戮して残す所なく、助けて捕虜となすをを試みたる者は一人もなかりき。婦人小供の山に逃げ行く者も容赦なく皆銃殺されたり。又市中の民家は戸毎に搜索され、住民は皆己れの家の中にて殺されたり。第二艦隊の先鋒はオグサンシン砲臺に赴きしに、同處には既に支那兵なかりしかども、港内に逃走者を乗せたる一隻の船あるを見出し、直に波止場より發砲して船中の男女及び小兒をば一人も残らず殺戮したり。今日まで港外にある水雷艇は逃走者を載せたる支那船を沈没せしむること既に十隻に及びたりと云ふ。余の見る所を以てすれば、旅順の役に尋常に戦死したる支那人は百名を越えず、又抵抗せずして殺戮せられたる武器不携帯者は、少くとも二千人を下らずと斷言するものなり。此くの如く甚だしき虐殺をなせし原因は、一種の感情より出でたること明白なりと。

同じ米國新聞記者さへもクリールマンの所報に信を置くものなかりしのみならず、正反對の報道をなせしものあり。

紐育ヘラルドの通信者ダゲルヴル氏はヴァンクヴァー港に着し、同地の新聞通信者

に面會して旅順口虐殺云々の説の無根なるを斷言し、日本人が同處占領の際、敵を殺すと多かりしは、全く土城子に於て支那兵が日本の捕虜を慘酷に斬殺して其屍體を路傍に放棄し置き、日本兵の眼に觸れしめたるが爲めなりとの次第を述べ、尙語を續いで曰く、旅順の役には日本兵は銃よりも重もに刀劍を使用したるが如し、而して日本人は敵を斬るに其頸を目掛けて切付くる習慣あるを以て、戦争後市街に首なき死體の倒れ居る者割合に多かりしが如し、されど日本人は唯復讐の念より敵を殺したる者にして、之を名けて野蠻の舉動なりなど云ふは抑も誤れり。クリールマンは是まで一度も戦争なる者を見たるとなき人なれば、或は旅順没落後の光景を見て驚き怖れたるならんか。吾々通信者は皆首なき死體を目撃したれども、未だ手足を寸斷したる屍には接したることなし。之を要するに日本人は最も猛烈に戦ひたるには相違なけれども、決して野蠻と稱すべき程の舉動をなしたるにあらず。又外國の通信者が日本軍の所爲を憤り、隊を成して引上げたりと稱するに至つては、余は單にクリールマンは虚言を吐く者なりと云ふべきのみ。蓋し通信者の日本に歸りたるは今後旅順方面に花々しき戦闘

なかるべしと思ひ、何れも之より新に派遣せらるる軍隊に従ひて再び渡航する積りなりしが爲めのみと言ひたり。

紐育タイムズ新聞は旅順虐殺の虚報なるべきを説き、又之を以て日米條約の批准を拒まんとするは、日本に貨物を輸入する商人等の策略なるを記載せり。其要は、上院議員は一兩日の中に日米新條約に對し攻撃を試むるの口實を得たるが、右條約は公衆の氣受け宜しく、別に異議なくして速に批准せらるべしと思はれたるものにして、その條項の寛大なるは遂に日英新條約に勝り、日本の好意を求めんとを勉むる英國外交家をして後へに瞻若たらしめたりと云ふを得べし。然るに十二月十二日の紐育一新聞紙が、横濱よりの特別通信なりとて、日本軍が旅順口に於て住民の全體を虐殺したりとの報道を掲げしより、端なくも日本は野蠻の境遇に後戻りしたれば、之と對等の條約を結ぶべからずとの攻撃起れり。其報道に曰く、外國從軍者は其殘忍刻薄を見るに忍びず、隊をなして日本軍を立ち去れりと。隊をなして歸りたると果して事實なりとせば、他の從軍者が、世界の他の部分に同一の報道をなさざる筈なきに、全く此事なきは怪しむべし。我東洋

艦隊の司令官カーペンター氏が海軍省に旅順の没落を報告するに當りても、何物も破壊せられたる者なしと言へり。若しも住民の全體が殺戮せられたらんに、司令官も必らず之を報道したるものならん。この恐るべき報道を公にしたる新聞紙自身亦其眞偽を疑はしむるに足るべき材料を掲げたり。同新聞紙は旅順没落の當時従軍せし外國通信員は、自己の通信員一人のみなりと云ふ、一人が隊をなして立ち去れりと云ふは、既に矛盾を免れず。願ふに所謂虚殺なるものは通信の如く甚だしからざりしならん。或は他日に至り跡方もなき虚報なることを發見するやも知るべからず。又本日同新聞に依れば、上院は虚殺の報道に狼狽し速に批准せんとしたる條約の審議を見合せたりと。其理由とする所は日本が野蠻の境遇に後戻りしたれば、一八九九年より治外法權を撤去し、米國人の生命財産を日本法權のもとに委ぬるを危険なりとするにありとぞ。果して斯くの如きとあらば、上院は大早計をなすものと云はざるべからず。虚殺の報道を讀みたる上院議員は、同一の通信員が日本軍隊の紀律嚴肅なること、滿洲の清人を保護し其歡心を得ることを勉めたるを報道したるを回想せざるべからず。斯くの如き日

本軍隊が平壤勝利後に得たる所の名聲を一擲せんと欲するにあらざれば、俄然殘忍刻薄の舉動に出づるとあるべからず。米國內新條約に反對するものあるは勿論なれども、其反對の理由や日本の開明を疑ふにあらず。商業上の利益より來るものにして、新條約の如くに日本に關稅制定の權を一任し、日本若し五分以上の從價税を賦課したるときは、僅少の輸出商の私利を害すべければなり。就中石油商人の如き最も大なる不利を蒙るとあらん。又條約批准前虚殺の眞偽を明かにせん爲め調査會を開くべしとの説もある由なれども、愈之を實行するに至らば、上院は狼狽して國際法及び我傳來の政略を忘却したるの謗りを免るべからず。尤も新條約を批准するは幾分かデモクラット黨の信用を高め、自黨が日本より得んとしたる利益を失ふべしと思へるレパブリカン黨員もあるべし。されば政略上より多少の反對をなすものもあらんとせり。

なほヘラルドの特派通信員デーカーヴァイル氏は更に直截にこの報道をば、罵倒して曰く、日清戦争起りし以來、米國の新聞紙はその社、特派通信の報道なりとて戦況を掲載するに當り、戦地に出張したる外國新聞記者は他になし、只一人の我

社特派員が目撃したる實況なりと誇り稱すること殆ど皆一樣なるが如く、數日前予が見たる桑港の或新聞紙にも、クリールマン氏の金州占領の報告を載せ、前の如き斷り書をなして誇るのみならず、ク氏は山路將軍に従うて進軍したりと明言せり、予は其無稽を辯せざるべからず。抑も牙山の戦争は外國記者の從軍せし者一人もなく、續いての戦争には外國記者の從軍せしもの一人もなく、續いて平壤の役には戦争の間に合はざりしながらも、第一番に戰場に着したるは斯く申すガーゲイルにして、予は戰況報告を擔任する日本將校と共に戰場を巡視したれども、予が同地を出立したる九月二十五日までは、他に一人も着する者なかりき。次に日本人が敵の負傷者をかまひ付けずと稱するは全く虚構なり。支那軍には赤十字社の設けなく、更に是等の事に頓着せざれども、日本軍は然らず。九月廿二日子は日本軍の野戰病院を訪ひたるに、多數の支那負傷者は日本負傷者と相並んで病床にあり。日本人が親切を以てこれに對すること毫も同國人に異ならず、轉じて支那兵卒の舉動如何を尋ねれば、實に甚だじきものにして、到る處味方の人民を掠奪殺戮すること殆ど勝手次第なり。况んや敵國の人民をや、聞く所

に據れば、先年長髮賊の亂の時、亂地の父兄は其妻子等の兵手に罹るを憐み、自ら殺して立退きしもの幾百人と云ふ數なりしと。予は今度の戦争に旅順口に於て曾て婦女子の死體ありしを見ず。或は一步を譲りて一二の殺されたるものありとすも、それは日本人の手を以てしたるにあらすして、支那人自ら殺したるなり。なほ又予は港内海岸を通りて海中の模様を見たるに、更に溺死者等を發見せざりき。されば支那船に乗じて逃れんとする所を砲撃して船中の婦女老幼を悉く溺死せしめたりと云ふが如きも、全く虚構の言に過ぎず。また旅順口に於て殺されたるは支那兵にあらすして平民なりと云ふ。如何なる證據ありてさる言をなすか。支那兵は常に平服の上に軍服を纏ひ、逃ぐる時は逸早く此軍服を脱ぎ棄て、以て平民の風をなすは、日本軍の屢々經驗したる所なり。たと靴のみは其儘なるが故に、之に依りて兵卒と平民を區別するを得べし。而して旅順に於て殺されたるものは、皆兵卒の靴を穿ち居たること余の實際目撃せし所なり。又我々が旅順市街に入りし後二日間、發砲の音を聞きたりとのことなれども、余は市中に於て銃聲を聞きたることなし。尤も一萬二千乃至一萬五千の兵敗走して山脈の間に潜

匿したるもの多ければ、之を追討の爲め軍隊を派遣して、是等に發砲したる聲は聞えたり。要するに文明國民の眞價如何を知るものは、日本軍の旅順に於てしたる舉動を非難する能はざるなりと。

また基督教傳道師シ―氏は、書を倫敦タイムズに寄せて曰く、余は旅順口占領の際特別の便宜を以て戦況視察を許可せられたる外國公使館附の一武官が、占領後數日の間、無分別なる虐殺の行はれたるなど云ひ、唯すは無稽の甚だしきものたるを斷言し、且つ占領當日の夕以後は、如何なる種類の殺戮もなかりしことを証言するを聞けり。また同じく現場を目撃したる英國軍艦センチリオン乗組の一士官も、亦日本人が最初の一撃後の舉動は少しも非難すべき點なしと明言せり。加之、日本兵が多數の支那人の遁逃を故らに黙過し、且つ四百人の捕虜をば悉く日本に送りたるは事實なり。之を以て之を觀れば、占領後殺戮の繼續したる等の風説の信するに足らざるを知るに足らん。又小兒婦人等が兵刃に係りて無慘の死を遂げたる者あり等のとは、前記公使館附武官の見もし聞きもせざる所なりと云へり。尤も支那下等社會婦人の如何に慘猛なるかを知れる人には、多くの

屍中に婦人の死體の混じ居りしこと、敢て怪しむに足らざるもの如く見ゆるなるべし。但し占領後敵の抵抗力已に盡きて、猶殺戮のありしは、悲しい哉事實にして、日本官吏も自ら憂慮し居る所なれど、激烈なる戰爭中に於ては、餘り怪しむべきとにあらず。且つ此事が最初人々の風評せしが如く、慘憺たるものなりしことすらも、此一事を以て日本全國民の蒙味なる證據とするが如きは、誇張の最も甚だしきものにして、敢て一顧の價値なき説なりと云へり。蓋し斯かる虚報の出づるは、日本に對する讚美の情の、漸く嫉惡の方に傾けるを證するものなり。

第五節 冬期戦争と威海衛陥落に對する批評

渤海灣口の二海鎮の一たる旅順口は、已に陥落して、彼等の驚歎は正に其頂點に達したる上に、彼等の最も至難とする所の冬期戦の遂行と、威海衛の攻陥とは一層の驚歎を加へたり。かの觀察者は、日清戦争は今や急激の時期を經過したるが如き觀あれども、其現在の狀況を見ても、吾人を驚愕せしむるの點に於ては、既往に比して、毫も劣るとなし。目下日本人が實際に舉行しつつある事業は、是まで如

何なる批評家と雖、彼等が能く舉行し得べしと豫言したることなきのみならず、殆ど夢にも想像せざりし所の大事業なり。其大事業とは即ち滿洲に於ける冬期の戦争これなり。蓋し滿洲の氣候は非常に寒くして第一回の降雪の日より翌年其雪溶くる時まで、一切の作戦と運動とは全く中止せざるべからずとは、世人一般に確信して疑はざりし所なり。しかるに日本人のなす處は全然人の意表に出で、天雪を降らして海に氷を漂はすも、更に躊躇することなく、寒氣骨に徹するの候に幾萬の人馬を動かして、深く滿洲の内地に進軍しつゝある其大膽には、實に驚くの外なし。日本人が其敵國たる支那を如何に輕蔑するかは、此一事を見て明かなるを知り得べし。何となれば滿洲に於ける冬期の戦争は偶然の出來事にあらずして、日本人が熱慮の上自ら求めたる所なればなり。即ち人口四千萬の一國が、遠征の軍隊をば自家に十倍する所の大國の領土に放置して、その軍隊が自ら自ら衝るのみならず、嚴冬の時候に能く敵兵と戦つて益、深く内地に侵入するを得べきとを確信するものにして、吾人は何は扱て置き日本の自ら信することの大なるに感服せざるを得ず日本にして若しも冬期の間、其既に得たる地位を

失はざることあらんには、之を進め擲ぐる事は暫らく問題外として、それこそ實に非常の偉業にして、たとひ歐洲の大將軍が歐洲の兵士を率ゆるとも、斯くの如き大膽なる企畫を實行するの勇氣を起すことなかるべし。若しも日本がこの一事を首尾よくなし遂げて、來春まで現在の戦闘力を維持することを得ば、彼は即ち軍隊を給養するの術に於ても、實際の戦闘に劣らざる熟練を具ふることを世界に證明する者なり。今を去る事四十年前、英國の其軍隊をして、クリミアに冬籠せしめしことあり、クリミアの氣候は滿洲に比すれば頗る温和にして、且つ又英國の運送船は其數甚だ多く、旁、以て當時の軍隊給養は今日日本が滿洲に兵を維持するよりも遙に容易なりしことは實に争ふべからず。然るに英國の兵站部は全く失敗して醜態を極め、世界の歴史に笑ひを殘したり。滿洲の冬期戦争は、クリミアの役に比すれば、其困難なる同日の談にあらず。日清兩軍の兵數如何を考ふるときは、目下日本の實行しつゝある所は、實に世界の歴史に未だ曾て比例を見ざる大膽なる作戦運動と云はざるを得ず。若しも此舉にして成功を奏することあらば、日本に對する世界の尊敬は、支那に對する世界の蔑如と共に、大に増

加するや疑ひを容れずと論じたり。
 威海衛の攻略に對しては、かのイングルス氏はロイテル社員に語つて、日本國內の事情に通せず、日本人の性質を知らざるものは、威海衛の陥落を以て日本人の善く戦ひし故にあらす、清國人の怯懦なりしに因ると評すれども、これ實際を究めざるの言にて、かの戦ひに於て清國人は背水の陣を布き、死を決して防戦したるは、一點の疑ひを容るべき所にあらす、然れども日本の陸海軍人に對しては、朔風極寒も其勇氣を挫き難く、海陸相應じて奮闘したればこそ、敵軍は踏み止り兼ね、流石堅固の砲臺も遂に陥落したるなれ、更に余の只管感嘆に堪へざるは、日本人の暴虎憑河の勇にのみ走らず、彼を計り己れを知り、注意周到籌謀其宜しきを得るとにて、威海衛に敵艦を追ひ詰め、袋の鼠となしたる時には、直に亂入して一撃に之を撃破したき心は燃ゆるが如くなりしならんに、砲臺と戦ふは我に取つて頗る不利なりと考へ、暫く其勇心を抑へ、愈機の熱せるを見て水雷艇を放ち、豫てより狙ひ居りたる定遠を初めとし、其他數隻の軍艦を物の美事に撃沈したる。其敏腕沈勇は、天下に比倫なかるべし。且つ水雷艇の進退に就きては、一點の間然

する所なく、これまた予の嘆賞して措かざる所なり。但し支那艦隊にして一層熟練せる將校の操縦したらんには、彼が如く容易に撃破せらるることなかりしならんと信ず。其故は灣外にある艦隊は常に前後に行きつ戻りつ徘徊し、其速力とて必らず緩漫なりしに相違なければ、此際灣内の清國軍艦は隊伍を整へ、全速力を出して碇地に直往せば、敵は之に應ずるの暇なく、狼狽する間に首尾よく遁逃するを得たるべけれど、云ひ甲斐なくも清艦は策爰に出でずして、水雷艇の爲めに無残の最後を遂げたりしは、實に淺間しき限りなり。尤も清國にはなほ此外南洋艦隊あれど、こは老船廢艦のみにして、僅に氣息を保てる有様なれば、日本軍艦の一蹴に逢はど忽ち粉碎せられんのみと言ひ、且つ曰く、清國の内情は我々歐洲人より日本人こそ能く熟知し居れば、清國常用の猾手段に乗せられ、休戦を許し、其間に充分用意を整へしむる如き拙策をなさざるべければ、今頃は頻りに進軍しつゝあるならん。或は極寒の候に至らんには、流石に勇氣無双なる日本兵と雖、進み兼ねて一時休戦するならんと想像するものもあるべけれど、輜重の組織完備せる兵は衣食不足せる兵に比し、一層寒氣に堪ふるの力を有するを以て、日本

軍は決して進軍を停止するが如きことなかるべし。況んや其勇武絶倫なるに於てをや。然り而して海軍は已に全勝を得、陸兵の運搬等の外目醒しき功を見はすの機なければ、今後の形勢は一に大山、野津兩將の肩上に掛るものなりと。

又英國の觀察者は、特にスペクターの如きは、日本海軍が威海衛を陥れたる手際は、異口同音人々の稱揚して措かざる所にして、嚴寒烈風を犯して水雷艇の突入せる手腕は申す迄もなく、其他艦隊の操縦と云ひ、決斷自信の力熾なることと云ひ、技術上の熟練と云ひ、是迄歐洲人の専有物とのみ思ひ居たるもの、今は則ち日本も亦之を有するを證せり。已に斯かる伎倆を有する以上は、今後缺乏を感ずる所の者は船艦の數なれど、之とても日本人の深き奉公心と年來の蓄積とに加ふるに、此度清國より得べき償金を以てすれば、之を得ること易々たることなるべし。日本こそ後世最も恐るべき新國にして、我英國の政略は列國同盟して其衝に當らんとすの意を有するが如し。成る程日本にして、戦勝の餘威に乗じ、横行せんとすの氣色あらば、列國は英國と同盟すべしと雖、若し日本が支那と平和條約を結ぶを肯ひ、支那を其儘に放擲して、各國の搏噬するに任じなば、列國は果して英

國と共に日本を制肘することを勉むべき乎。露國は斷じて其艦隊を失ひ、兵力を減ずるも、英國に味方せんとはなさざるべく、佛は寧ろ日英の間に戦ひ起り、其機に乗じて平素の野心を逞うせんと欲するなるべし。即ち我英國は獨力を以て己れを維持するの外策なからん。蓋し兩雄は並び存するを得ざるがゆゑに、假令今日に於ては日英間に戦雲の翳くとすも、萬一矛戟相見ゆることもあらば、日本は我屬地たる香港、新嘉坡は云ふに及ばず、更に進んで印度を侵略せんと試むるなるべし。此時に當り日本艦隊は其戦艦の損傷を繕はん爲め、旅順口が日本は必らず清國へ返却せざるべきを以て、若くは自國の軍港に歸りて、再戦の準備を整ふるを得べきも、英國は何地に於て艦隊を修繕せんとするか。孟買は餘りに支那に遠ざかり、目的に應じ難からん、即ち英國の最大缺點とする所のものは支那附近に軍港を有せざるとにして、吾人の信する所を以てすれば、ヒリッピン群島中に一軍港を造營すること實に目下の急務なるべし。若し今日之を忽せにせば、いざと云ふ場合に臨んで悔ふるも及ばざるべし。さて日本海陸軍の整頓し居ること、輻重の行届けること等を以て公衆に語らば、これ所謂聞畏せるものなり

と直に一笑に附し去るべけれど、日本の蔑るべからざるは識者の夙に熟知する所なるを以て、我英國人は朝野に論なく、大に東洋の形勢に着目し、早くかれ新強國に備ふるの準備をなさんことを切に希望するなりと極論せり。

第六節 媾和條約調印、三國干涉後に於ける

彼等の觀察

甲、仲裁干渉の得失に關する彼等の感想
日本は其利運に乗じて如何なる要求程度を以て清國の媾和を容れんか、これ此頃、に於ける彼等の最重の疑問なり。仲裁を試むるの可否、干渉を行ふの得失は従つて起る所の問題なり。今迄日本に好意を表せし國々は猜疑と嫉妬とを以て之を見るの狀況に據りたる場合に於て、彼等は果して如何なる觀察を下せしか。桑港クロニクルは、日本の要求に想像を下して、第一、日清間條約は今回交戦の爲めに漸滅せり、されど平和回復の後に締結せらるべき新條約には、日本へ支那に對する治外法權を與へ、支那は是まで日本に於て享有せし治外法權を失ふ事、第二、亞細亞大陸に於ては、日本版圖の擴張なかるべし、然れども海濱を離れし支那

の所領たる臺灣は、永久日本へ割讓すべき事、第三、日本は條約に依つて、直隸灣關門の兩大軍港たる旅順口及び威海衛の占領を定期數年の間繼續する權利を授けらるべき事、第四、朝鮮支那屬邦の口實は、未來永久擲棄せられて、朝鮮は今後獨立國たるべき事、及び第五、支那より拂渡すべき償金は、金貨二億五千萬弗を超えざる事との五ヶ條なるべし、と言へり。

有名なる評論家ドグラス氏は日清間に仲裁を行ふを以て、有害無益なりとなし、東洋に於ては事物の變動一般に甚だ緩漫なると常なれども、近來日本の進化は例外にして、これが爲め少なくとも、亞細亞の東部には非常の大變革を惹起したり。開戦以來未だ數月ならざるに、戦争の狀況は大に改まり、吾人は最早、和議の成るべき徴候を見んとするに至れり。然れどもこの際歐洲諸國が、兩國の間に仲裁を試みると、有害無益なるは、過日來益、明白となれり。日本人は既に數回の勝利を得て深く敵地に侵入したれば、若しも支那が和を欲するならば、北京より直接に日本政府に向つて媾和の事を申出すべしと主張せり。誠に尤もなる申分と云はざるを得ず。然れども支那人の所見は全く之と反對にして、彼等は非常に西洋

人を輕蔑しながら、苦しき時には一切萬事其忠告に従つて處置するの舊習を脱する能はず、此度も日本軍の爲めに蹂躪されんとする危機に迫りて、始めて西洋人の助けを求むるの必要を感じ、百方手段を盡して歐洲諸國に泣き付き、日本をして和議に同意せしめんと勉めつゝあり。然れども日本人は決して斯かる術數に乗るべき様子なし。彼は既に支那を足下に踏付けられたれば、支那が平身低頭して自ら和を請ひ來るにあらざれば、如何なる申出にも取合ふことなかるべし。日本は英國がこれまで支那の爲めに屢欺かれて、無限の損害耻辱を蒙りたることを熟知するを以て、今回自ら支那を相手にするにあたり、英國の失策を再演するが如き愚をなさざること明かなり。蓋し今度の事件は、日本人民をして非常の敵愾心を起さしめられたれば、若しも此戦ひにして、今後大に永引くこともあらんには、或は随分面倒なる事柄の生ずる恐れなきにあらざれども、目下の處、日本人民の目的は自國をして大軍國たらしむるよりも、寧ろ大商賣國たらしむるにあるもの如し。されば若しも今日平和談判を結了するとならば、日本は先づ第一に支那をして大なる商賣上の特權を讓與せしむるに相違あるべからず、然る時は歐洲

諸國は皆最惠國條款に由り、日本と同じく此特典に浴することを得べきが故に、これが爲め世界一般に大利益を及ぼすは云ふまでもなく、支那自身も亦自ら利すること疑ひあるべからず。支那の全國は外國貿易を開いて盛に其富源を發達せしめ、普く鐵道を敷設して、運輸交通の便を助くるときは、東洋の事物これが爲めに一變するは鏡に掛けて見るが如し。今は眠れるが如き老大國も、一たび文明の空氣を吸入するときは、忽ち長足の進歩をなして、必然亞細亞の歴史に新時期を造るに至るは吾人の敢て斷言する所なり。

又和議の條件として、支那は多額の償金を拂はざるべからざると勿論なるが、殊に朝鮮改革の事は都て之を日本の一手に任せて、他より聊かも干渉することあるべからず。抑も朝鮮の政治組織は、腐敗を極めたるものにして、他の東洋諸國に於ても、其比を見ざる程の次第なれば、苟くも仁愛の道にして重んずべき以上は、最も果斷なる處置を施して、一日も速に之が改革を行はざるべからず。然るに歐洲諸國は政治上の實績に由り、自ら直接にこの改革に従事すること能はず、又支那はこれまでの經驗にて、逆も改革者となるの資格なきと明かなれば、此上は唯日

本力を借るの外あるべからず、日本は自國の改革をば極めて巧妙になし遂げ、世界の耳目を驚かしたるものなれば、其腕前を以てする時は、朝鮮の改革も案外容易に成就するの見込なきにあらず、且つ又日本人が朝鮮の事情に委しきことは、改革を實行するに當りて大なる助けたるべし、と論じたり。

之に反して、米國の諸新聞は、歐洲強國に干涉の模様あるを報じ、且つこれを許し、二月七日の倫敦タイムズは、巴里發の電報を載せたり、其云ふ所に據れば、露、英、佛の三國は日清戦争に關し一致の運動をなすの相談纏まり、米國も亦露國の勸誘によりて其内に加はるととなり、都合四箇國聯合運動のことに關し、巴里駐在の露國大使は、本國政府より何か訓令を受けたる所あり、是等の列國は先づ今日の所干涉すべき必要を感せず、追つて支那に對しては、其無力にして滅亡せんとする所以を説き、從來の組織を改めて、内地を開放すると、管に文明世界の利益のみならず、第一自國の利益なれば、其開放を請求する積りなれど、差當りては清國が愈、屈伏して、眞實平和の談判に取り掛るを待ち、其折に至れば、日本に向ひ歐洲列國の意向を明かにし、一時たりとも支那大陸の合併占領を許さざることを知ら

しむべし。併し其他の合併占領は此限にあらず、臺灣其他の島嶼を云ふものならん、又軍艦兵器等の分捕品に關しては、敢て干涉せず、賠償金も交戦兩國の間に於て勝手に取極めさせ、而して其償金の擔保を要求するには反對せざれども、列國の不利益となるべき商賣上の約束は許す能はず、所在の港を開かじめ、自由に支那内地に入込むの利益は、全世界の列國平等に之を享受すべく、且つ清國政府は償金に宛てんが爲め、必らず外債を募るに相違なければ、便利の爲め貨幣制度を歐洲風に改めしむべし、との事等は既に是等列國の間に同意したりとのとなり、と云ひ、進んで其干涉の無用なるを説き、獨逸のコーンガゼットは此程其紙上に、日本は速に支那と和睦すべし、然らざれば歐洲諸國の干涉を蒙るとあるべし、云々の説を掲げて、日本に忠告を試みたり、ガゼットの考へにては、日本は先年獨逸が佛國に向つて、法外なる要求をなしたる例に依り、今日支那に向つて文明國の許さざる如き非常の辨償を要求するならん、と想像して、斯くは心配するものならんが、元來歐洲諸國が今回日清の戦争に干涉するには、果して如何なる口實ありや、歐洲諸國は果して誰の許可を得て、東洋の極端に於ける戦争の仲裁者を以て自

ら任ずるや、コロンガゼットの忠告の如きは、單に無禮極まる差出口にして、實際に又何等の効果もあるべからず。何となれば、獨逸帝國は目下東洋の戦争に與かるを以て利益とせざればなり。日本は海戰以來誠に美事なる働きをなしたる者に、斯くの如き花々しき戰功は、歐洲の歴史に於ても其比を見ざる所なり。數十年前迄西洋にては、日本の名さへ知る者少かりしに、今や其國が獨逸學者の所謂人類の最高技術なる戰爭術に於て世界に雷名を轟かしたり。地球上何れの國の歴史を尋ぬるも、斯かる迅速の進歩をなせる者あるを見ず、日本は實に萬國に超越する者と云ふべし。されば文明國の識者は皆日本をして恣に其欲する所を行はしむべしと、更に曰く、若し日本が支那を征服せんか甚だ可なり。或は彼は唯償金を取り、土地を割領して満足せんか、又甚だ可なり。開戰以來日本のなす所を見るに、自ら自家に關する事を仕末するの能力を十分に具ふるは敢て疑ひを容れず、されば歐洲人は皆手を束ねてなす所に一任して可なり。彼等は日本のなす所を具さに觀察する時は、作戰の技術に於て大に得る所あるべし。日本は世界の爲めに近時の作戰術を實際に説明教授しつゝある者にして、目下最も切に此教授を

要する者は歐洲列國に外ならざるべしと冷評せり。

此項に露國の新聞紙及び露國の舉動に關する報道は、日本に取りて實に重大なるものなりしなり。ノウオエウレミヤ新聞は、支那の將來に關して説をなして曰く、清國將來の運命は日本の左右するが儘に任すべからず、歐洲列國は是非とも之に干渉して滿洲及び朝鮮を日本の掌中に歸せしめざるやう工夫せざるべからずと。又同新聞紙は戦争の終局すべきを豫想して、露國政府は朝鮮の領土内に於て商業上に適當せる良港を占領すると必要なり、若し斯くの如き良港を得ざらんか、西伯利亞鐵道は其効用少からん。次に直隸灣は日本又は英國にのみ占領せしむべからず、露國も其利益に與かるべきものなりと。

又トンキン、アグエニエルは、日清戦争起りし以來、露國が西伯利亞の東岸及び黑龍江の邊りに集めたる兵は夥しく、海岸地方には一萬九千人、黑龍江には三萬八千餘人ありて、戦争の開始後少なくとも五萬人の兵卒は此地方に招集せられしならん。且つ此項六十四人の將校及び百七十五人の兵卒は、新に到着せりと云ふ。蓋し露國が斯く大兵を東境に集むる目的は、日清事件の影響を自國に及ぼすの

場合に當り、其素志を達せんとするにある者にて、已に輕裝進軍の命を下せじとさへありたれど、糧食の缺乏せる爲め之を見合せたりと。露國は朝鮮を日本の屬國となすことに反對するは勿論、之を獨立國とするに就きても異議を挟み居るは露國の内情に通せる人の知悉する所なり。蓋し日本の眞意は今後東洋諸國の間に一大同盟を組織し、その覇權は日本自ら掌握し、以て歐洲列國の覬覦を拒がんとするに存すべけれど、往年締結せる獨露同盟は露國に取り不利益にして、今にアレキサンダー二世の最大失策と後悔し居る程なれば、又も東洋に於て一大同盟の起り、日本の勢力益々隆盛になり行くを見んとは、露國の特に厭ふ所なるに依り、百方手を盡して妨害を試むるとなるべし。扱てこそ露國は今や頻りに西伯利亞の東海岸に大兵を集め、英佛の艦隊と連合して日本を恐嚇し、其要求を滅殺せしめんと勉むるなれば、日本は大に戒心せざるべからず。唯爰に吾人の最も不安の念に堪へざるは、露國の斯くの如く警戒し居るに拘らず、我佛國はマダカスカル事件にのみ心を奪はれ、日清戦争の結果に毫も留心せざることにて、或は意外の不利を被むることなほ計られずと。

またジャン・メーニルは、露國の新聞雜誌を見れば、若し日本にして清國の所領を割讓せしめんとするか、或は朝鮮を永久に占有せんとかの意を見はすこともあらば、露國は最早中立の位置を守り難し、直に日本を以て敵と看做すに至らんと。實に奇怪至極の言にて、何故に露國は日本を制肘するの權を有するか。但し露國は往年支那より莫大の土地を讓受けしとありたれど、さりとして之が爲め日清事件に容喙するの權ありとすべからず。道徳上より云へば、露國は自ら辯護するの辭なからん。或は日本のなす儘に放任せば、其影響忽ち我に波及して、安全を害するの虞れあるを以て、斯くは干涉するなり、是今日の國際公法の許す所なりと云はんかなれども、日本も亦同一の事情の下にあるなれば、日本のなす所も公法之を許さざるの道理なかるべし。若しそれ露國は朝鮮と境壤を近接するに依つて、かの半島を占領せんと試むると、當然なりと云はゞ、日本も均しく一葦帶水を隔て朝鮮と相對すれば、此半島にして強國の有に歸する時は、日本の國安は殊に妨害を被ると明かなり。是に依つて之を見れば、日本が朝鮮の内政を改良し、文明の恩澤に浴せしめ、一方には列國の干涉を免れ、一方には清國の野心を拒絶せんとする

は果して不當と云ふを得べきやと言ひ、露國の態度に反對せり。然れども形勢は日に急なり、横濱アドヴァイザーは、目下の形勢を視るに、露國は其半官報がこれまで云ひ續け來りし所のもの、即ち露國は日本をして支那大陸に就きて、何等の割讓にも反對すべしとの決心を實行するの意を示したるが如し。今爰に世間に行はるる憶説を列記せんに、先づ日本の支那に對する要求に就き、英露の間に談合のつき居りたりと云ふ者あり、こは英國が露國の如何なる注文をも引承くべしとの前提を置きたる者なり。又日本と露國との間に談合つきて、日本が露國の舉動、已に都合よき者あるを見るなりと取り、則ち結局露の利益をなす所の仕事に取り掛りたるなりと云ふ者あり。露國が東洋に向け大なる海軍力の増加をなしたるは、前記二説の孰れにも撞着せず、而も尙又第三説に矛盾せず、露國は最初より超然獨立して獲物の到來するを待ちたるなりと。以上三説中、英露の間に談合つきたりと云ふに就きては、此説をして行はるるに至らしむる事情ありたるには相違なしと雖、吾人は露國が英國に對して責任を負ふの面倒を厭ひたるを以て、此事なかりしと竊に信する者なり。是に於て殘るは唯第

三の説のみなり、即ち露は超然の位置を執りて自家の力を強めつゝ、機會の到るを待ち居たり。兎角する中に其待ちに待ちたる機會は果して到來せり。即ち日本が支那大陸を割讓せんとすることは是なり、而して今日の問題は露國が果して其意見を固持して、若しも必要とあれば戰端を開くの決心さへなしたるや、但しは日本の計畫を承諾する代價として、露國が幾數年來、垂涎せし所の彼の一港を領收すべきやにありと論ずるに至れり。

一方英國にあつても不穩の論議少なからず。スペクターターは、日本が近來俄に頭を擡げて、東洋の覇權を握らんとするは、十九世紀の終期に於ける一大珍事なるのみならず、將來英國の休戚に關するに之に超する者なかるべし。若し此戦ひにして結局日清兩國の間に同盟を結ばざらば、爰に人口四億を有する一大帝國起り、其海軍は歐洲列國を凌駕するに足る艦隊を組織し、陸軍は獨逸式に従つて訓練するの技量を有し、其上多年の間屈辱を忍び、銳氣を包藏し、他日驚天動地の大活劇を演せんと着々歩武を進めたる耐忍力強き人々に依つて導かれなば、今日強國と稱せらるゝ英、佛、露の如きは奈何にして東洋の版圖を保護し、此銳鋒を挫くを

得べきや。彼は其距離も近く且つ陸路より自由に侵略するを得べきも、我は土地遼遠にして、巨額の費用を要するを以て、到底彼に敵するを得ざると明かにして、ベンガル、英領ビルマ、緬甸、トルキスタン(露領東京)は直に此大帝國の有に歸すべき。若し又戦ひの結果、清國の敗衄となり、朝鮮、臺灣を日本に讓與し、償金を拂はせ、絶東に一大海國起り、爾來其驥足を伸ばし、其技量を示さんとするに營々として、其餘勢或は歐洲の強國と矛を交へんも計られず、幸ひにして此戦争勝敗決せず、相引となるともあらんか、不平勃々たるかの國民は必らず其儘にて黙すべきにあらず、之を漏さんが爲めに、賃銀の廉なるを利用して、益製造業を盛にし、造船業を擴張せば、從來英國の以て最大の財源と頼みたる航海業は、其利益を奪はるゝに至らん、其他製鐵、石炭等の諸業も次第に衰微すること、我輩の豫言するを憚らざる所なりと言へり。以て此頃に於ける、歐洲強國が日本に對する感想を推想するに難からざるなり。

乙、媾和條約發表に對する彼等の觀察

日本は如何なる條件を以て戦争を熄止せんと欲するか、日本が戦勝の利運を如

何に處置せんとするかは、列強の側目張眼して措かざる所なり。ロンドンタイムズの所論に曰く、日清間の休戦談判整ひて以來、人々皆之に繼いで平和條約締結せらるゝなるべしと望みたり。休戦の日子は二十一日にして、本月(四月)二十日を以て其期滿つる筈なれば、清國の爲めに計るに一刻も早く平和條約を結ぶを得策なりとす。北京よりの電報に依れば、日本政府より清國に示したる要求條件は、其敗衄を甘んじて承諾すべき適當なる者にして、決して方外のものにあらずと云ふ。清國政府は速に承諾すべきなり。斯く穩かなる要求となさんとは、實に意外にして、日本人は舉つて土地を占領せん事に熱中したるも、政府の盡力と注意とに依り、漸く喧騒を鎮壓せしならん。然も日本人の土地を欲するは無理と云ふべからず、支那が海陸連戦連敗し、將に城下の盟ひをなさんとする位置に迫りしを見て、扱ては臺灣、遼東半島を割讓せしむべしと主張せるなり。但し遼東半島にして日本の有に歸せば、日本は大に責任を増加し、歐洲列國中、露國と紛紜の起るべきを豫め覺悟せざるべからず。されど臺灣の占領に至つては、右等の困難を讓すとながらん。蓋し

得べきや。彼は其距離も近く且つ陸路より自由に侵略するを得べきも、我は土地遼遠にして、巨額の費用を要するを以て、到底彼に敵するを得ざると明かにして、ベンガル、英領ビルマ、緬甸、トルキスタン(露領)東京は直に此大帝國の有に歸すべし。若し又戦ひの結果、清國の敗衄となり、朝鮮、臺灣を日本に讓與し、償金を拂はせ、絶東に一大海國起り、爾來其驥足を伸ばし、其技量を示さんとするに營々として、其餘勢或は歐洲の強國と矛を交へんも計られず。幸ひにして此戦争勝敗決せず、相引となることもあらんか、不平勃々たるかの國民は必らず其儘にて黙すべきにあらず、之を漏さんが爲めに、債銀の廉なるを利用して、益、製造業を盛にし、造船業を擴張せば、從來英國の以て最大の財源と頼みたる航海業は其利益を奪はるゝに至らん、其他製鐵、石炭等の諸業も次第に衰微すること我輩の豫言するを憚らざる所なりと言へり。以て此頃に於ける、歐洲強國が日本に對する感想を推想するに難からざるなり。

乙、講和條約發表に對する彼等の觀察

日本は如何なる條件を以て戦争を熄止せんと欲するか、日本が戦勝の利運を如

何に處置せんとするかは、列強の側目張眼して措かざる所なり。ロンドン・タイムズの所論に曰く、

日清間の休戦談判整ひて以來、人々皆之に繼いで平和條約締結せらるゝなるべしと望みたり。休戦の日子は二十一日にして、本月(四月)二十日を以て其期滿つる筈なれば、清國の爲めに計るに一刻も早く平和條約を結ぶを得策なりとす。北京よりの電報に依れば、日本政府より清國に示したる要求條件は、其敗衄を甘んじて承諾すべき適當なる者にして、決して方外のものにあらずと云ふ。清國政府は速に承諾すべきなり。斯く穩かなる要求となさんとは、實に意外にして、日本人は舉つて土地を占領せん事に熱中したるも、政府の盡力と注意とに依り、漸く喧騒を鎮壓せしならん。然も日本人の土地を欲するは無理と云ふべからず、支那が海陸連戦連敗し、將に城下の盟ひをなさんとする位置に迫りしを見て、扱ては臺灣、遼東半島を割讓せしむべしと主張せるなり。但し遼東半島にして日本の有に歸せば、日本は大に責任を増加し、歐洲列國中、露國と紛紜の起るべきを豫め覺悟せざるべからず。されど臺灣の占領に至つては、右等の困難を醸すとながらん。蓋し

臺灣は其名清國の屬國とは云へ、清國は其本國たるの義務を盡して同島の富源を開拓するの勞を取らず、又島民中にも支那人の數少なければ、表面のみにて事實屬島たる所以を證するの料なし、特に地理上より見るも、臺灣は當然日本の所屬なるべき島嶼なり、何となれば試みに地圖を開きて一見せよ、日本の領土たる琉球と臺灣とは連続して、其一部分たるべきこと明かなればなり、次に遼東半島の占領も亦至極至當の要求にて、假令臺灣とは例を異にするにせよ、朝鮮を獨立にし、清國の版圖たるを脱せしめ、償金を得る權あると同様に、勝國が當然敗國より收むべき條件なりこと云ふの外なし。

以上遼東半島及び臺灣の占領は、一點の非難を容るゝを得ざる條件にして、加ふるに日清條約は歐洲諸國の兩手を擧げて喜ぶべき他の條件を添加せり、即ち機械の輸入に關する制限を撤去すること、清國內に於て外國人は自由に製造業を起すを得ること、江河に入るに就きての妨害を除き、内地に進んで商賣をなすを得ること、一層開港場を増すべきこと等にして、萬國は皆其恩澤に均霑するを得るものなれば、謹んで日本の注意と好意とを謝せざるべからず、我輩は夙に日本

の連戰連勝するを聞き、今後の日本は獨り清國に對してのみ其權利を利用し、進歩の實を擧げんとするのみならず、世界の強國となるべしと云ひたりき、尤も清國は此敗衄に依つて驕慢の鼻を挫かれ、遼東半島を略取せられて遺恨遺る方なかるべしと雖、之敗國に取り免るべからざる所にして、當然の結果なりと云ふの外なからん、而して英國は此占領に就き一言たりとも、異議を挟む理由を見ず、清國の如き大國が僅に其領土の一隅を割きたりとして何事のあるべき、之が爲め英國は些少の損害を蒙らざるのみか、開港場の増加等は我國に少なからざる利益を附與するものなれば、却つて日本の恩に謝すべきなり、已に英國の利益害せられざる以上は、我輩は絶えて干渉する理由なしと信するなり、と論じ、更に又今日世人の傳ふる日清條約の條件なりと云ふ者を見るに、一も不當過酷と思はるものなし、清國の如き弱國に對して、此條件は至當なるものにて、我輩は尙一層重大なる者ならんと思はれ、意外に穩和の要求なるに驚けり、これ清國の力強く、この上の事を申込まば、或は抵抗を試み、戦ひの繼續を恐れたるものにては、なく、全く日本の好意に出でたるにて、たとひこれより重き要求をなし、清國をし

て承諾だけなさしめたりとするも、結局清國は約を遂ぐるの力なからんと計りしに相違なし。而して日本が臺灣を占領せんとする心切なるは、業に已に人の知る所にして、東洋に利害の關係ある歐洲諸國の身に取り、面白からぬは元よりの事なれども、今更驚きて騒ぎ立つるの要なきのみか、臺灣と共に澎湖列島の日本の領土とならば、歐洲列國の中何れか必らず該列島を占領する者あらんと、是迄受け居りし無實の疑ひを擧らすを得べきを以て、寧ろ幸福と云ふべし、斯くて日本は莫大の富源を有し、且つ陸海軍の發源地として最も大切なる土地を得たり。次に遼東半島の占領に至つては、如何程の面積なるや、又日本は永久之を占領せんとするの心なく、一時の事ならざるかと疑ふ者さへあれど、我輩は面積の大小は毫も意に介せず、唯々此半島にして日本の有とならば、其効用に二あるべきを信ず、其一は旅順口の陸上より攻撃を受くるを拒ぎ、併せて朝鮮を保護するに屈強の基礎となることにして、蓋し朝鮮の獨立國となりしは、今後日本の保護國となりたるの證と認めて差支なきに依り、遼東半島を楯とし、其目的を遂げんとするは尤もなる事ならん。其二は旅順口を占領せば、日本は直隸灣の全權を掌握す

ると共に、清國に干渉するを得べし。我輩は未だ日本の眞情を窺ふを得ざるを以て、清國に對し如何なる處置をなさんとするや知るに難けれど、干渉するに斯かる好材料を得たる上は、其結果支那の政治上に著しき影響を惹起すべきと、吾人の確信する所なり。扱て又此戦争が支那に幾許の刺激を與へたるかは、日本人自身すら判するに苦しむことなれば、局外人たる吾々が推察し得べき様なし。若し頑迷無智の支那人をして、今回の敗に驚き斷然舊來の弊を一洗するの心を起さしめば、一二百年を過ぎたる後は、面目を改め、進歩國とならん。依然として唯我獨尊、外國人を以て夷狄なりなど罵り居らんには、終に日本の印度となるべし。換言すれば、清國は自ら迷夢を醒ますか、さなくば日本の力に依つて革新するかの二途あるのみ。然るに日本は戦勝の利を應用し、清國をして港灣を開かしめ、江河の交通を許さしめれば、是より商業を擴張せんと欲するなるべし。實に日本が僅少の歲月の間に進歩をなしたるには、誰とて唇を翫さざるものなく、すでに陸海軍に於て優に顯はしたる伎倆を以て、清國の内地に製造業を營まば、數年ならずして東洋の商工業に大變化を來すならん。此時に及び歐洲諸國中、東洋の天地

に休戚の關係あるものは、憂慮一方ならざるべし。但し我輩の爰に不審に堪へざるは、今日の所互に猜み合ひのみして、日本の情況に着眼せざるのみならず、歐洲一致して此新強國に當らんとする肝要なる大事を忘れ、日本にして商工業を盛に營むやうにならば、英國は其影響を蒙り、昔日の隆盛減するに至らんと竊に喜ぶものあるが如し、こは呆れ果てたる次第にして、愈條約を公にせられれば定めて騒ぎ立つるならん」と論結せり。

丙、三國干涉に於ける日本の態度に關する彼等の觀察

賞讃に次ぐに嫉妬を以てしたる列強は日本の勝運に制限を加へんとし來り、自家の政策に害ありと認めたる遼東割讓に對し如何なる感想を抱持し、これが實行に着手せしか、如何に日本人をして切齒に堪へざらしめたりしか。

媾和條件の詳細に歐洲中原に發表せらるゝや、露京の新聞紙は其論調を揃へて條件を非難し、ノヴネ、ヴレミヤの如きは、露國は直隸灣以北の土地割讓を寛假すると能はず、日本は威海衛及び南部地方の孰れの土壤をも合併し得べし、我輩は英國が日本と單獨に談合を付けんとしつゝありと信するが故に、歐洲列國が日

清平和條約を檢視するを以て必要なりとすと言へり。英國は此際に於て從來の感情を一變し、スタンダードの如きは、露京聖彼得堡より吾人の許に達したる通信に依つて見れば、日本は嘗に戰爭に於て其技量卓絶し、歐洲の精銳をして後へに墮若たらしめしのみならず、外交上に於ても亦敏捷に進退し、露、獨、佛三國の請求に逢ひ、早速旅順口と共に遼東半島を還附したる所行は、誠に時勢を看破したる者と云ふべし。扱て右の事件の落着し、他に未だ三國と日本との間に談判協議すべきもの残り居れど、日本は悠々として聊か急ぐの模様なきに反して、露國は在昔日を徒消するを憂慮し、一刻も早く一切の事件を終了せんとし、今や殆ど堪へ難きまでに立ち至りたるが如し。蓋し露國人の恐るゝ所は、斯く曠日彌久し、三國との交渉落着せざる間に日本の勢力は漸次に増加し、且つ味方となるべき強國を語らひば、實に由々敷大事なり。既に蔑り難き兵力を具へ、三國も心中竊に危みつゝある國なるを以て、遂には従前と事かはり、容易に三國の制壓に屈從せざるに至らん。是決して杞憂にあらず、十分道理ある憂ひなり。而して此際苟くも公平なる識見を有する者は、悉く日本の舉動に左袒し、同情を表すべきと吾人の

今より豫言するを憚らざる所にして、假令此度の戦争の原因如何なるものなるにせよ、又支那の所行の正なるにせよ、邪なるにせよ、兎に角三國の干渉を貫徹し、其是なりしを天下に示さんと欲するには、到底兵力に訴うるの外なし。道理上よりしては、一言半句の辯護の資となるべきものあるを見ず云々と論じ、プロット・アローは、日本が三國の言を容れ遼東半島を還附せしは、誠に世界の大勢に通じ、國家の安寧を維持するの最良策なりと云ふべし。尤も露國一國にて此要求を申出せしならんには、日本は断然之に應せず、止むを得ずんば干戈に訴へても、其權利を主張し、随分露の海陸軍を撃破するの見込ありしならんが、三國同盟する以上は英國、日本を助くるにあらずんば、敵し難き事明かにして、其上償金三千萬磅を得、臺灣を割讓せしめ、支那の艦隊を捕獲し、猶償金の拂渡結了する迄は、威海衛を占領するの約束なれば、敢て三國と矛を交へ、却つて前日の戦勝の利を失ふ如き危険を犯さんよりは、諸事穩和を主とし、強國と葛藤を避けしこそ、實に一國の長計なれ。然れども今後東洋の天地は、事態愈々混雜に赴くべく、今は漸く序幕に過ぎず、その次第を云はんに、露帝は一度日本を抑損し得たりとするも、日本は行

住坐臥決して此怨みを忘るべきにあらず。一度風雲に際會せば、直に昔日の恥辱を雪がんとするの猛氣顯はれ、永く歐洲強國の願使に甘んずる國柄にあらざれば、早晚激浪堤を決するの勢ひを示すなるべし。今や日本の海軍力は頓に増加し、横須賀の造船所に於て築造中なる二巡洋艦の中一は、近日竣功せんとし、支那より捕獲せる鎮遠濟遠の二艦も修繕終らば、十分其用をなすに足らん。加之英國にて製造中なる二大戦闘艦は、一八九七年に落成する筈なれば、露國は漸次發展する新強國の舉動を熱察し、年々増加し行く其艦隊に對して相應するだけの艦隊を常に東洋に派遣し置かざるべからず、其結果自然歐洲に於ける露國の勢力を減少するに至るべきを以て、此際露國は歐洲に雄飛するか、東洋に威を逞うするか、二者其一を撰ばざるべからず。即ち太平洋の海岸に専ら注意を傾けなば、バミル地方に手を伸ばす餘裕の減するは當然の成行なり。抑も露國は孰れの方向にその意を専らにせんとするか、未だ之を知るを得ざれども、朝鮮の元山津を其領土となさんとする野心を有することは疑ひなきが如し。然り而して佛國は東洋に一等巡洋艦セシル・ダージュ、二等巡洋艦スプアーズ・シューを遣はし、アルシエーイ

スリーと相合して露國の後援をなす由なれば佛國もまた歐洲にその勢力を減するに至らん。これに就きて佛國中には不審を抱くものありて、露と結ぶの必要あるは固よりなれど、斯くも軍艦を派して助くるは果して利益なりやと、政府の處置を攻撃するものあり。英國の三國と相結托して日本を抑壓するに與せざりしは、ロースベリー内閣の一功勞にして、若しかの時三國の誘ふが儘に同盟したりしならんには、日本より意外の怨恨を買ひ、兩國の交情圓滑ならざりしならんに、我は斷然信する所に違つて超然たりしと無上の幸福にして、日本は必らず此好意を忘れず、將來之に報するの時來らんと吾人の確信する所なり。而して露國の新聞紙は、今に英國が同盟に入らざりしを憎み、頻りに攻撃し居れど、無理至極なる次第にして、或一強國が戦ひに勝ちしとて何の因縁もなきに他國と提携し、勝國を壓するの要あるべきや、吾人は露國新聞紙の意を察するに苦しむなり。現に佛、獨の二國は、他日此同盟に依つて絶えて得る所なかりしを悔ゆるなるべしと論じ、ロンドン・タイムスは、日本が三國の忠告を容れ、遼東半島の永久占領を取消したるは、東洋の平和を擾擾すべき危機を避けし者にして、曩に英國政府が豫

め注意を加へし所と符合し、誠に吾人の意を得たるものなり。我々英人は、三國と相結んで日本を抑壓するを辯護するに足る理由を見出し難きを知れど、さりとて此新強國をして、戦勝の餘威に乗じ、侵略主義を試みんとするの心を起さしむるは、吾人の欲せざる所なり。日本は其地勢英國と均しく、四面環海の國柄なれば、海軍を擴張し、専ら其力に依つて一國の獨立を保持し、國威を輝かすべき筈なるに、態々大陸積きの土地を占領し、爲めに將來三強國と聲を構ふるの不利なること、識者の夙に認むる所なり。若し飽くまで己れの主張を貫き、三國の請求に應せざらんか、佛獨二國の敵に助力すると否とは姑らく措き、露國と衝突を醸し、世界の平和に波瀾を惹起すのみならず、自らも文明商業の進歩に大障礙を蒙り、折角の勝利も、十分其功を全うするを得ざるに至らんも知るべからず。日本の政治家は能く此邊に心付き、焰ゆる如き不平を抑へて、美事に難局を切抜け、平和を持続せしは、吾人の只管賞揚する所なり。されば日本國民も、亦内外の利害を熟慮し、今日の成行に甘んじ、不平の情に驅られて人にも迷惑を掛け、己れも不利益を蒙る如き愚をなさざらんこと切に希望に堪へず。露國此度の外交政略は、尙、年若き露

帝に取りては、實に上出来と云ふべし。唯吾人の大に取捨に苦しむは、日本と干戈を交ふるは海陸孰れにとりても露國の勝利を博せん事甚だ覺束なく、よし勝利を得たりとするも、年齒壯にして行末多望なる強國に永く敵視せられ、西伯利亞の門扉を嚴重に扼せらるゝ困難を冒しても、なほ戦端を開くの價値あるやにありしが、露國の外交政略は、意外に巧妙にして、聊か紛擾なくして其目的を達せり。尤も露國一箇國の力にても、日本をして讓歩せしむるは敢て出来難きにあらずりしなるべけれど、獨佛の協力せしは、益、露國の腰を強うしたること更に疑ひを容れざる所なり。或は互に反目せる二國の兵力を假りし爲め、露國は今後計らざる困難に遭遇するとなしと云ひ難けれど、兎も角此際二國の助勢せしは露國の仕合せにして、假令自ら清國の土地を略せんとの意なきにせよ、國運進歩の偉大なる新強國のなすが儘に、かの半病人の老大國を任せざりしは、其手柄と稱して不可なかるべし。故に露國の干渉は、強ち非理と云ふを得ざるべしと雖、然も我英國にありては、此事に關係し獨佛と共に同盟して、露國を助くるの必要を見ず。英國とて譯もなきに、他國の後楯となるは品格を墮す所以なるを知るを以て、己れ

に何等の休戚を及ぼさざる露國の干渉一件に與せざるは、固より當然の事理にして、毫も非難すべきにあらざるに、露國の新聞紙は佛國の臺灣澎湖列島を占領せんとするは、年來の希望なるに、之を打捨て、露國の爲めに力を盡したるは、私怨を離れて公明正大の處置とこそ云ふべけれ。然るに英國の同盟せざりしこそ奇怪にして、義理も人情も辨へざる沙汰なれば、奈翁一世の遺策に従ひ、將懲の師を起さざるべからずと唱ふ。思ひも寄らざる不當の攻撃と云ふべし。然り而して、此同盟に就き吾人の解し兼ぬるは、獨佛兩國の眞意にて、獨逸は如何なる理由のあれば、縁もなき日露の争ひに手出したるか、唯名を假したる迄と辯するの外他に辭なからん。又佛國は一層の熱心を以て此企に盡力し、却つて積年の素願たる臺灣澎湖島の占領を放擲し、遼東半島の還付に賛成せるか、從來の方針とは頗るその趣を異にせるの感を免れず。或は此度の政略は獨り日本にのみ應用するものにして、他の場合に迄用ふるものにあらずと云はんも計られざれど、然らば此格外なる政略を施したる根本の主義は如何なるものか、これ吾人の聞かんと欲する所なり。なほ日本は已に遼東半島の還附を承諾せし以上は、價金拂ひ込みの

濟む迄、抵當として旅順口を占領せんことも、三國保證となりて之に相當する債金を拂ふべきゆゑ、解除されたと請ひなば承知せざるとなかるべし。扱て其債金を貸與する者は資本の充溢に苦しみつゝある佛國なるが如しと推論せり。倫敦デイル・ニュースは、我英國政府が日清條約に干渉せざるべしと決議せしは、誰彼の別なく、擧つて稱揚する所なり。元來我英國は日本の東洋に於て強國となり、覇權を握る地位に昇進するを防ぐべき理由なしと雖、他の歐洲強國にして東洋に休戚の關係あるものは、吾人と同一の意見にあらざるが如し。而して日清條約中、土地割讓の事だけは少しく修正あらんことを望めども、全體を通じて先づ穩かなる條件なりと英國人は一般に評し居れり。但し今清國が敗北の耻辱を蒙りたる場合に當り、かれに對して同情を表し、氣の毒なりと思ひ遣ると、斷然清國の味方となりて干渉するとは全く別物なるを以て、吾人は此邊に大に注意せざるべからず。露國の新聞紙は、若し或國にして、日清兩國の間に隙を容れ、要求する所あらば、日本は必らず讓るならんと云へど、果して然るや否や、吾人之を知らずと言ひ、テレグラフ新聞は、日本と英國との利益は、太平洋に於て妙に一致し、現今英

國の舉動は、日本をして益、我を慕はしむるに至れり、已に斯く迄親密となれる上は、兩國友邦となり、緩急相援くるに至るべし。若し斯くならざることあらんか、唯奇怪と云ふべきのみと論じ、グローブ新聞は、露、佛、獨、三國同盟は、ビスマーク侯が、嘗て屢、効を奏したる、所謂掛値なき真正の手料理を得んとすと云へる手段を行ひたる者にして、此同盟起りし爲め、露佛をして其物々として漏らすところなきに苦み居る氣焰を暫らく東洋に差向けしめ、之に依つて歐洲の三同盟國は、其銳鋒を避け、一時の安を貪るを得じならん。抑も獨逸、伊太利、奧太利は、東洋の天地に如何なる事變ありとて、敢て影響を被むるものにあらざれど、唯、是獨逸帝國は佛露と結んで、東洋に於ける商買上の利益を保護せんとするなるべしと評し、ラプ・シーア氏は、トルース新聞紙上に於て日清條約を論じ、日本は清國に最惠國待遇を與ふべしと要求せりとの由を聞き、世上の操觚者は日本にして臺灣其他の形勝の地を占領し、清國に接近するに至らば、直に歐洲を凌駕して、東洋の海上王とならん。斯くては歐洲列國の不利益ならずやと云ふ者あり。蓋し此説の眞意は、亞細亞の或一國にして、歐洲列國と同等の地位に進み、轡を駢べんと欲するあら

ば、これその分外なるを以て、断然許し難しと拒絶すべしと云ふにあらんれども、日清兩國は相互の間の關係を決するに就き、他の干渉を要せず、自ら勝手に處置するの權利あれば、焉んぞ局外者の掣肘を許さんや。但し此際干渉する權利あるものは露國のみにして、彼國は今や西伯利亞鐵道を布設せんとしつつあれば、日本のなすが儘に任じ、重要な土地を所領することなからんか、非常の不利を蒙るべきを以て、露の干渉するは強ち理由なしと云ふべからず。抑も戦争の初めに於て、英國の之に干渉せん事を唱道する者もありしが、遂に其事なかりしは、何より目出度次第なり。從來歐洲は亞細亞を以て、己れより遙に劣等のものとし、到底製造業の隆盛になるべき見込なく、永久歐洲より製造品を仰ぎ、結局歐洲の版圖となるべきものなりと輕侮し居りしに、意外にも日本は俄然頭を擧げ、戦争は勿論、其他百般の事物に於て優に歐洲列國と對峙し、決して失敗するの憂ひなきを示したり。實に今後東洋の大強國は日本なり。若し吾人をして亞細亞の人たらしめなば、大に亞細亞の光輝を發揚することに力を盡すなるべしと論じ、スタンダードは、他の國々の行爲は如何なるにもせよ、我英國は日本をして其大勝利の十

分なる結果を收めしむることを阻止するの盡力に同盟すべき利害を感せず。吾人は敢て信するものなり、支那の衰弱するは果して好まじきや否や、日本の強大となるは果して望まじきや否や、是等の問題は爰に論議するに及ばず、戦ひは則ち此問題を決したり。而して我英國々民の當に熱考すべき要點は、平和回復されて支那人が最早抵抗し能はざることを承認したる今日に於て、或は日本と争闘を惹起すべき惧れある方針を執るか、若くは兎に角に日本をして、其盡力の結果を收めしむることを防止せんと計畫するは、果して我國の國是たるべきや如何と云ふにあり。若し他の歐洲諸國の中に斯かる運動をなさんとする者あるも、こは彼等の事なり、我々のなすべき術にあらず、吾人は則ち斯かる政略に聊かたりとも加はらんと、總て思慮なき舉動と考ふる者なり。若し、我政府が交戦の初めに於て支那は其全帝國を歐洲貿易に向つて開放し、歐洲流の政治組織を採用すべしとの條件を以て、支那に助力せんことを申出したらんには、そは聊か筋の通りたる政略と云ふべく、或は大にこれを賛成する議論も立ちたりしことならん。然れども當時、我政府は一切斯かることをなさずと決心したり、而して一旦斯く決

したる以上は、今更に英國政府たるもの、新に生じたる争端の渦中に入らんこと、策の得たる者にあらず。又吾人は英吉利帝國の利害が、日本を弱めざるべからず、若くは彼をして今日よりも強大なる勢力を得せしめ、今日よりも覇者の姿勢を備へたる地位に達せしむることを阻止せざるべからずと要求すべきほどに、此日清平和條約の結果に關係する次第を見ること能はざるなり。今日までの情勢に徴すれば、英國と日本との利害の衝突せざるを見るなり。勿論日本は其勝利、豫想外に大なりし爲めに、人心大に鼓舞せられて、或は冒險侵取の政略を執り、我々をして運動の止む能はざるに至らしむる事なきを保せずと雖、唯日本が如何なる方法にもせよ、果して英國の利害を毀損せんとの決心を示せし其時に於て、彼と争端を開くも未だ晚しとせず。日本が此決心を示すまでは、我々は之を他の文明國と同様に待遇すべき筈なり。且つ日本は、さしも、辛勞なる戦争を終りし後の休息を要するが故に、彼の得し戦ひの報酬たる便益を最も良く利用することを講じ、兎に角に暫らく平和政略を執るべき傾向あり。たとへ一應この事なしとするも、彼が寧ろ或他の國を措いて、英國に向ひ其勢力を差向くるべしとは甚だ信じ

難し。我々は最大の海軍國人民なり。故に吾人は日本に向つて何れの國よりも大なる害を興へ得べき力あり。吾々は日本の近傍に於て垂涎せしむべき何物をも有せず、而して日本は英國よりは侵略の惧れ全くなきことを承知せり。支那が國力を回復して來らん事を懼るゝの外、苟くも日本の憂慮をなす國あらんか、其國は我英國にあらずして露西亞なり。露國は既に支那の一部を割領せることあり。而して彼は朝鮮に於ける日本の行爲をば、隱蔽し難き疑ひを以て嫉視せり。彼が日本の支那領土割領を好まざるや明白なり。この故に若しも日本の爲めに、果して憂懼すべき歐洲國あらんか、それは即ち露國なり。勿論國民は孰れの國が最も懼るべきかを明かに識別するを以て常例とはせず、たとへ又これを識別したりとて、必らず之と争ふとを敢てすべきにあらざるは、吾人の知る所なり。故に日本が露國をして其勢力發射の針路を轉じて、或他の方面に向はしむべき一種の談合を附けんとすることあるやも知れず。然りと雖、英國の經世家は單に斯かることあるべきやも知れず。漠然たる未然の假定、若くは疑心を基礎として運動すべきにあらず。日本國民が實際に我國に向つて、敵對の運動をなす其時に至

つて、日本の政略に反對の運動をなすことも晚しとせず、我々の眞徑路たるべきものは、既成の事實を承諾し、日本に向つて英日兩國が各、その政略を平穩に實行し得べき所の條約を結び、東洋に新に爭論及び戦ひの起らんことを防止せん爲め、出来るだけ兩國協同するにありと論せり。未然の空想に依らず、既成の事實を土臺として、恒久なる運動の方針を決せんとするは、これ英人の特色なるべし。佛國の政論家は如何なる觀察を下せしや、かの有名なるフレイ氏は、英國はその方針を一變したりかれは是まで日本の勝利を嫉みて止まず、遂に歐洲の諸強國を語らひて、日本帝國の勇猛なる士卒に反對せしめんまで企てたるに似もやらず、今は即ち翻然其舉動を改めて、日本の親友となり、飽くまでも之を助けて、其利益を保護するの決心を示したり。吾人は英國の此不可思議なる舉動をば唯ありのまゝに記述するに止まり、其批評の如きは之を他日に譲るべし、英國のなす所斯くの如くなるに反して、佛蘭西及び露西亞は開戦以來常に日本の勝利を聞きて悦び、且つ從來寸毫の害を與へたる例なきにも拘らず、今、日本は吾々に向つて忽ち之を敵視し、反對の運動を始めたり。吾人は夙に日本が佛國の爲めに願は

しき同盟國にして、後來支那をして東洋に於ける我植民地及び歐洲諸國に向つて、侵略を逞うするに能はざらしむるには此國の力を借るの外に路なきを主張したれども、吾人の説は遂に行はれずして、佛國は今や日本が其戦勝の報酬として得たる所の者をば、傍らより無法にも奪去らんとするの位置に立つこととなりしぞ、是非なけれ、然のみならず、かの獨逸國は俄然其中立資格を放棄して、日本に敵對の實を現はし、以て一方に於て多年來の讐敵たる露佛二國を化して、自家の同盟國たらしむるを得たり。吾人は實に彼の外交謀略の巧みなるを嘆稱せざるを得ず。佛蘭西と露西亞は首尾よく獨逸の爲めに籠絡せられたるものと云ふべし。昨日は獨逸國キールの運河開通式に露西亞と共に艦隊を派遣することを非なりとして、大に政府を攻撃したる佛國人民が、今は則ち獨逸の同盟となりて怪します又悲します、一言の不平を唱へずして恬然たりとは、時勢人情の變遷も亦急なるかな。吾々佛國人はわが最も慘酷なる讐敵と相親しみ、相携へて以て、我に對して何等の罪なき日本を敵としたり。かのアルサス・ローレンの事は、佛人の腦裏より脱出し終りたるか。佛人にして果してメツ若くはストラスブルヒに進

入するの意志あらば吾人は日本は其順路にあらざるを注意する者なり抑も支那は之を寸断に分割すること世界の利益なるに偶日本が其一片を取りたりとて直に干渉するとは實に譯の分らぬ不法の所爲と云はざるを得ず露西亞一國のみは多少干渉の口實なきにあらず即ち彼は滿洲に良港を得んことを目的として今度の運動を始めたる者ならん然れども露國の眞の敵は果して日本なるや否やは頗る疑ひなき能はず吾人の所見を以てすれば假令日本が遼東半島の割領を思止まりたればとて其結果として直に露國が滿洲に港を得るが如き事は先づ以てなかるべしと信する者なり若しも露西亞にして望み通りに良港を得ることあらんか獨逸及び英國は能く袖手して之を傍觀すべきか如何容易に確答すべからざる問題なり之を要するに今度の件に就き露西亞一國は稍干渉すべき理由なきにあらずれども吾人の所見を以てすれば彼は大に策略を誤りたる者と認めざるを得ず佛蘭西の如きに至つては明かに自家の利益に反對の運動をなしても其同盟國と進退を共にするの必要に迫られたる者なり獨り獨逸は干渉すべき理由とては利益上にも又徳義上にも更になき國柄なれば彼は

此一舉に由つて佛露二國を自家の同盟國となし親友となさんとを試みたる者にして其策略の巧みなるには兎に角感服せざるを得ず只吾人は露佛二國の政略が之に反して甚だ拙劣なりしを惜しむ者なり此際佛國人民はアルサス、ローレンの事を一日も忘るゝとなくメツ及びストラスブルヒが佛國の領地に入らざる間は必らず獨逸の同盟を排斥せざるべからず吾人は國を愛するの一心より徹頭徹尾この同盟を賛成する能はず國民の義務としてこゝに聊か卑見を陳して世人の考慮を求むる者なりと痛論せり獨逸の新聞は英國の日本に對する意向には甚だ平かならざるものありジヤン・メール記者はこの消息を傳へて日本に對する三國の連合に英國の加はらざりしことは大なる激昂を招けり獨逸及び露西亞の新聞紙は多少の怒氣を含みて論せり獨逸新聞所論の要旨は誰も英國に向つて十分に助力を乞ひたるものはなし三國の力は英國を加へずして其志望を強行するに足れり且つ三國は英國が日清戦争の初期に於て自ら招きし所の厭惡の爲めに苦めらるゝの情なきが故に英國の協同は擲棄するも更に妨げなしと云ふにあり然れども獨逸新聞紙の語調は伯林政府の感想を代表せ

しものとは覺えず、大英國の三國連合に加はらざりしにも拘らず、其權力の重みは獨逸經世家に於て輕侮せず、苟くも英國が日本に向つて三國の忠言を容るゝことを賞揚せば、其言葉は獨逸の歡迎する所なるべし。之を要するに日本の友誼を犠牲に供せざらんとするの著しき苦心、獨逸に存せしは明白なり。即ち彼は露佛に同盟して日本に苦き丸藥を服用せしめんごせしも、其丸藥に出来るだけ金箔を着せんと苦心せり。日本が戰勝の正當なる結果を享有するに、何等の妨害をなさざる者と了解せられん事は、彼が最も希望せし所なり。一方には日獨の友誼を厚くせんとし、他方には歐洲政略の爲めに東洋を犠牲にせんとする獨逸の姿勢は、實にかの草履片足、下駄片足の英雄が機敏の働きを要する者なりと言へり。

第七節 日清戰後に於ける彼等の將來觀

日清戰役は終に三國干渉を以て其大詰となし、勝利の利運は、彼等の驚駭と嫉妬とに依り言外の壓迫を受けて其終幕となれり。此時に方り英國より見て日本を將來の危險物となすあり、又同盟すべき良友なりとなすあり。日露の間には深怨

の結ばれて、終には戰ひの已むを得ざるに至るべしとなすあり。此論者は最も多數を占めたるが如し、要するに彼等の觀察は輕侮に始まり、次ぐに驚異を以てし、更に激賞驚歎、而して終に嫉妬抑壓を以て終れり。其將來觀は果して如何。

倫敦タイムスは日清條約を論評したる末、日本の將來に就き論じて曰く、此度東洋の天地に於て起りたる一大活劇を觀察し、之を研究するも、何分土地遼遠の事とて、儘かに正鵠を得ると云ふ譯に行かず、或は杜撰の謗りを免れざるともあらん。然れども、先づ吾人の見る所を以てすれば、東洋の中心點とも云ふべきものに、一大變革を生じたるを覺ゆ。即ち日本は豫て熱望せし通り、東洋の覇者となり、爾來益、國運旺盛とならんとす。之と反對に、清國はたとひ如何なる目出度好運に遭遇するにせよ、數千年來の弊資を一洗し、政治上及び商業に於て、勇氣勃々たる日本に敵せんこと、到底覺束なし。現に清國の士官登用法なりと云ふを聞くに、舊套陳腐なる經書の試験を以てすと、斯くの如くにして焉んぞ前日の耻辱を雪ぐを得ん、實に淺間じき次第なり。日清兩國の優劣は更に論する迄もなく、一目瞭然なり。されど今回東洋の大革新が、世界に如何なる影響を及ぼすべきや、未だ判然た

る定説を抱ける者を見受けざるが如し。要するに日本現在の趨勢に於て、將來をトすれば、終に歐洲強國の好敵手とならんとする傾向あり。これ決して誇張の言にあらざる。僅か許りの歲月の間に、歐洲の文明を輸入し、美事に諸般の改良を斷行し、今や出藍の譽を博したる程なれば、此勢ひを以て進まんには、其前途容易に計り難かるべし。但し我等は此點に就きて、日本の將來こそ斯くあらんと漫りに揣摩を逞うして、却つて僻見なりなどの嘲りを買はんより、寧ろ徐にその形勢を熟察し、然る後判断を下すも敢て遅じとなさざるべし。何となれば古來日本の如き偉大の進歩をなしたる例あれども、其進歩には概ね際限ありて、何處迄も此度合を以て進むを得る者にあらねば、暫らく時機の來たるを待ち、今後猶一層重大なる事件の起りし時、果して幾許の力あるかを判すること、至極正當なりと信ずればなり、輕舉は事を誤まるの源なれば、頗る慎重を要す。

又有名なる日本通サー・エドウィン・アノーノルド氏曰く、這回の日清戰爭に於て、日本の得たる勝利は蓋し北米合衆國の獨立戰爭以來未曾有の大勝利なり。古來東西兩洋の間には障ありて、事情相通せざりしが、最初英國は此障壁を破りて印度

を開き、米國はペルリに命じ日本をして鎖港攘夷の迷夢を攪破し、文明國の仲間入りをなさしめたり。而して今や日本は翻つて前後に比類なき大勝利を奏し、以て支那を開明に導かんとす。何ぞ其進歩の偉大なるや。但し予は此敗北に依つて、清國が文明國の一となるべしとは思はず。又日本とても廢頽極まる清國政府を一新するの勞を執るべしとも豫想せず。何となれば清國內には腐敗せる儒教の空氣充滿し、上下擧つて改良進歩の味を知らず、徒に數千年來の舊法を墨守し、自家眞正の利益を悟らざるもののみなれば、之をして文明開化の餘澤に浴せしめんこと、到底望むべからざる事業なればなり。即ち日本が清國に對して大勝利を得たるは、或意味に於ては清國滅亡の種を播きしものにして、敗軍を悔い、奮發一番せんことは先づ以て清國に望むべからざる事ならん。

今後東洋の大文明國となり、霸權を掌握する國は取りも直さず日本にして、假令清國をして根本より革新せしむるが如き徒勞は、日本に於て企つることなかるべし。雖、從來一切外國と交通せず、獨り桃源の夢を貪りたる妨害物を取り除け、幾百年となく埋没せる富源を開拓し、近世文明の利器を移植し、商業工業を盛な

らしむるの工夫だけは廻らすなるべし。これ嘗に清國の利益のみならず、日本自らも亦その利を得、兼て歐米諸國も均霑するを得ればなり。而して日本人の道義高尚にして、且つ聰明なるは予の特に嘆賞措かざる所にして、よし多少の缺點なきにあらずとするも、こは萬國を通じて免れ難きものなれば、之を以て日本人を責むるは己れを顧みざる者と云ふべし。予が日本を辭する少し前に、一日伊藤伯を訪問せしに、伯は日本國を進歩せしむるの策を問ひし故、予は之に答へて、若し予をして閣下の位置にあらしめんか、現今の海陸軍を二倍し、婦女教育の良法を講じ、石炭銅鐵を彌採掘するなるべしと。爾來予が忠告せる事業は着々功を收め、今日に於ては既に世界強國の一となれり。或は此言たる日本を稱揚し過ぐるの嫌ひなきか、日本は文明の競争に堪へず、倒るゝの憂ひなきかと疑ふ者もあらば、予は只管日本の實情に通せざるを笑はんのみ。日本將來の至極有望なるは、予の斷じて保證する所にして、宇内の大海軍國となると亦疑ひを容れず。尤も日本には鐵を産せざるを以て、英國の如く自國に於て軍艦を製造すること困難なるべけれども、然も日本人は腦髓を有せり、鐵は購ふを得べきも、腦髓は購ふを得ず。

則ち何ぞ鐵なきを憂へん。他國より輸入して充分軍艦を製造するを得べし。若し日本にして、甲鐵戰艦を製造する能はざれば、これなくも可なり、巡洋艦を續々製造して以て勇を張るの餘地あり。

次に日本商工業の進歩を観察するに及んで、予は英米の途にかれが爲めに蹂躪さるゝ所とならん事を恐る。我々外國人の考にては、逆も想像し能はざる程、日本に於ける勞働者の賃銀は廉にして、歐米の高き賃銀を以ては之と競争して勝を制せんこと思ひも寄らず。或は海關稅を引上げて己れを保護せんと欲する國もあらんかなれども、到底行ひ得べからざる拙策にて、譬へば惡疫を防ぐに砲彈を用ふるが如し。何等の効なきこと一目瞭然たり。試みに彼國紡績業の發達を見よ、英國同業者は後へに墮若たらんとしつゝあるにあらずや。是獨り紡績業のみに限るにあらず、其他諸般の製造工業に於て、未來日本こそ東洋の英國となる國柄なるべけれ。要するに低廉なる賃銀を利用し、熾に製造を奨励せば、天下また日本に敵するものなかるべし。

日本人の道德に就きては、事理に暗き外人は、己が本國に於ける道德の標準を以

て日本人に臨むが故に、此等の人々には不道德なりと見ゆる所行あるべけれど、右は真正なる観察の方法と云ふべからず。國を異にするに従ひ、道徳は勿論萬般の事標準を異にするものなれば、我等は此道理を念頭に存じて判断するを要す。斯くの如くして観察すれば、日本人は世界中又あるまじき最も高尚純粹にして義氣に富み、人情深き人民と云はざるを得ず。蓋しこれぞ正しく、日本をして將來世界の強國とならしむる源なり。特に予をして感動せしめたるものは、自尊の念強く、愛國心熾なることの國內一般に通じ居る事にて、假りに最北に生活する人民と、最南の人民とを一堂に會せしめ、其性質を察するに、相互の間に毫も猜忌心を挟まず、皆一様に愛國心に富み、自尊の氣満ち、住所を異にするものとは更に見受けられざるを知らんと。

是等は必竟一般的觀察なるも、今日英間の利害觀としての結論を見ざるべからず。佛國のラヴイ・コンテンポレーヌ雜誌は、東西洋の兩端と題し、將來英國の勁敵となるべきものは日本なるべきを論じていはく、一八七九年のころ日本が海軍に費消したる費額は年々僅に十四萬磅ばかりにして、將校二百名以下、水兵千五

十人、軍艦は小甲鐵艦三隻と同數の砲艦を有するのみにて、至極微々たるものなりしが、爾來國運の進歩盛にして、今や新式に依つて製造されたる軍艦三十隻、外に多數の水雷艇砲艦を有し、將校水兵を合して一萬五千人に達し、その精銳剛勇なるは天下無比と云ふも過言にあらず。尙日本の造船術は非常に發達し、最早歐洲に依頼せずして、砲艦巡洋艦を自ら製造するを得る迄に至り、現に日清戰爭の當時、一砲艦の進水式を行ひしに、天晴なる好果を奏し、海軍技師は造船術進歩の形況を政府に報告し、絶えて歐洲に譲らざるを證せり。已に此勢ひある上に、此度の海戦に於て清國の軍艦を捕獲し、頻りに其損所を修繕しつつあれば、遠からずして日本の海軍力に一層の強きを加ふるならん。但し以上の軍艦だけにては未だ歐洲の二三強國の同盟に抗して勝を制するを得ざるゆゑ、今日の所敢て恐るゝに足らざれども、清國より償金を受取り、之を投じて軍艦製造費に充てなば、他の諸國は愚か、英國に對しても十分優勢を張るを得べし。實に此新強國は、世界に恐るべきもの又あるべからずと信するなり。而して之が影響を直接に感ずるものは英國にして、從來獨占の利を占めたる通商航海業は、日本の競争に逢ひ、大

に利益を減殺せられんと蓋し必然の數なるが如し。其次第を云はんに、日本は將來東洋の大商業國とならんと欲し、支那を誘導して富源を開拓し、石炭の無盡蔵なるを幸ひに、これを使用する工業を熾に創設せしむべし。支那の石炭に就き、有名なる獨逸の地理學者リヒトホーヘンが、獨逸政府に報告したる所に依つて見れば、實際利用するを得る面積は、百萬平方キロメートルなりと云ふ。誠に莫大なる數にして、此富源を以て諸般の工業を起し、航海業を擴張せば、二十年以後に至り、東西兩洋の航海權は、全く日清の掌中に落ち、歐米諸國は後へに墮若たらんと鏡に掛けて見る如く明白なり。特に歐米諸國にして、互に猜合ひにのみ忙しく、意外の勁敵の顯はるゝを忘れなば、益かの兩國に屈強の機會を與ふるものにして、商業政策上は勿論、遂に領土迄狭めらるゝに至らん。即ち白色人種は、黄色人種に壓倒せらるゝ迄の虞れはなかるべきも、黄色人種追々世界に跋扈し來たるべきは、吾人の斷言するを憚らざる所なり。已に露國は此影響を感じ居るなれば、佛國とても其災を免るべからず。交趾支那、柬埔寨、東京^{シキ}を合して一國に組織し、製茶養蠶の業を獎勵し、他日、日清兩國の蹂躪する所とならざる工夫を廻らすは、誠に焦

眉の急務なるべしと信するなりと。又スペクターは、若しそれ武裝の完整、糧食の充實、號令の嚴肅を具備せる日本海軍にして、堅忍不拔の特性を有する士官水兵之に乗組み居るとせん乎、日本は實に非常の海上權力を有する大強敵と見做さざるべからず。唯該國にはなほ多數の戦艦を要すと雖、渠等は之を自國に於て製造するの力を有する上に、更に之を購入するに要する巨額の金員も容易にして之を得るなるべし。即ち日本は強國として絶對的第一流の地位は未だ之を占めざるも、其活動力に於ては實に第一等の力を有する者なり。何ぞ圖らん、此一大強國の亞細亞絶東の地に忽然驟起して顯れ出でんとは、今吾人の見る處に據れば、我宰相にして遠謀の政治家たらんには、此新強國に對し勉めて敵意を買はざるを以て善とするなり。然るに就れの政黨に於ても、其策此に出でず。妄りに歐洲の同盟を恃みて日本の膨脹力を防遏せんとするの傾向あり。吾人は此同盟の久しきを持すべきや否や未だ之を確信するを得ざるなり。到底吾人自身の力に依らざるべからず、而して此力たる尙必要の一元素たる軍港を缺けるを以て其強弱亦知るべきなり。抑も日本と英

國との間には戦端を開くの理由なしと雖此兩國間に海權の争ひあり互に妬心を挾むに至るは止むを得ざるの勢ひなりとす。故に若し日本帝國政府にして其國民の傲慢に誘はれ冒險奪掠的政略を取るに於ては吾人の特性として之を迎へ其衝に當らざるべからず。此時に至つて支那通商の市港たる香港及びビーコンス・フィールド侯の會て亞細亞の鎖鑰と稱したる新嘉坡其他ボルネオ印度は勿論濠洲と雖遂には其攻撃を免れ難き地とはなるなり。

今や日本は亞細亞に覇たらんことを望み海戰に於ては英國をして甘んじて次流に居らしめんと欲するが如し。然るに吾人の之に備ふるの計策は如何なる度にもまで達し居る乎。乞ふ吾人をして今茲に之を論せしめよ。我海軍本部は若し事あるの日に當つては一舉して日本艦隊を滅盡せんとの議論を以て曩に我支那艦隊を巧みに増加したり。當時吾人は其運動を以て早計なりと評せしがこれ實に今に於て其非なりしを知るなり。然れども若し一朝事を生せんか假令捷利は我にありとするも其捷利たるや其名のみにして實際に於ては彼我亦非常の損傷を蒙らざるを得ざるなり。此時に當りて彼我二國の艦隊は如何に其損傷を處

すべきや日本艦隊は則ち其占領せし軍港たる旅順口に退きて修理を加へ以て再舉を圖るの見込あるなり。然れども我損艦は何處に往くべき實に六箇所の石炭積場とチャゴス(海軍以外の者は既に之を忘却したるならん)の一倉庫とを有すと雖甲鐵戰艦に修理を加ふべきの場所に於ては孟買を除きて何處にかある。而して孟買たるや其英國を距ると同様に北支那を距ることも亦遙遠にして全く吾人が防禦に掛念せる諸地以西にあるにあらずや。故に吾人は孟買以東千哩の地に一軍港を求めざるべからず。然るに未だ之を得ざるのみならず危急存亡の秋に當り一時姑息の手段に用ふべきの場所だに猶之ありと謂ふを得ざるなり。即ち緊要の場所を缺くと斯くの如くにして吾人は東洋の運命即ち前記に描想せる如き海戰に當らざるを得ずとせばこれ豈危殆と謂はざるべけんやと極言し又英國ビーオー流船會社の半期報告に際しサー・トーマス・サマランドが報告の説明をなし實に將來英國の商敵となるべき國は日本なりとの警戒を加へしが其趣意に曰く兼て我々の豫想せる如く商况の恢復速ならず今に依然沈靜なるにも拘らず乗客貨物共に貨銀の收入少しく増加せる理由は貨銀の割合を

高めたるに因るにあらずして、従前よりは一層大なる船舶を使用するに因るを悟らば、此収入の増加左程喜ぶの價ひなきを感せん。實に東洋貿易の情勢次第に變化し來たるは、我々の失望に堪へざる所にして、先づ日清戦争の政治上商業上に及ばず影響の如何なるべきやを今日に判断するは、尙早の嫌ひなきにあらざれど、爾來東洋の形勢には大變動を生じ、英國人にして東洋に利害の關係を有する者に困難を覚えしむるは、蓋し争ふべからざる成行ならんと信するなり。其次第を云はん、今後幾許ならずして、日本は諸事萬端偉大の進歩をなすべきは明白にして、此進歩は英國の製造家及び船舶の所有者に毫も利益を與へざるべきを恐る。例へば紡績業に於て、孟買は英國ランカシャの同業を凌駕したるに、今は翻つて日本、孟買の紡績業を壓倒せんこと、又二年前までは歐洲北部より印度へ輸出せし燐寸の額莫大なりしが、之も漸々日本品の驅逐する所となり、已に今日に於ては、印度へ輸入する燐寸は、全然日本製のみなるに至れり。草木の靡くを見て風の方向を推察し得べき通り、此勢ひを以て進まで日本の商工業は非常に進歩し、印度支那は日本の市場と變じ、我々英國人は遂に二大顧客を失ふの非運に

陥るべし。但し將來斯かる大變動の起るあらば、是獨り日本の富源豊かになるが故のみにあらず、銀貨下落の勢ひ與つて大に力あるべきを予は斷言するに憚らざるなりと云へり。

之に反して日本を味方とし、是と同盟する事を可とするの論者は、ダブリュー・エック・チ・ウイilson氏にして、同氏は書をユナイテッド・サーヴイス・マガジンに寄せて、平和條約既に調ひて、日本が世界の一強國たる新位置を得たるに就きては、東洋に於ける此大變動の結果を考究するは、蓋し無益の事にあらざるべし。凡そ十九世紀に起りたる出來事にして、日本國の勃興の如く迅速に、意外に、又面白き事柄はあるべからず。僅に五十年前には、日本は人の知らざる野蠻未開の人民なりしに、今は即ち世界の強國となり了りて、今後露西亞、佛蘭西、英吉利が、支那を分割する場合には、必らず勘定の中に入れらるべき一個の勢力として認めらるゝに至れり。日本の海軍は勝誇りたる勢ひ頗る猛烈なる上に、支那の艦隊を吸収したるが爲めに、大に其實力を増加したり。又彼は大なる戦闘艦二隻を英國に注文し、目下エルスウキック及びティームスにて製造最中なり。此外に日本の造船所にて

二隻の強力なる巡洋艦を製造しつつあり。是等の船艦にして愈々出来上りたる曉には、日本の海軍は中々油断し難き大勢力となるは必然にして、世界各国の中に之に勝る海軍を有する者は英、佛、露、伊、獨及び北米合衆國の六國のみ。即ち日本は世界第七の海軍國となるものなり。日本政府は其海軍を維持する爲めに、横須賀及び小野濱の二箇所に造船場を所有せり。横須賀には如何なる修繕をなすにも差支なき大船渠及び機械を備へ、且つこれまで同所にて製造したる大なる巡洋艦の數少なからず。小野濱の造船所は規模大ならず、僅に砲艦製造の用に供するのみと言ひ、日本にて主なる造船所の船渠の容積を掲げ、更に右の外に三箇の傾斜船渠あり、最大なるものは二千噸の船體を容るゝに足り、他は六百噸及び九百噸の容積なり、若しも日本が旅順を割領することとならば、前記の表になほ四百呎の船渠一個と、凡そ二百五十呎のもの一個とを加へざるべからずと言ひ、東洋に於ける日本、露、西、亞、英、吉、利の海軍力を比較したる後、右三個の艦隊中最も強き者は恐らくは日本なるべし。何となれば、日本軍艦の大なるもの十餘隻は、悉く大口徑の速射砲を備ふれども、英、露の軍艦には其備なきもの多ければなり。日本の

弱點は甲裝艦の少なきことなれども、此一點に於ては、露、西、亞も別段優ぐれたりとは思はれず、如何となれば彼の所謂戰艦二隻は、唯これ甲裝したる砲艦に過ぎず。又四隻の甲裝巡洋艦なるものも、強大なる軍艦には相違なしと雖、その甲鐵は水際の一局部を掩ふのみなればなり。英國の艦隊にはセンチリオンCenturionの如き甚だ強大の戰艦あり。また其外に三隻の美事なる巡洋艦ありと雖、單に船の數及び力より云ふときは、日本と戦うて必勝を期すべからず。露、西、亞と日本と戦ふときは、勝利は日本にありと云はざるを得ず、何となれば日本艦隊は露の艦隊よりも強きが上に、彼は大なる船渠及び造船所をば手近に控へ居れども、露國の浦鹽斯Port Arthurは、根據地として萬端の準備頗る不整頓なればなり。日本の陸軍も亦海軍に劣らず甚だ強大なり。ノルマン氏の近著「極東」に掲げたる表に據れば、日本陸兵の總數は、現役、豫備、後備を併せて二十七萬餘人にして、是等の兵士は不規律不訓練の徵發兵にあらず、何れも歐洲諸國の兵に劣らざる教育を受け、西洋式の戦術に熟練し、最近最良の銃器を帯びたる其上に、實際の戦争に非常なる忍耐力と、最も強靱なる勇氣とを現はして、世界の耳目を驚かしたる者

共なり。世間或はなほ日本人の實力を疑ひ、彼等は怯弱無類の支那兵と戦ひたればこそ、斯く容易に勝利を得たるなれ、日清戦争の結果を見て、直に日本兵士の勇武を稱揚するは大早計なり、兎に角に、かれが歐洲の兵士と戦場に出會したる其時に於て、始めて日本の實力如何を知ることを得べし云々の説をなす者あり。一應尤もなる説の如くなれども、吾人の所見を以てすれば、日本兵は歐洲の兵を相手にするも決して後れを取る者にあらずと信するなり。此事を明かにするには、過般の戦争に際して、日本軍隊の採りたる作戰方法、及び其結果を吟味考究するの外に途なかるべし。先づ第一に日本海軍のなしたる所を見るべし、彼等の艦隊に屬する吉野、橋立の如き軍艦は、造船術上極めて繁雜なる標本にして、船内に備附ける器械の如きも、頗る入りたる上に、其種類甚だ多く、之を使用するに尋常ならざる熟練と注意とを要するは勿論なり。然るに黃海の戦ひに、其士官は最も巧みに此類の船を運轉し、砲煙天に漲り、乾坤潰裂せんとする大混雜の最中に、肅然秩序を亂さず、各艦皆能く其位置を守り、信號に應じて進退掛引したる其手際の美

事なるは、稱讚するに餘りあり。これぞ全く平素の規律訓練宜しきを得たるが爲めにして、歐洲の何れの國の艦隊にても、日本艦隊が黃海の戦ひになしたる程の事をなして榮譽とせざるはなかるべし。之に反し、同じ戦ひに支那艦隊の舉動は、實に不都合千萬にして、例へば致遠は命令に背いて自づと衝突を試み、平遠は故なく戦列を離れ、揚威と超勇とは、各自の位置に就く能はず、濟遠は卑怯にも逃走を企て、其途中に揚威と衝突して之を破壊するなど、其混雜狼狽の有様は、殆ど名状すべからず。日清兩艦隊の舉動に、斯くの如き大相違あるを見る時は、吾人は乗組水兵及び將校の勇氣伎倆に於て、二者の間必らず非常の懸隔あるべしと想像せざるを得ず。之を要するに、黃海の役に於ける日本艦隊の働きは、歐洲の如何なる艦隊と雖、超越する能はざる所なりと云ふて可なり。陸上に於ても、日本人の武功は更に劣る所なし、彼等の軍隊は財を盗み、家を焼き人を殺すを目的とする野蠻兵にあらざるのみか、自ら己れを制し、敵に對し憐憫を加ふるの段に至つては、歐洲の軍隊に比較して一步も譲らざる文明兵なることは、吾人の親しく實驗したる所なり。蓋し旅順港に於て、彼等は一時慘虐を恣にしたれども、之は殘酷極

まる支那人の處置に激せられて施したる復讐の所爲にして、聊か恕すべきの情なきにあらず。思ふに歐洲の軍隊とても同様の場合に遭遇せば、必らず日本人と同様の處置に出づるならん。現に英國人が印度に於て働きたる暴行は、旅順に於ける日本人の所行に比して、毫も異同ある所を見ず。支那人の殘忍にして、詐僞を事とするは、亞富汗人と同様なるにも拘らず、日本の兵士はこれを相手にして、常に仁恵を施し、出来る限り其生命を保護したり。又日本の兵站部は實に驚くべき程よく整頓し、軍隊の給養に缺乏を告げたること曾てなし。先年アビシニヤ征伐の際、英國の兵站部が極めて僅少の人数を十分に給養すること能はざりし事實を想起するときは、吾々英人は日本人に對して聊か赤面せざるを得ず。又日本の將校は眞實軍隊を支配するの能力に乏しからず、其作戰計畫の如き大に見るべきものあり、彼等は常に敵を撃つべき處に撃ち、曾て機會を空しくしたることなし。モルトケ將軍を雖、恐らくは日本の今回の作戰計畫に勝るの名案妙計を工風するとは出来ざりしならん。其他實際の戰圖に至つては、未だ日本兵の眞價を知るに由なし。何となれば支那兵は常に逃走し、一回も強情に抵抗したることなき

ればなり。日本兵の勇氣に富める事に就きては、今更一點の疑ひあるべからず。銃丸に其身を打抜かれたる喇叭卒が、死に至るまで進軍喇叭を吹きて已まざりしとの哀れなる話、及び同人の父なる一農夫が、其子の死を聞きて、彼は國の爲めに死したる者なれば、予は悲しみます、却つて悦ぶ者なり」と述べたる其逸話は、よく日本人民全體の氣象を表はす者なり。凡そ東洋諸國の歴史に、日本兵の如く勇武なる軍隊の存在せし例は曾てなし。吾人の所見を以てすれば、日本兵は教育の點に於ても、訓練の點に於ても、又愛國心に富める點に於ても、露西亞人と比較して勝ることも劣ることなきは明かなれば、かの土耳其人が、ブレブナに於て、露西亞人を破りたるが如くに、日本もまた其北方の大國を打惱ますは、強ち難きにあらざるべしと信する者なり。兎に角に亞細亞人種は其性質よりして、劣等の人種なりとの妄想は、日本の爲めに全く顛覆せられたり。而して亞細亞人種が斯く俄に勢力を加へたるは、主として彼等が東洋の舊慣を脱して、歐洲の文明を採用したるが爲めなれば、今後萬一にも歐洲が亞細亞人種の爲めに侵略せらるゝことありとするも、敵の軍隊は決して、亂暴無規律の野蠻兵にあらざるだけは明かなり。此點

に於ては歐洲人は須らく安心して可なり、蓋し東洋に幾多の新シンギスカンを出だすとも、歐洲の爲めには更に恐るゝに足らざれども、獨り山縣將軍の一派に至つては眞に恐るべき強敵として記憶すべき者なり。

以上記述したる如く、今日太平洋には日本と名づくる一大強國あり、此強國の向背如何に由りては、或は歐洲列國の運命を一變せしむるを得べし、彼は支那海の全權を握り、其位置は軍略上より云ふも、商賣上より云ふも、殆ど申分なし、彼は英國と事變り、自ら己れを支ふるの力あるを以て、假令其艦隊にして全滅することも、國民はこれが爲めに饑餓に迫るが如きことあるべからず、日本の國勢は英國と同じく、一方には大洋あり、一方には大陸あり、而して南には佛蘭西なくして、其代りに無數の豊饒なる島嶼あり、是等の島嶼は、日本の意見次第にて何時にても自家の所有となすことを得べし、何となれば和蘭と云ひ、西班牙と云ひ、共に日本の領海に於て、日本と戦ふの力なければなり、唯日本には一個の危険なる敵あり、浦鹽斯德に於ける露西亞即ち是なり。

此際に當り我英國は日本に對して、果して如何なる方針を取るべきか、既往の事

蹟を糺し、又將來の形勢を察するに、彼の利害は即ちわれの利害にして、彼の敵は即ち我の敵なり、吾人は如何なる點に於ても、日英兩國の互に衝突すべき理由を見出すこと能はず。若しも日本人民の調子にして、目下少しく英國に反對の氣味あらんか、これ全く英人の自ら招く所のみ、幸ひにして今日までの處にては大なる間違もなくして済みたれども、此際英人たる者は、殊に注意して自家の利害のある所を察するにあらざれば、他日噬臍の悔ひを免るべからず。目下吾人の最も危険とする所の者は、即ち世間に評判高き英露親交云々の説なり。今日に當り、英露兩國が睦じく相交はらんとするは、恰も熊と羊と同居して樂しまんとするに異ならず。英國の羊は餘程よく注意して、自ら衛るにあらざれば、如何なる災害に遭ふやも知るべからず、恐るべきことなり。吾人の見る所にして違ふことなくんば、露西亞が英國と親交せんと欲するの主意は、かれ一國の力にては到底日本の意に逆うて、東亞細亞の土地を略取すること能はざるが故に、英國艦隊の力を利用して、以て此目的を達せんと欲する者に外ならざるべし。英國は既に世界中到處に有り餘るほどの土地を所有するを以て、もはや此上に自ら東亞の地を略取

するの必要なしと雖露西亞が自ら土地を得んが爲めに、我英國を道具として利用せんとするに至つては、吾々は彼に向つて嚴しく其理由を詰問せざるべからず。露西亞は近來英國に對して親密の風を裝へども、其内心には痛く我を嫌忌して敵對の情を抉むに相違なき證據は、彼國新聞紙の論調を少しく吟味すれば明白に發見するを得べし。何となれば露國新聞紙の記事論説は、總て皆政府の檢閲を経るの規定なるが故に、其紙上に現はるる所のものは即ち政府の意見なりと認めて差支なければなり。然るに近來ノースウレミア及びモスコヤヴキデモスチの兩新聞共に英國を屬言して止まず、互にその攻撃の他よりも緩ならんことを唯これ恐るるものゝ如し。されば今日英國が露西亞と相提携して、共に東洋の事を處理せんなどは到底云ふべくして行ふべからざる空想にして、一國の政策としては拙の最も拙なるものと云はざるを得ず。此際に當り若しも英國が躊躇決せざる間に、日本と露佛二國と互に相結托するともあらんには、それこそ我英國の爲めには由々しき一大事にして、わが支那艦隊の安危は兎も角として、香港、シンガポール及び濠洲の植民地は、之を如何にすべきや、思つて爰に到れば

實に悚然たらざるを得ず。

右の如き次第なれば、英國が日本の味方となりて其權利利益を支持することに決心するは、正に目下の急務にあらずや。日本にして我同盟國とならば、英國は常に支那海に大艦隊を派遣し置くの必要なきに至るべし。其結果として一等戰艦一隻と巡洋艦數隻とを利することもあらんには、唯其一事の爲めにも日本と同盟するは得策なり。况んや日本を味方とするときは、亞細亞大陸に於ける我利益を守護するに當りても、非常の便利あるに於てをや。蓋し露西亞にして、若しも支那領土^{トキヤスチヤ}、其斯坦^{キヤン}及び西藏の東部を占領する時は、彼は次に印度に向つて攻撃を試みんと欲するならんも、其時に當り、日本の爲めに太平洋に面する自家の領土を取らるるの恐れあるときは、必らず敢て其計畫を實施せざるべし。又日本の艦隊は暹羅に於ける佛國の運動を制禦するの力としても効能少なからざるべし。又佛蘭西と露西亞とは明かに英國の敵なれば、今日英國が日本と同盟したればとて、これが爲めにかの二國の敵心を別段に増加するの憂ひあるべからず、其邊に就きての心配は、總て無用なりと知るべし。今回戰敗の結果として支那帝國

の運命は如何に成行くべきや、これを前知すること甚だ難しと雖、吾人の所見を以てすれば、其北部は次第々に露西亞の爲めに蠶食し終られ、其南部は分裂して數多の獨立國となるならん。兎に角に支那の潰裂瓦解は、世界の耳目を驚かしたること、日本の勝利に劣らざるものあり。吾人は唯今日まで英國人民が殆ど自家の同盟國の如くに思ひ居たる支那帝國の、全く無力無能なる事實を世界に曝露したる者が日本にして、露國にあらざりしを祝する者なり。今回の戦争中にも度々證明せられたる如く、凡そ戦争に勝たんとする者は、前以て萬端の準備を整へ、事に望んで狼狽せざるの覺悟最も肝要なり。英國人も能く此教へを守り、後來の形勢を考究して、豫め大に決する所なからざれば、他年事あるの時に後悔を免れざるべしと論せり。

日露の關係に對する將來觀は更に緊切なるものあり。スベクテーターは、露國年來の野心を成就するに當り、最も邪魔となるは日本にして、此國を歴し潰して思ふ儘の事をなさんと其欲する所なるべけれど、斯くの如きは英國の許さざる所なり、且つ日本は追々強國とならんとするを以て、之を抑へん事容易の業に

あらず。露國は所領、亞細亞歐羅巴の二洲に跨り、人口多けれども、年中使用に適する港灣としては一もあるとなし。是は誠に堪へ難き次第なるに加へて、人口彌増加するも、或地方の如きは、地味不毛に、米穀實らず、此増加する人口を支持するに苦しみければ、遂に亞細亞の領地を開拓し、爰に過剩の人口を移植するを以て上策なりと決し、扱てこそ西伯利亞鐵道の布設を急ぎつゝあるなれども、此地方にも港灣としては浦鹽斯德港のみにて、これ亦冬季に至れば結氷し、船舶をして碇泊せしむるを得ざる故、將來有望なる折角の大鐵道も、充分其効を見る能はず。是に於てか朝鮮の弱國なるを奇貨とし、元山津を割讓せしめん。若し此目的にして達せば、露國の爲めには此上もなき幸福にして、彼處に鐵道を延長し、海には日本と相對し、支那濠洲へ近づくとも容易となり、該港は實に東洋のリヴァプールとなるべし。然るに露國が其大望を遂げんとするに、至極邪魔となるべきものは、僅々二三十年の間に偉大の進歩をなし、出藍の譽れを博したる日本國の儼然控へ居ることとて、俗に所謂目の上の瘤とも云ふべきものなり。而して日本の眞意を窺ふに、明ら様に露國と戦ふの心ありとは云はざれども、國民一般の傾向を推察

するに、何様歐洲の一強國と顔合せ、雌雄を決したる後にあらざれば、自國をして列國の間に重きをなさしむるを得ずと信するを以て、露國が朝鮮近海、或は直隸灣に手を伸ばさんとするを許さざる事明かにして、愈々露國がさる野心を實行することもあらんか、日本は其艦隊を擧げて、其港灣を封鎖し、露國の謀略を禦射するならん。露國爰を以て不平骨髓に徹し、扱ては佛國を誘うて三國同盟を形づく、日清條約に干渉せし者なるべし。但し今回の干渉の結果、戦端を開くや否やは未だ豫言するを得ず、何となれば露國の思慮ある政治家は、西伯利亞鐵道の竣工を待ち、その上にて進退を決せんとするが如くなればなり。更に露國の不安心に思ふ所は、佛獨の二國干渉に同盟はしたれど、此二國は東洋に勢力少なければ、一朝有事の日に際しては、儘に頼みとする譯に行かず、東洋にありて海軍力を有する國と云へば、自國と日本を除きては英國のみにして、其力を假つて日本を破るにあらざれば、獨力以て事をなさざるべからず。勿論露國一己にて朝鮮を襲撃し、日本人を追出さんと試みるだけは難からざるべけれども、日本の艦隊を悉く撃沈することは難事なり。且つ英國が日本の後楯となり居る間は、日本の艦隊を

撃破せんなどは、先づ以て云ふべくして行はれざるの空論なるべし。

我英國政府が三國の干渉を傍觀し、伴侶とならざるの決議をなしたるは、大に我等の意を得たるものにして、萬一日清條約にして英國の其通商上の特典に與かるを否むこともあらんか、英國は默するを得ざれども、絶えてさる形跡もなく、其他の條件、聊かも無理と思はるべき所なくして干渉するの要なきのみか、非難さへ挟むべき點も見えず。文明の勝者が敗國に對して請求すべき至極正當のものなりと云ふの外なし。而して戦勝の結果は如何なるものなるやと云ふに、日本國が爾來一新強國となる事にて、露國に取りては、是は苦じきことはなかるべし、而も我等は此新強國を攻撃し、干戈を交ふる事は愚の甚だしき者なり、又不道徳の最上なりと屢論じたり。されば日本の崛起して、強國の仲間に入りたるは、露國に對しては非常の不利なるべけれども、英國は何を苦しんで、日本に榴散彈を投せんや。唯友邦として懇親を結ばんのみと論じ、又更に露國の大に戒心する所なかるべからざるを論じて、馬關條約は英獨佛等に毛頭影響する所なきも、露は其亞細亞の領土を開拓し、農商業を増進するに、尠からざる妨害を蒙るべきを以

て條約の履行を妨げんとしたれども、日本艦隊の手並は中々に蔑り難く、露國艦隊の方のみにては彼を屈服せんこと覺束なく、又陸軍に於ても浦鹽斯德港に莫大の兵器を藏するよしなれども、中には老朽用ふるに堪へざるものあり。加之、兵卒を増派せんと欲せば非常なる費用を要するを以て當時露國政府は、頗る進退に苦しみたり。此様子を見て獨逸帝は露と懇親を通じ、年來の離隔を除くは此時に如かずとなし、馬關條約は獨逸に聊かの休戚をも及ぼさざるに拘らず、進んで露の味方となり、海軍を以て其運動を輔けんと申込みたり。是、露國政府の大に喜ぶ所にして、深く獨逸帝の好意を感謝し、意外の力を得たりと思へり。然るに右の事情を聞きて、佛國の狼狽一方ならず、爾來露獨の間柄親密になり行き、佛の疎外せらるゝともあらば、國家の大患、實に此上なしとし、後れ馳せに同盟を申込みしかば、露國政府は心中に冷笑して佛國をも其仲間に取り入れたり。斯くて三國一致して、日清條約に故障を申出しかば、日本政府は思へらく、今三國の要求に應せずして干戈を交へんか、一國の興亡を賭するの止むを得ざるに至るべし。誠に不利益の次第にして、爲めに折角收めたる戦勝の名譽を汚し、富強の増進を阻碍する

恐れあればとて、速に三國の要求を容れ、遼東半島を清國に還附するに決せり。此同盟に就きて、佛國外務大臣アノトー氏は諸方より攻撃を受け、政治家も軍人も口を揃へて、かの條約を變更したりとて、佛國は何の利益をも得ず、特に寤寐の間も忘れ難き獨逸と提携せる政府の行動は、これ實に奇怪至極にして、好んで他國の怨みを買ふものなり。我國が多分の國債を負ひ、軍備を擴張するは何の目的なるや、敵を助けん爲めにはあらざるなりと、斯くの如く非難の聲喧しければ、アノトー氏は次回の改選に於て選出せらるゝこと六づかじき程に至れるを以て、日夜人民の機嫌を損はず、兼ねて露國と親交を繼續するの工夫に腦漿を悩まし居れり。又獨逸帝の位地も同様にして、此度の舉動たる、全く帝の一時の感觸に出でしものにて、國民の輿論を察せず、自らは敏捷に振舞ひたりと信すれども、國民は一般に帝の政略を喜ばず、徒に露國の售る所となりたるものにして、若し事局穩かに濟まず、戦争の起ることもあらんか、帝は民の父母たる意を失ひたるものなりと云ふも、謝するに辭なかるべしとて、頻りに獨逸帝に對して不満を抱けるが如し。

と同盟せんとするの氣色あることにして、その領地たる非律賓群島が日本の所領と近接し、形勢不安心となりしを以て、扱ては此同盟を思ひ付きしにて、日本は決して油断し難しと論せり。

又同新聞は筆を轉じて日本の對露策を論じて曰く、露國の支那に助勢を與へし事は英國に少なからざる痛痒を及ぼすべきは勿論なれども、日本の蒙らんとする影響に至りては、更に非常なるものにして、此際政略を變更するの止むを得ざるを感ずるならん。これ歐洲諸國の最も注意を要する處なり。抑も露國は日本が戦勝の餘威に乘じ、支那四百餘州の興廢を掌中のものとなさんとするを阻礙し、遼東半島を還附せしめたる上に、猶朝鮮より日本を追ひ退けんとするの野心明白にして、要するに露國は臺灣及び償金の外、一毫たりとも日本に與へざらんとするものなり。扱て日本の之に對する政略は如何、吾人の考案に依れば三策ありて、其第一は目下の威露の云ふが儘に他國に手を伸ばすことを思ひ止まり、暫らく鬱憤を抑へて償金を投じて軍艦を續々製造し充分準備の整頓せし時、不意に起つて露を襲撃するか、さなくば第二策として、露國の未だ諸事の用意整はざる

を幸ひに、今直に戦ひを構へ、西伯利亞を侵略するかなれど、若し第二策を行ふ能はずとせば、翻然希望を變じ、南洋諸島中ホルネオの如きは國力薄弱なる國々の所領なれば、此方向に驥足を伸ぶべし。これを第三策とす。蓋し一旦怨みを含みたる以上は之を晴らさずして止まざるは、日本人の天性なれば、如何にしてか其鬱憤を漏らさんとするは疑ひなしと雖、吾人は未だ日本政府の廟議を窺ふを得ざるに依り、右三策中何れを取るや知るに由なし。而も若し前々より既定の政略を奉じ、耐忍事に従はんと決心せんか、必らず第一策を撰み、表にこそ其柔和を裝へど、内には敵愾心煽ゆるが如く、軍備を擴張し、實力を蓄へ、危機一髮直に起つて昔日の怨みを報せんごすべきが故に、露國の爲めには實に危険千萬なる勁敵といふべし。若し又然らずして、露國への復讐心を打棄て、單に所領を擴げんと志を一轉せば、和蘭、西班牙等の有する南洋諸島に注意を傾くるならんも、吾人の所見を以てすれば、日本の執らんとする方案は、多分第一にあるべしと信ず。斯くて海戦術に於ては歐洲人を凌ぎ、復讐の爲めには百年の長日月を忍ぶて、人口四千萬の敵國を有する露國政治家は、其心痛の程眞に察すべきなりと言へり。

又更に翻つて曰く、露の關係を熱察するに、先づ第一に露國の不利と云ふべきは、東洋に於て新に一強國顯はれ其國は露に對しても毫も劣らざる艦隊を有し、若し支那を海軍に依つて打ち破り、戦勝の利を貪らんとする者あらば躊躇なく之を妨ぐるを要するとは是なり。猶露國の憂ふる所は、右の新強國の儼然として控へ居る爲め、浦鹽斯德港の守備を固くし、東西伯利亞に多數の兵卒を派遣し置かざるべからず、又西伯利亞大鐵道敷設の目的を達せんと欲せば、勢ひ二國(日本と支那)を籠絡するか、さなくば戰端を開くの止むを得ざるに至るべし。試に地圖を一覽するに、かの大鐵道の終極點として最も形勝の地たるは元山津なれど、此地を得んとするには、滿洲の大部分と、朝鮮國の四分の一を露の有とすること必要にて、以前支那が朝鮮に對して威權を振ひたりし時代ならば、一は老大國なり、一は最爾たる一小國なるを以て、意の儘に左右するを得たりしならんが、今や支那は敗衄を悔い次第に軍事を改良すべく、よし改良を施さず、依然昔日の弱兵のみなるにせよ、日本と云ふ強國あるを以て、事急なるに及んでは直に日本に補助を哀願するなるべく、加ふるに朝鮮も支那の羈絆を脱して、日本の手に移りたれば、露

國の願望を遂げんとするに、益、困難を増したり。特に露國に取りこの上もなき不利益は、萬一露の艦隊にして日本艦隊の擊破する所とならんか、これぞ由々敷大事にして、元來西伯利亞地方の人民は、印度人民の英國に於けると同様に、露國政府に不平を抱き、機會あらば其不平を漏らさんとするものなるを以て、一旦露の敗北せるを見るや、忽ち蜂起して獨立せんとするの計畫をなすなるべし。斯くの如く露國の境遇は甚だ危殆なれば、斷然朝鮮に對する野心を放擲して日本と和せんか、これ其國の爲めに甚だ利益なりと雖、露國政治家の甘んずる能はざる所なり。然らば兵力に訴へて日本を屈服せしめんか、十五萬の勇兵と精銳なる村田銃を有する軍隊に敵すべくもあらず。而して露國の眞意を推察するに、獨佛の二國力を貸しなば、之に依つて日本を朝鮮より退けんことを希望するなるべきも、二國はさほごまで露と同盟するの意なきや明かなり。されば今後四五年は日露の關係大に危険にして、この間に日本は四千萬圓を投じて軍艦製造費に充つべければ、その時に及ばざる優に同盟軍にも敵するを得るに至るべし。露國政治家の苦心宜なりと謂ふべし。但しことに一の注意せざるべからざるは、西班牙の露國

と同盟せんとするの氣色あることにして、その領地たる非律賓群島が日本の所領と近接し、形勢不安心となりしを以て、扱ては此同盟を思ひ付きしにて、日本は決して油断し難しと論せり。

又同新聞は筆を轉じて日本の對露策を論じて曰く、露國の支那に助勢を與へし事は、英國に少なからざる痛痒を及ぼすべきは勿論なれども、日本の蒙らんとする影響に至りては、更に非常なるものにして、此際政略を変更するの止むを得ざるを感ずるならん。これ歐洲諸國の最も注意を要する處なり。抑も露國は日本が戦勝の餘威に乗じ、支那四百餘州の興廢を掌中のものとなさんとするを阻碍し、遼東半島を還附せしめたる上に、猶朝鮮より日本を追ひ退けんとするの野心明白にして、要するに露國は臺灣及び償金の外、一毫たりとも日本に與へざらんとするものなり。扱て日本の之に對する政略は如何、吾人の考案に依れば三策ありて、其第一は目下の威露の云ふが儘に他國に手を伸ばすことを思ひ止まり、暫らく鬱憤を抑へて償金を投じて軍艦を續々製造し、充分準備の整頓せし時、不意に起つて露を襲撃するか、さなくば第二策として、露國の未だ諸事の用意整はざる

を幸ひに、今直に戦ひを構へ、西伯利亞を侵略するかなれど、若し第二策を行ふ能はずとせば、翻然希望を變じ、南洋諸島中、ボルネオの如きは國力薄弱なる國々の所領なれば、此方向に驍足を伸ぶべし。これを第三策とす。蓋し一旦怨みを含みたる以上は之を晴らさずして止まざるは、日本人の天性なれば、如何にしてか其鬱憤を漏らさんとするは疑ひなしと雖、吾人は未だ日本政府の廟議を窺ふを得ざるに依り、右三策中何れを取るや知るに由なし。而も若し前々より既定の政略を奉じ、耐忍事に従はんと決心せんか、必らず第一策を撰み、表にこそ其柔和を裝へど、内には敵愾心熾ゆるが如く、軍備を擴張し、實力を蓄へ、危機一髮直に起つて昔日の怨みを報せんとすべきが故に、露國の爲めには實に危険千萬なる勁敵といふべし。若し又然らずして、露國への復讐心を打棄て、單に所領を擴げんと志を一轉せば、和蘭、西班牙等の有する南洋諸島に注意を傾くるならんも、吾人の所見を以てすれば、日本の執らんとする方案は、多分第一にあるべしと信ず。斯くて海戰術に於ては、歐洲人を凌ぎ、復讐の爲めには百年の長日月を忍ぶて、ふ人口四千萬の敵國を有する露國政治家は、其心痛の程眞に察すべきなりと言へり。

倫敦エコノミストも亦此關係に就き立論する所あり、論旨大に疎謬多きが故に其心して讀過せざるべからず。曰く、日清戦争終りを告げ、馬關條約の締結せられしとて、直に東洋の大事全く其局を結びたりと思ふは大間違なり、是等の事件は僅に亞細亞に於ける新事相の端緒を開けるものにして、唯日本の軍國として充分の技量を有すること、及び支那人の懦弱無力なるを證せるのみ。抑も日本が海陸に其勇氣を振ひしより、露佛獨同盟して支那の爲めに盡すことありし以來、北太平洋には頻りに軍隊の集合するを見る。固より詳細の事情を知り得ざるが故に、確かに此くあるべしと斷言するを得ざれども、大體の形勢に徴して、東洋問題の如何に成行へべきやは歐洲人の尻に承知する所にして、その概略を豫言するに難からず。今少しく我等の所見を陳述せんに、第一は日露間の敵愾心にして、數ヶ月前までは日本人は皆支那を以て敵國とし、清國こそ我國威を輝かし國力を増進するの妨害物なれと信じ、露國の實際恐るべき敵なる事を知りたるは先見の明に富める二三の外交政治家のみに過ぎず。されば日清戦争起りて思ふ儘に支那を蹂躪したる上は、是より年來の大望を成就するを得べしと喜びしに、局面

俄に一變して、支那を撃破せし其後に一層強力なる妨害物に出會ひし様は、恰も之が高山の絶頂なりと漸く登りつめ、一息吐かんとする所へ、雲霧障れて前面を望めば、更に峻峻なる高山の突然目前に現はれ出でたるに異ならず、其失望や察すべきなりと。更に他新聞の通信を引照し、評論して曰く、倫敦タイムズ及びデイリー・ニュース二新聞は、共に東京通信として日本人の露國に對する敵愾心の勃々たるを報じたる中に、デイリー・ニュースの通信員は曰く、日本人の憤慨は非常なる勢ひにて、それも言語舉動に表はして悪口雜言するほどなれば、自然消失するの期も早けれど、表には聊かさる氣色を見はさず、深く心中に包藏して、一意機會の到來を待つこそ怖しけれ。日本は露國を相手とすることには恐れざれども、三國を敵に取りては到底勝算なきを覺り、心中の鬱憤堪へ難きを忍ぶ様子明かに窺ふを得べく、今や頻りに軍艦の修繕新造に汲々たるのみならず、遼東半島より引揚げたる軍隊を北方に送り、若し朝鮮に事起らば直に派遣せんとするものゝ如し。尙日本人心を益々激昂せしむるの原因となりしものは、平和恢復以來朝鮮人は露國の勢力が日本の上にあるを悟り、終に日本公使の

忠告は用ふるに足らず、又納るるを要せずと輕蔑し初めしにあるべしと。倫敦タイムスの通信員の報道も前同様にして、その要に曰く、朝鮮に於て日本の勢力は追々衰へ、露國の勢力いよ／＼増加するの傾きあり。蓋し露が日本をして其領土外に一步も踏み出さしめざらんとするは疑ひなき事實なれども、日本も亦露を朝鮮より排除せんと決心せるが如しと、而してかの通信員は、露の爲めに謀りて曰く、露にして日本を抑壓し、朝鮮に志を逞うせんと欲せば、只今こそは屈強の好機會にして、日本軍隊は尙朝鮮に駐屯すれども、この軍隊も海軍の應援を待ちて、初めて其力を有するものなれば、一旦海上の交通を絶たれば、その陸軍は孤立の姿となり、勇を振ふに由なかるべし。然るに露國の東洋艦隊は、假令巡洋艦に於ては日本に及ばざるも、戰闘艦は日本之を有せざれば、此機に乗じて我より聲を開き、彼の海軍を擊破し、朝鮮を全く掌中のものとなすこと易々たるの業ならん。而も露國の策略技に出でざらんか、日本は支那より受け取る償金の多分を軍艦製造費に擲ち、強力なる艦隊を組織するに相違なければ、四五年を経過したる後は、日本の海軍力は曾に露國に劣らざるのみならず、却つて優勢の者となるべし。况んや彼は地の利を占め、海陸共に出師の容易なるに於てをや。故に此優勢を以て之に望まば、露の懸軍萬里の兵、逆も敵し得べきにあらずと。右タイムス通信員の所説は一應尤もなりと雖、これ物の一側面のみを觀察したる者にして、日本人は由來屈辱を甘んせざる人種なる上に、政府は前の戰爭に依つて折角收めたる利を棄てんよりは、寧ろ險を犯して露に敵すべしと覺悟を定め、又政治家は露國こそ我々の百年忘るべからざる敵にして、西伯利亞鐵道の落成せざるこそ幸ひなれば、直にかの地を突くべし、同鐵道竣工せば、我海軍力強盛となりしとて、敵は陸路兵を運送すべきゆる、其効なからんと云ふならん。

上來續述したる所を約言すれば、日本は露の爲めに進路を妨げられたれば、斷然露と争ふか、又は年來の望みを打ち捨て、一島國を以て甘んずるか、の二途その一を撰ぶの位置に立つなれども、果して孰れを取らんとするやは、吾人の確かに豫言し能はざる所にして、今日に於ては、只形勢をありの儘に記するを以て充分なりと信ず。但し萬一兩國の干戈を交ふる時に當り、相互の戰闘力如何を想見するは、強ち無用の業にもあらざるべしと思はるるに依り、今少しくその事情を述べ

るの要あり。いよく日露相争ふに至らば支那は必らず露の味方をなすならん。これ日本に取り鮮からざる不利益にして支那が戦争に羸弱なるは自家の力にのみ依頼するの外他に助けなき時に限るものにして、歐洲強國の助力あらば、随分非常の功を奏すべし。又佛國は公然日本の敵國なりと打つて出でざるべきも、從來の友誼上より竊に露の後援をなすべき事明かにして、例へば浦鹽斯德港に軍艦を派遣し、日本艦隊の同港の海軍武庫を奪ふを妨げ、或は陸兵の西伯亞利海岸に上陸せんとするを掣肘するなど種々様々に日本軍に妨害を加ふるなるべし。これ即ち露國の利益、日本の不利とするところなり。然れども、日本にも又二個の利益あり、即ち第一根據地近くして諸事萬端便利なるに反して露の根據地は實際數千哩を隔絶し、輸送上不便大なる事、第二日本は過日の戦争に於て海陸軍の力を驗し得たれども、露は二十年來干戈を動かしたる事なければ、従つて自家の戦闘力を知らざるの短所あり。斯くの如く吾人は兩々相對照して雙方の優劣を並べ叙したれども、決して戦ひの必らず起るならんとして、然かせるにはあらず。否、今日各國は出來得るだけ戦争を避け、戦勝の功を輝かさんよりは、平和を繼續

して國力を増進せんとするに専ら心を傾けつゝありて、露國も均しく此心を有するなるべければ、今戦ひの利なるを知るにせよ、先づ暫らくの間は兵を動かすを差し控ふるなるべし云々と。

スペクテーターは、また日露の衝突の避くべからざることを豫言して曰く、

露國は先頃の干渉に依つて、一方には支那を同盟國として、其國事に勢力を恣にするの端緒を開きたると同時に、一方には日本より未來永劫忘るべからざるの怨みを買ひ、爲めに彼をして諸般の準備整ふを待ちて、積日の屈辱を伸べんとの敵愾心を惹起せしめたり。事情既に斯くの如くなれば、今後四五年の間は、尙、太平無事を樂しむを得るならんと雖、恰も一時休戦の姿に異ならざれば、假令如何にして又何時戦争起るべしと確に豫言するを得ざれども、兎に角遠からずして東洋の天地に波瀾を生ずべきこと明白なり。

扱て我等の所見を以てすれば、日露の衝突を起す機會には二様ありて、其一は日本海軍力未だ充分と云ふ程に至らざるも、略、用意備はるを見んか、露國の海陸軍人はその皇帝に向ひ、日本の軍艦こそ正しく直接或は間接に陛下の領土に危

險を加へんとするものなるを疑ひなきが故に、今かの國を攻撃して其銳鋒を挫くこそ誠に良計なりと德通するなるべし。又第二は日本は萬般の準備悉なく整ひし時に當り、西伯利亞鐵道の落成するまでには、尙一年を要するを見て、之ぞ千載一遇の好機會なれば、敵の朝鮮に其軍隊を送りて、積年の野心を逞うするの法未だ備はらざるに乘じ、全力を擧げて襲撃すべしとなすならん。斯く龍虎相闘ふの間に獨り利を占むるを得るものは支那なるべし云々と。

以上は日清戦争に對する歐米人の觀察如何なりしかを概示し、以て日露戦争に對する彼等の觀察に對照せんと試みたるものなり。

第二章 歐米人は如何に日露戦争を觀察せしか

第一節 戦争前に於て彼等は日英同盟の成立に對し如何に之を觀察せしか

二月十三日外務大臣ランズダウン侯貴族院に入るや、政府黨議員は大喝采を以て之を迎へたり。

スペンサー伯曰く、予は英國民の一重大問題に就き質問したき旨、予が一存を以て通告し置きたり。吾人は此一兩日前に、我皇帝陛下の政府と日本との間に締結せられたる協約、或は條約と云はんか、其協約若くは條約に關せる極めて關係ある書類を接受したり。予は日本の勢力又は日本と我國との關係の重大なることに就きて、寸毫疑念あつて之を云々するものにあらざるは、先づ侯爵閣下に告げ置かざるべからず。予は嘗て日本に遊びて、親しく見る所ありしを以て、日本に對しては極めて友厚の念を懷き、又其能力と實力とは最も推服する所なれば、英國が能ひ得る限り、之と親交を保たんことは予の願ふ所なり。然れども之と同時に茲に極めて重大の一問題あり、古來とまでは云ふべからざるも、近年より以來、正しく奉じて以て我國の政略とせしもの、即ち攻守同盟とも稱すべき同盟は、之を避くるといふことを以て政略としたるに、一朝之を棄て、此協約を訂結するに至れるは、必らず相當の理由、確固の理由ありたること、予は先づ之を訝るも

のなり。予が今日まで聞く所を以てしては、勿論侯爵閣下の本院に提示せられたる極めて明快なる通牒(マゴドナルド氏に送りたる通牒)の文字を以てするも、我國が何故に今日俄に日本と此同盟をなさざるべからざるに至れるかの深き理由に至つては、竟に之を徵するに能はざるなり。侯爵閣下が極東に於ける我國の利益の、日本の利益と相同じきを説かれたるは、義理明白、予の全く賛同する所にして、侯爵閣下の文また一字を加ふべからざるなり。然れども此同盟の事たるや、獨り他國の上に就きてのみならず、我國の將來の上に就きて、極めて關係あれば、大に考量を要するものあり。予は茲には特に一點を擧げて説明を求めんと欲す。予の日英協約を解する所を以てすれば、一國が敵となりて、日本の利益を攻撃する場合には、英國は中立を守るの義務を負ふも、一國以上の敵が日本を攻撃するときは、英國は日本と協同して事に當り、戦争をも交へざるべからざる義務あるものと認む。是即ち聊か説明を要するものなり。何となれば予は、遽に此兩箇の場合を相別つに苦しめばなり。例へば今一國といふと雖、其力は二三の國を合併したるよりも強きものあらん。開戦の場合に於て、英國が日本に與みして戦争に加

の新例なるが故に、非難すべきものなりとの説に服すること能はず。凡そ數代前には鞏固動かすべからずと見做されたる論據も、今日に至つては又しかく重きを措くに足らざるもの多きは、苟くも眼を世界の各部に注ぎ、事件の進行に留意すのもの、皆均しく首肯する所なるべし。善く我周圍の情形を察せよ、今日大國は漸く相團結するの趨向なきか、海陸軍の兵備歳に加はりて、其國民の負擔歳に重きを加ふるの趨向あらざる乎。且つ今日は昔日と異なりて、戦争の起る甚だ突如たり。昔は今日の如く兵備嚴ならず、又何時にても起つて開戦し得るまでの準備なかりしなり。凡そ是等の列國の情形を考へ來れば、外國との同盟を以て煩累なり有害なりとして、一律に之を排斥するは、竟に自尊自大の誇りを免るゝ能はざるべし。此種の同盟に就きて考ふべきは、我同盟する所の國は、同盟國として望まじき國なりや、次に同盟の目的は、贊稱すべきものなりや、又最後に均しく緊要なるは、我同盟に拂ふ所の價ひは、當然拂ふべき所よりも大ならざるかを研究するにあり。是等の問題は、考へて而して皆可ならば、其同盟は其國に取りて煩累にあらず、障害にあらずして、却つて有益なり。同盟國を有するの國は、同盟國なき國

と同日に論ずべからざればなり。予は日本を同盟國として望まじきは、茲に喋々之を説きて、空しく時間を費すを欲せず。昨年本院の討論中、質問者の伯爵閣下こそ、日本に對して最も稱揚する所ありしは、予の善く記する所、伯爵閣下も亦決して當時の言を撤回するものにあらざるべし。伯爵は日本を以て政治上大勢力あるの國となじ、其陸軍既に強く、其海軍は更に強く、其勢力は日を逐うて重きを加ふる旨を説かれたるなり。次に同盟の目的如何。これ協約上に明かなり。第一に極東の現情を支持し、第二に俗に門戶開放と稱する所の通商政略を支持し、第三は予が我國に取つて最も貴ぶべきものと認むる所の極東の平和を支持するにあり。是等の事は、獨り我國の希望したる目的たるのみならず、吾人が、最近數年清國問題に就きて、終始知照したる所の大國は、皆前後極東の現情を支持し、併せて通商上列國均等の機會を享有せしむるの政略を固守するを宣明せざるはなし。日本を幫援し、日本を保護して、列國の聯合を受くるの危険なからしむること、果して我國の政略ならば、宜しく公然之を約すべし。予が思ふ所を以てするに、此種の國際上の大問題を曖昧晦澁なる協商に附し去らんよりは、目的を協約に明記し

て兩者の間に誤解なからしむるの危険寡きに如かざるなり。伯爵閣下の質問は、答ふるに易し、伯爵は問ふて曰く、日本が協約中に承認せられたる利益を防護せんが爲めに、唯一國より攻撃を受くる場合には、英國は之を幫援するを約せざるも、若し二國より攻撃を受くる場合には、之を保護するを約せるは何故ぞやと。吾人は日本に見て最大危険とする所より、日本を保護せんことを願ふものなり。所謂最大危険とは、かの列國の聯合即ち是なり。日本は強力なる海軍と、強力なる陸軍とを有し、何れの國と戦ふも、その國一國ならば、優に自家の地位を保つを期するものなり。然れども、若し一國以上を敵として、戦ふの度れある時は、日本は大危険に陥らん。吾人の日本を幫援せんとするは、唯この大危険なからしむるにあり。本協約には他の點に就きて多く掲ぐる所あるも、伯爵閣下は之を説かざりしが故に、予は今夕之を論ずるの必要なことと思惟す。予は信ず、諸君は本協約を閱すること、愈精しうして、愈本協約の一點疑念を抉むべきものなきを悟り、また此協約は、吾人をして友邦の救援に赴かしむるものなるを悟るべし。この友邦をして列國の聯合に因つて堙滅聞ゆるなきに至らしむるは、如何なる事情の下に於てす

るを問はず、吾人の斷じて忍ぶ能はざる所なり。この外此協約は世界の平和を助くるの効あるべし、若し不幸にして平和破るゝも、此協約の効果は必らず戦争の起るべき面積を局限せしむるに至るべしと。

ロイズベリー伯曰く、今夕この協約に就きて、遂に明確なる意見判断を下す能はざるは、侯爵閣下と意見を同じうす。予は先づ言はん、予が初めて本協約を見たるときは、公平無私に此條約の悦ぶべきことを感得したり。予の見る所を以てすれば、吾人は侯爵閣下及び政府が、此協約を訂結したるを賀して可なり。予の唯々異とする所は、予は最近二三年間數次言明したるが如く、わが皇帝陛下の政府が、豫め清國に先般見るが如き事變起るべきを慮りて、今日迄もなく早く日本と從來よりも一層緊密なる關係を結び置くを適當と認めざりし乎。若し吾人にして當時日本と緊密なる關係を結び置きたらば、清國事變の悲しむべき結果を幾分か免れしめ、又斯かる協定あれば、屈辱を受け處分に迷ふの迹寡きを得たるならん。但し今茲には本協約を論定するの、前、先づ一點の明白ならしむるを望むものあり、本協約の効果は、獨り極東に及ぶのみならず、廣く歐洲及び文明世界の各部に

も及ぶべく、本協約を一重大新例とする所以茲にあり。又本院諸君の政府の説明を不足として、己れの意見を定むるの前、先づ政府の意見を聴かんことを求むるも、亦茲にあらんか。然れども、予は今本協約の理解に便せんが爲めに、一二の質問をなすに止むべし。例へば、清國の領土上の保全とあり、これには滿洲をも包含するや、侯爵閣下は兩國の明確に了解して誤解なからしむるの利を示されたるが、英獨條約中には此事曖昧にして、不幸にも意見の衝突を見たりしなり。次に伺ひたきは政府が威海衛に關する政略を改めたるものは、此日英協約と何等かの關係ありや、果して然らば政府が不思議の處分も之を解することを得べし。又次に問はんと欲するは、侯爵閣下の通牒中に、此協約は英國の重大なる利益を保護するに於て、萬一に應ずる豫防手段に外ならずとあり。此利益は共通の利益にあらざる乎。若し此協約は純然たる英國の利益を保護するにありといはば、これ條約中の日本に就きて説く所と相容れざるに似たり。予は此語の或は誤植にあらざる乎を思ふものなり。事甚だ關係あれば、侯爵閣下の注意を求む。

ランスダウン侯曰く、我皇帝陛下の政府の見る所を以てすれば、滿洲は清帝國の

一部分を構成したるを疑はず。故に條約中清帝國の領土上の保全といふは、他の部分と均しく滿洲をも清國の領土内と見ざるべからず。伯爵閣下の第二質問たる本協約の訂結と、威海衛に關する政府の意向の變更とは何等の關係ある乎に就いては、予は毫も斯かる關係あるを知らず。然れども、此二問題に對する政府の議定は、殆ど時を相同じうして發したるを以て、我閣僚中には或は此兩者の決定近きにあるを知りて、或は無意識的に或は意識的に、之をなしたるなきを明言する能はず。次に伯爵閣下は予が通牒中の文字を捉へて批評を試み、此協約は純然英國の利益を防護するものと稱すべきやと問へり。如何にも英國の利益の語は稍漠然たり、但し清國の獨立と日本に接近せる韓國の保護は、吾人の終始主張せし所なり。故に此語稍散漫の嫌ひあるも、これを以て不精確といふは予の許す能はざる所なり。予は今此語を改むること能はずと雖、本協約の兩國の利害を防護するにあるは、他處に於て明かに之を知るを得ん。

ローズベリー伯曰く、予の故障をいふは、其語の散漫といふにあらすして、確定に失するにあり。侯爵閣下は英國の重大なる利益を保護するに於て萬一に處する

豫防手段に外ならずといふ、これ或は間違ひたる印象を生せしめん。これ初めより英國の利益といはずして、共通の利益といはゞ此弊なからん。ランスダウン侯曰く、そは兎も角通牒の本文は、日英兩國間に締結されたる日英協約なり、予の説明的通牒にあらざるなり、これ何人も之を疑はざるべし。ロースベリー伯曰く、然れども此條約を結べるものは侯爵閣下なり、閣下は自家の作る所の條約を叙説するの力あるものと見ざるべからずと。

此時閉會に近し而してロースベリー伯退席す。ランスダウン侯曰く、ロースベリー伯既に席を去れるも、予が日英協約を叙説せる通牒中の語句に關して、尙一言説明すべし。伯爵閣下は、此協約は英國の重大なる利益を保護するに於て、萬一に處する豫防手段として訂結したるに外ならずとあるを捉へて云々せられしも、此通牒には之を受けて曰く、故に本協約は決して列國の現在享有する地位、若くは正當の利益を迫害することなく、之に反して本契約中兩締約國の一方が、他方の幫援に赴かんことを規定したる條文の如きも、同盟の孰れかゞ兩者共通の利益を防護せんが爲めに、交戦の已むを得ざる云々

々とあり。是等の語は自ら前文の註釋となりて、前條の意味を明白ならしめんと。次に衆議院に於ての辯論を見よ。

ヤーバライ氏(保守黨)大藏總裁バルフォア氏に向ひて、日英協約を審議せん爲めに、近日本院に其機會を與へらるべきやを問ふ、バルフォア氏に答へて、本院審議の方法多し。若し反對黨にして政府の行へる手段(日英同盟訂結)に反對するの動議を提出したき積りならば、吾人は普通の手續に従ひ、近日其日を定めて討議を行ふの外なきも、反對黨にして不信認投票を行ふ迄の意なくんば、凡そ外交に關する問題は豫算投票の際、之を行ふを慣例とすれば、其際幾多審議の機會あるべしと答へたり。次にノーマン氏(自由黨)は、此日英協約は、之を發表するの前、合衆國に通知したる乎、若し然らば合衆國政府は何等の意見を下したる乎を問ひ、オマラ氏(國民黨)及びランパート氏(自由黨)よりも同様の質問あり。外務次官克蘭ボーン子爵は之に答へて、日英協約は如何にも發表の前合衆國政府に其大綱を通知したるも、合衆國は之に對して未だ何等の意見をも言明せざりしと説き、ノーマン氏は本問題に就き、機會を見て早速報告を求むる所あるべき旨を述べた

り。オケリー氏(國民黨)は外務次官に問ふて曰く、日英協約は滿洲及び露國の占領せる滿洲にも適用すべき乎、日英協約の條文若くは大綱を獨逸政府に通知したる乎、然らば政府は之を固守することを宣明したる乎、英獨協商即ち獨逸宰相フオン・ビロー伯の所謂楊子江協商は今尙効力ある乎、又獨逸政府は同協商の滿洲に適用すべきものたるを承認したる乎。

外務次官克蘭ボーン子爵曰く、滿洲の日英協商の範圍内にあるは、猶清帝國の他の部分の同じく其範圍内にあるが如し、日英協商の大綱は獨逸政府に通知せり、英獨協商は今尙効力あり、英獨協商の滿洲に適用すべきやの件に就きて、獨逸政府の解釋は既に貴下の承知あることと信す。

オマラ氏曰く、然らば滿洲は此日英協約中に包含するものと解して可なるか、克蘭ボーン子爵曰く、然り。

此時ノーマン氏は國家緊急の問題を討議せんが爲めに、他の議事は中止して、他日の審議に譲るの動議を起さんことを求め、國家緊急の問題とは即ち近ごろ本院に提示せられたる日英協約なりと説く、之に因つて議長は可否を議場に問ひ

しに、國民黨及び自由黨は殆ど皆起立して賛成を表し、前面反對黨席に座を占むる議員數名亦之を賛成したり。

ノーマン氏其理由を説いて曰く、凡て外交、政略に關する問題は、尋常の黨派問題と同様に輕々に論議すべからざるは予善く之を知る。此動議を提起するは黨派問題として然るにあらず。此點に關しては予は最も戒心する所あるものなり、唯予が之を提起するの趣旨は、議論を闘はさんと欲するにあらずして、疑義を質さんと欲するにあり、此日英協商は全く英國國民の不意に發したるものにて、これ獨り多年遵行せる政略の常軌を逸脱せりといふに止らざるなり。英國の外國と攻守同盟を訂結せるは、是近世史上始めての事といふに止まらざるなり。歐洲の國か西洋人種かにあらずして、東洋人種と此種の同盟を訂結したりといふに至つては、實に破天荒の事たり。之を訂結せるには必らず重大の理由あらん、且つ此協約の急遽本院に提出せられたる、是亦聊か説明なかるべからず。之を見れば何か緊急事件の目前に迫り居るものあるかとも想はるゝなり。予が政府の急げりといふ所以は他なし、ランスダウン侯より協約本文に添へて駐日公使に送られ

たる書面は協約發表の日より三週間の後ならでは其手許に到達すべからず。これ急げるにあらずして何ぞ。この協約に就きて平たく云へば何等の必要あつて政府は斯かる約束を結びて自ら縛する乎。萬一日本が一丁簡にて露國が韓國が滿洲かに施す所を以て侵略的なりと見做すことあらば日本は早速露國に向つて開戦を宣告し、英國をして他國の干渉を阻害するの役に任せしむるなるべし。露國と佛國との間には既に條約の存立せるあれば、若しも露國にして他國より侵襲を蒙ることあらば、佛國は義務として赴き援けざるべからず。かるが故に英國は此日英條約の結果として、露佛二國を敵として開戦を宣言せざるべからざるに至らん。即ち英國の政略は此條約に因つて、日本の政略に緊縛せらるゝ事とならざる乎。英國は心にもなく己れの利益にもあらざるに、戦争に出づるの已むを得ざるに至るまじき乎。此事の重大なるは筆舌に盡くし難し。吾人は此條約に依つて日本の侵襲者たる場合にも赴き援ふの義務を負へるものなり。日本開戦すといへば、今の情形にては、必らず自ら侵襲者の地に立つべき者なり。英國の現在滿洲に有する利益の如何に大に、又將來茲に開き得べき利益の如何に大なる

乎は、人皆之を知る。然れども韓國には何程の利害ある乎。韓國及び其獨立は如何にも、日本に取りては至大の關係あるも、予より之を見れば、英國に取つては他の利益なし。韓國は何等の價值もなき國なり。其政府は無能にして腐敗を極め、露國と境土を相接するの處は、殆ど無主の境とも稱すべく、法網を脱したる匪徒及び各種無頼の徒爰に棲息す。一言之を稱すれば、韓國は最も危險にして動搖定りなき情形の下にあるものなり。然るに此日英協約は斯かる國に發生する事態の上に立ち、英帝國の和戰亦一に茲に定まらんとす。亦危からずや。斯く論じ來りたればとて、予は日本に對しては決して隔意あるものにあらず。予は久しく日本と好關係を保つを熱心主張したる一人にて、夙に日本を列國の伍伴中に迎へんことを主張し、其人民及び政治家を讚稱するに於て嘗て人後に落ちたることなく、世間或は日本は模擬の國民に過ぎざるかの如く説く者あるも、予は曾て之を信ぜず。日本の實力及びその軍人の勇武仁愛に富めるを看取して嘆賞措かざりしなり。然るに今茲に日本の利益に反對するかの如き説をなすの地位に立つは、予の自ら痛む所なり。然れども日本と露國とは、久しく互に開戦の準備をなしたるは

何人も之を忘るべからず、露國が曩に壯大なる西伯利亞鐵道敷設の計畫を起すや、日本は直に陸海の軍備を起して以て露國が鐵道成るの日、一命令の下に極東に大軍を派遣するの時に備へたり。此時に方りて此協約あるは、日本に取りて最も悦ぶべきものたらん。幸ひにして英國と日本とは、久しく最好關係に止め置く方却つて可ならざる乎。是問題なり、此日英協約の露國を目的として成れるは、今また之を否認するは無用なり。今や英國には露國と親厚の關係を保つを主張するの論者漸く多し。是實に首相ソールスベリー侯の有名なる演説、之が指導をなしたる者なり。英國政府は嘗て滿洲に就き、露國と折合を附けんことを試みし乎。又この異常手段(日英協約)を執るの前、先づ露國と彼我兩國の政治上、及び通商上の利益を確保するの術を講ずるに於て遺憾なかりし乎。英國と佛國とは現在親睦なるも、此露國を目的とする條約あるに於ては、勢ひ佛國との國際關係に影響なきを得ず。合衆國の極東に於ける利害は全く我國の利害と等し。扱て此日英協約を締結したるの時に當りて、濠洲は同盟國臣民の來往を謝絶するに従事す。此時議長はノーマン氏を制して、今氏の論辯し得る問題は、日英協約問題のみとて

問題外に涉るを制す。ノーマン氏語を續いで曰く、予が今説かんとせし所他なし、我國が一方には今日我帝國の一部分より其人を排斥せんとする所の國と、同盟を結べるものたるを訝かるの一事是なり。予は固よりこの日英協約を非難せんとするを願はず、又之を讃頌せんことを願はざるなり。たゞ予は政府が急激に其政略を變更し、隨つて我國民に大責任を負はしめたるものと認むるを以て、協約訂結の事情を聞き、説明を得んと欲するなり。即ち予の聽かんとを願ふは、此日英協約は我國に取りて得策なるか、又必要なるか此二點にあり。

外務次官クランボーン子爵はノーマン氏に答へて曰く、予は只今の反對黨紳士の演説を聽いて不思議の感をなしたり。同君は從來日本に賛成を表し、日英兩國間の交誼親密ならんことを主張したりといふにも拘らず、兩國の交情を緊密ならしむる此協約の批評者として是非の説をなせり。同君が急遽云々と言はるゝの意は、蓋し政府が日英協約を訂結したることの急遽にあらずして、之を發表したる事の急遽なるべしと思惟す。然れども同君并に本院諸君に問はん、若し政府にして國民に若干の義務を負はしむる協約を訂結しながら、之を秘密に附して

國民に知らしめざることをあらば、同君及び諸君は果して政府を何とか評せらるべき。此日英協約の發生し來れる實際上の基因は、吾人が清國の現情を支持したしといふ一念にあり、吾人の支持せんことを願ふは此現情なり。而して其現情といふことの何者たるかは、協約の前文に最も明かに之を掲げたり。門戶開放の支持及び清國の領土保全てふ是までも毎度議論ありたる英國の極東政略を構成する所の二元素即ち是なり。

予は今此政策の二大部門に就きて、外交上の情形如何なる乎を説きて、本院諸君の記憶を呼び起さんことを願ふ。云ふまでもなく第一に英國及び諸國と清國との間には條約ありて、又此條約は皆吾人に最惠國均霑を約せり。最惠國均霑といふ事は予の説明するまでもなく、即ち門戶開放の原則を含むものなり。之に次で米國の覺書あり。これは諸君も記憶あらん、一八九九年九月合衆國より發して歐洲諸國を勸誘し、各門戶開放政略を宣言せしめたる者にして、歐洲列國及び日本皆之を承諾したりと覺ゆ。此次に來たるものは英獨協商なり。此協商にも予が前に擧げたる二原則即ち清國の門戶開放及び領土保全の二原則を掲げて、歐洲列

國は概ね同協約の大體に賛同したり。此外に韓國に關する緊要の定約あり。現在露國と日本との間に存立する所の定約即ち是なり。此定約たるや、即ち露國が日本の韓國に特殊の地位を有することを承認したるものと見ざるべからず。以上は外交上、今日までの事實なり。果して然らば、これ何等の意義ある乎。此日英協約の三大基礎、即ち清國の門戶開放、領土保全、及び日本の特殊の地位といふ三大基礎は、吾人が未だ此協約を結ばざるに及んで、既に業に定約の形式を以て、列國間に協定せられ、即ち列國は概ね此等三原則中の二原則を清國に施し、又露國は此等三原則中の一原則を韓國に施すを承認したるものと解せざるべからず。予が斯く論じ來れるものは、此日英協約は新規の原則を執るにあらずして、唯各國の殆ど皆既に承認したる原則を逐ふものたるを證明せんが爲めのみ。

又之を一面より察すれば、列國が皆以上の協定をなせるは、即ち極東に於て日英協約に擧ぐる所に似たる利益を有するの證とすべきは事實疑ふべからざるも、英國と日本とは自ら他國に異なる特殊の利益を有するものなり。第一に英國に見るに、英國は常に東洋に大地位を占めたり。無論英國は大洋の水の通ずる所、一

として感化勢力を占めざるなきも、清國には又別に通商上の地位あり。英國が清國に占むる此通商上の地位、現實如何に重大なるかは、予は本院諸君の看取せんことを要望するものなり。現に一例を以て之をいふも、清國と取引する船舶の六割方は吾人英國人の船舶にして、又其輸出入業の一半以上は、吾人英國人の手を經ることなれば、我通商上の地位の一大緊要の事たるは明白なるべし。現在既に然りとせば、將來幾何の程度まで、其關係を加ふべきかは、何人も今之を豫言すること能はざるべし。清國々内には通商上の大擴張を行ふに殆ど無盡の利源あり。予の考ふる所を以てすれば、我英帝國の政略中、最も仔細の考量を要するものは、清國將來の通商問題に及ぶものなしと思ふなり。吾等英國人の現在清國に有する所の地位は、此くの如く甚だ大なりと雖、尙他國より迫害を受くるを免るる能はざるなり。其事何ぞや、他國の任意自然の競争とも評すべきもの、即ち是なり。任意自然の競争は可なり。されど競争は悉く任意自然といふ能はざるなり。清國の事時に或は諸國之を誘惑して土地の特權を收め、人爲の障壁を設けて、以て此競争をして純然たる任意自然の性質より脱せしめんとするの情形なきにあら

ざるなり。歐洲中亦或は最後の手段として、清國に勢力圏を定むるの政略を願ふの國なきにあらざるに似たり。吾人の此形勢に處すること如何、吾人の所見よりすれば、勢力圏政略は極めて不良の政略たるなり。大勢の推移する所、吾人亦竟に此政略を執るの已むを得ざるに至ることあるべし。然れども此政略は吾人に恰好なるの政略にあらざるなり。吾人の願ふ所は、清國の全土を開放せしめて、商工業を行ふにあり。吾人の志は唯々茲にあり。これ即ち吾人をして他國より全く相異なる地位に置かじむるものなり。我地位は如何、我利益は主として通商上に存して、而して此利益は我國に最も緊要なる所なり。然れども吾人が清國に通商上の地位を全うせんには、吾人の立場は甚だ困難なるものあり。此等の事情を顧みれば、政府は清國に於ける我地位を安固ならしむべきのみならず、豫め之を慮りて、百方之に盡くすの義務あるものなり。日本の地位自ら他に異なるものあるは、茲に予の喋々を要せず。其地位は地理上より考察し、當然來たる所の地位なり。故に極東にては英國と日本とは、清國の領土保全と日本の特殊の地位とを支持するの二大利益を有し、而して又此兩國は一は海軍の強大なるものあるより、一は

其陸軍策源地の近接するあるよりして、以て能くこの政略を支持するに足るなり。此等の事情より政府に起れる問題、又其結果として今本院に起れる問題といふは他なし。曰く吾人は従前の協商定約の下に務めしよりも、更に一步を進めて策する所あるを可とせざる乎。單に清國の門戸開放、領土保全を宣言するに止めんよりも、更に一步を進めて策する所あるを可とせざる乎。吾人は此政略を實行する所以の方法を確定することに向つて、更に一步を進むるを可とせざる乎と。此結果は即ち日英協約なり。吾人は輕々に責任の衝に立つべからず、躁急に事を行ふは大危険を招くものなり。吾人の自ら立つて義務を負はざれば、宜しく之に伴ふ各條件を精密にせざるべからず。然らば日英協約の條件如何。この日英協約は兩國締約の一方が自家の権利を防護するに於て、一方を強制して其事に加はらしむるものにあらず、又権利の小侵害を受くるに於て、一方を強制して之を防護するに加はらしむるものにあらず。たゞ條約中に規定したる利益を保護するに必要已むべからざるを認むる場合に於て、始めて効力あるもの即ち他國侵略的行動を執るありて、此等の利益侵害を受くる場合に於て、始めて効力あるものとす。

更に翻つて其意義を尋ねれば、利益の侵害を受くるは他國の侵略的行動に由らずして、自家の侵略行動之が因を作す場合には、兩締約國は孰れも一方を引いて己れが利益を防護するの舉に加はらしむるの權利なきを互に承認したるものなり。故に同盟國は他國の侵略的攻戦に應ずる場合の外、毫も義務を負ふことなし。本院諸君は同盟の趣旨を解すれば、協約の條件甚だ穩當なるを諒とせん。一方の同盟國が一外國より攻撃を受くる場合に、一方の同盟國が義務として負ふ所は、唯中立を守り、且つ力を盡して戦争をして交戦兩國に限らしむるにあり。吾人が干戈を執りて干涉するの義務を行ふ最後の極端手段に出づべき場合は、第三者たる一國更に敵國に加擔して、英國か日本かに對して聯合をなす場合に限るものとす。吾人は清國事變中、終始合衆國と和衷提携し、而して北京談判にも殆ど總ての危機、また總ての小事件にも、皆兩國の兩代表者は歩調を一にして行動したり。故に此日英協約の如きも、合衆國政府の賛成を受くべきは、予の疑はざる所なり。日英兩國が此協約を訂結せりといふは、畢竟英國の權力は日本に緊要にして、又日本の權力は英國に極めて關繫あるが故なり。吾人は日本の文明の急速に

進歩し、西歐國の權利責任に當るに至るまでの大進歩も、終始趣味を以て觀察し、又其大進歩を承認したり。是、世界の列國も亦殆ど皆然る事と信ず。殊に近年の一事、即ち列國の代表者、北京の大危険に陥るの時、日本は率先して之を救援し、歐洲列國の感謝を博したり。英國の極東政略は予の數、本院に宣言せるが如く、侵略を貴ばず、着實慎重を主としたり。之を清國の事に徴するも、又一般東洋の事に徴するも、我國の他處に於ける商議、又今回本院に提出するの策を有したる日英協約共に、吾人が唯一の希望は進歩と平和とにあり。世人皆之を認め得るならんことを信ず。

自由黨總理カメル・パンナーマン氏曰く、子爵閣下(外務次官クランボーン氏)の演説は甚だ明白にして用意周到なり。然れども予が聴き取る所を以てするに、閣下の演説は未だ政府が此手段を執れる理由を明かにするに足らざるが如し。閣下は既往の事を叙し、現在の形勢を擧げ、政府の一般の所信、及び政略を宣言したるも、此協約が從來執る所より、纔に一小歩を進めたるものとして、此條約を説き去るを見れば、閣下は此條約が或種の事變には、英國をして開戦せしむる確定的義

務を負はしめたるの事實を解せるやを疑はざるを得ず。此くの如き大義務を負はしむるの行爲を以て、纔に一小歩を進めたりと謂ふを得べき乎。閣下は曰く、政府は清國の現情を支持するに切にして、而して日英協約の基礎たる一目的は、清國の領土保全及び獨立を支持するにありと。此清國とは如何。地理上より言ふ清國といふ語は、甚だ漠然たるを免れざれば、予は先づ聊か清國の何者たる乎を知らんとを望む。ランスダウン侯の通牒の初めには、清帝國の領土保全及び獨立の語あり。此協約の清國をいふもの三様あり、一に清國といひ二に接壤する所の地方といひ、三に清帝國といふ。予を以て之を見れば、是等三様の文字を用ふるは無用なり。たゞ清帝國の語にて、皆之を含ましめて可ならざる乎と予は思惟するものなり。清帝國といへば、遠くバルカンド及びカシガルまでをも含み、又西藏をも東土耳其斯坦をも含むものと思ふ。其亘る所甚だ廣し。予の見る所を以てすれば、本協約は清國に於ける利益を保護すとの事なれば、政府は今一層明白に清國の定義を與へ、地理上の幅員を確定すること至當ならずやと思ふものなり。協商の主要問題に就きていへば、政府の政略に關しては、何人も實質に於て異議なき事

と思ふ。吾人は日本及び日本政府に對して、善意を懐くの外毫も挾む所なく、其大
 事業大進歩をなし進歩を愛するを稱揚するに於ては、我國一人として異存ある
 ことなく、又我國の利益の清國に關する點に就きては、日本と英國と利益を相同
 じうするは、これ亦何人も異議なき所なりと思惟す。吾人は清國の領土保全及び
 獨立を願ふの外、毫も願ふ所なければなり。子爵閣下が明白に我國の勢力圏を設
 定するの政略を否認し、之よりも良好、廣濶、得策なる門戸を開放して、列國の商工
 業をして均しく茲に行はしむといふの政略を採擇せるは、予の悦ぶ所なり。吾人
 の意見は、列國が各、商工業を發達せしむるに均等の機會を有せんことに於て一
 致し、平和を支持することに於て一致せり。但し是等の權利利益の侵蝕を受くる
 に當りては、相當の手段を執るべきは固より論を待たざる所なり。子爵閣下は更
 に進んで現在の局面満足すべきを叙説したり。果して満足すべしとせば、此急激
 の手段(日英協約の訂結)ありしは何の故ぞ、極東の事態總て満足なる基礎の上に
 立つを見ながら、此急激の手段ありしは何の故ぞ。此手段は却つて列國中に猜疑
 嫉妬の念を起さしめ、隨つて満足なる現在の局面を紊亂せしむるに至らざる乎。

予が斯くいへばとて、これ意見を吐露するものと見做されざらんことを望む。何
 となれば吾人は今此條約の得失、要不要を判断するの地位にあらざればなり。先
 づ細かに條約の條款を察せん。第一にランスダウン侯の書面と條約文との間に
 は、稍一致を缺ぐものあり。條約には列國との爭議の性質を確定せず、これ正しく
 一大問題なり。

克蘭ボーン子爵曰く、侵略的行動なり。

カメル・パンナーマン氏曰く、侵略的行動とは何人が之を判断する乎、日英兩國が
 之を判断する乎。侵略的行動といふ解釋に就きては、兩國同見解に出づるを必要
 とする乎。例へば清國に於ける兩國共通の利益が、他國の侵略若くは騒亂の發生
 に因つて侵害を受けたりとせんか。此場合に兩國の一方は之に干涉すべし。然ら
 ば此時に際し、一方の國は何をかなす、中立を守るの義務ある乎、他の一方が軍事
 上の行動に出づるを見るも、袖手傍觀せざるべからざる乎。

克蘭ボーン子爵曰く、必ずしも然らず。

カメル・パンナーマン氏曰く、善く條約の文を見よ、條約に中立を守るべしとあれ

ば、これ即ち戦争に加はるべからずとの意味となるなり。
 クランポーン子爵曰く、否々。
 カメル・パンナーマン氏曰く、然らば、敵方に加擔すべからずとの意味ならん歟、これ可なり。然らば此特別の場合共通の利益侵害せられたる場合に於て、一方の締約國は敵方に加はらずとせば、今例へば、韓國に事起れりとせん。日本は韓國に在留人の多數を有す。凡そ此在留外人といふ者は、何國も御し易き人民の階級にあらず。又甚だ道理ある人民の階級にもあらざれば、在留國の政府と必らずしも葛藤を生ずるなとせせず。葛藤一たび生ずれば、何人か必らず取り上げて政府間の争議とせん。在留人が在留國の政府と葛藤を生ずる時は、繼いで起る所の争議は孰れが張本人なる乎。時として之を發見するに苦しむ事あり。演説者が此在留外人の語を用ひて此等の説をなすは、南阿事件を諷したるものなるべし。但し日本に於ては、或は之と同様に説くを得ざるべし。兎に角日本は韓國に政治上並に通商上の利益を有するは、此條約に承認する所なれば、或は一朝其政治上の利益侵害を受け、若くは騷擾起り、結局二國を敵とするの境に陥ることあらん。此場合に

は、こは無論予が假想上の事にして、斯かる場合はなかれかしと望むものなれども、若し之ある場合には、吾人は此争議の原因如何に論なく、條約上の明文に基づきて、日本に與みし交戦せざるべからざるの義務ある者なり。條約は原因の如何を問はず、何れの場合にも之を援くるといふにあらざるべし。予は政府が此點を十分明瞭ならしむる事ならんと思ふ。此等の場合あるものとせば、我國の條約上より負ふ所の危険甚だ大なるは、何人も之を記憶すべき事ならん。故に予は極東に於ける我國の權利、我國の通商上、其他の利益を支持するの必要を擧ぐるのみならず、一方に此危険あるを注意したしと思ふものなり。更に吾人は此條約の結果として、戦争に加はるものと假想せんに、戦争の負擔は日英兩國間に平等なるを得るや否や、日本の利益は、清國に自家の港灣に又韓國に涉る一國の防禦は、これを擲ちて、十分の責任を執るべきは言ふまでもなし。然るに英國が二國を敵として戦ふには、世界の各部に於て、此二敵國と戦はざるべからず。故に戦争の及ばす所は、英國と日本と同様なるを得ざるなり。日本の危険は、吾人の地位の攪亂を受くる所廣大にして、随つて危険の洪大なるに比すれば、真に一小危険たるに過

ぎざるなり。吾人は從來極東に於て、開戦と否との問題に就きても、亦總て自家の一存に行ふの自由を有して、而して其事の利益あるを見たり。日英兩國の共同行動を執るべき場合は、外交文書に規定し置きて、十分の効力あらん。必らずしも拘束力ある國際契約の方法に由るを要せざるべき歟。此等の事は實際如何になり居るや。予は尙一箇の質問に由るを要せざるべき歟。此等の事は實際如何になり居るや。予は尙一箇の質問したき事あり。政府は此條約を批准し、或は發表するの前、先づ極東の事に關係ある諸國、例へば獨逸、合衆國其他の諸國に其文を通知したるか。吾人は露國とは従前よりも一層親睦の關係を結ばんことを願ふものなり。吾人は又日本と親厚の關係を結ばんことを願ふ點に於て政府に譲らざるものなり。唯此等の願はじき目的を實行せん爲めには、我國は此協約の如き、重大なる義務を負ふの必要ありしや。吾人は十分其必要ありし所以を知り得んことを願ふものなり。

大藏總裁バルフォア氏之に答へて曰く。カメル・パンナーマン氏は日英協約の訂結には、何事か裏面の理由ありて、政府は此協約の必要を示す秘密報告にても接し居れる乎の如き考へあるに似たり。されど予の解する所を以てすれば、本院諸

君は皆既に政府が此方針に出でたる理由を十分に解し得ると信ず。こは近年になき所の事なれば、之を新方針と稱して可なり。予は政府が此手段を執りたるの關係重大なるを輕視せんと欲するものにあらず。予は之を以て國際間の日常茶飯事と心得るものにあらず。政府が此新方針を執りたる理由は何處の外務省の秘書室に求むる迄もなく、極東に於ける我國の利益、及び政略如何を見、又其必要如何を見れば、その理由は自ら天下に明かなると信ず。パンナーマン氏の言を察するに、頗る極端に馳するが如し。元來此條約如何といふに、若し日本が開戦の場合には、英國は第三國の來つて敵國に加はらざる限りは、中立を守るべき筈なり。こは英國開戦の場合にも同斷なり。然るにパンナーマン氏は、此條款を解釋して、若し日本が一國と隙を開く場合には、英國は如何に日本を援けたくも、條約文中の「中立」といふ語に妨げられて、之を援くること能はずと思惟するものゝ如し。吾人は唯々として交戦せずと誓ふといふ義にあらず。こは取り上げていふまでもなし。極東に於ける日英兩國の利益相同じく、其共に願ふ所は現狀を支持するに存するは、これ何人も異議なき所なり。合衆國、獨逸其他商業國は均しく現狀

を支持するを利益とするに相違なければ、二國聯合して英國が、若くは日本かを打破るといふことは、日英兩國は勿論、此等各商業國の政略に取りて、かほどの大打撃なかるべきは、これ亦何人も異議なき所なり。然れども萬一不幸にして、英國は極東に於て、一國と開戦することあらば、日本の英國に取りて重要なるは明白なり。然らば又吾人は二國をして、日本を破滅せしむるを默認すべからざるは、何人も異議なき所なるべし。日英兩國の利益相同じきは、我同僚紳士(克蘭ボーン子爵)の擧ぐる所たるのみならず、反對黨紳士(カメル・パンナマン氏)の均しく認むる所たれば、予は諸君の決して、茲に異議なきを信するものなり。今日の戰爭は一國と一國とを以てするも、既に重大の事とすれば、若し數國互に入り亂れて戦ひを交ふる場合を思はば、如何なる冒險政治家もまた殆ど之を企圖せんと敢てするものなかるべし。萬一二箇の一等國聯合して日本と戦ふとあらば、其結果如何、日本は必らず敗れて極大損害を受け、殆どまた起つ能はざるに至るか、然らずんば、茲に至らざるの前、先づ二敵國の要求に服従するかの一あるを見ん。これ兩つながら吾人の默然たる能はざる所なり。日本がこの場合に撃破を受くる

も、又我國の利益と相反する政略を執るに至るも、兩つながら我國に便ならざるなり。今此條約實行を見るの日は、決して斯かる事態發生することなかるべきは、理の賭易き所なり。二國が日本一國を敵とするを期する能はざるは、猶極東に於て我國一國を敵とするを期する能はざるが如し。此事の文明列國の最大利益たる、平和を支持するに大効あるは、また喋々の辯を要せざるべし。人或は此條約は諸外國に敵意を挾むものにあらざるかと説く者あるも、斷じて斯かる事なし。此條約の依つて以て防護せんことを期する所の危険は、即ち極東に於ける冒險的政略より生ずる所の危険なり。我皇帝陛下の政府は、露國政府に此冒險的政略あるを疑ふものにあらざるは、茲に之を告白す。然りと雖、歐洲大陸中には、此くの如き冒險的政略を行ふを願ふ一種の論者なきにあらざるなり。此等の議論が勝を制して其政府を動かし、列國平和の一危険たるに及ぶべきや否やは、予の知り得る限りにあらざるも、予は先づ之なからんと信するものなり。兎に角、此條約が平和を支持する諸勢力を結合鞏固ならしむるに大効あり。吾人が永遠に少なくともこの條約繼續中だけは、各商業國全體の共通利益、我同胞英國人の共通利益を

鞏固なる基礎の上に据ゑたるは寸毫も之を疑はざるなり。此條約が我國に重大なる義務を負はしめたるは、予固より之を否認せざるなり。百得ありて一損なきは初めより、此種の條約に期すべからざる所、又凡そ外交上此くの如き目的を達し得べき政略ありとも想はれざるなり。兎に角此條約が極東の現情を支持し、又極東の商業に加はらんことを欲する各國に、均等の通商的機會を與へしむるの効あるは、予の信する所なり。此事たる即ち吾人をして、此條約を訂結せしめたる一動機なり。本院諸君及び國民は、此一動機のみを以てするも、之を訂結するに足るの理由と認むるを疑はず。次で自由黨のハーコート氏曰く、政府が本協約を訂結したる各動機は何人も疑ひを挟む者なし。政府は平和を願ひ、清國の現情支持を願ふ者なるは之を諒とす。唯茲に問題といふは、政府が此等の目的を行ふの方法は、果して最良手段なりや否やにあるのみ。本協約中に現情の語あり。然らば今日滿洲に於ける現情は如何。これ重要な關係ある一問題なり。我政府を始めとして各國政府は、清國の領土を租借して、清國の領土保全及び獨立を侵害したるにあらずや。吾人の將に支持せんとする現情とは、果して何の義なる乎。大藏總裁

は、先づ聊か之が説明あるべかりしなり。政府が今日滿洲に對して、執らんとする地位は如何。政府は露國の滿洲に於ける地位の如何といふことは、毫も茲に説く所なし。扱て又吾人は日英共通の利益の爲めに、日本と協同行爲すとの事なるも中立に關する條款は、一種不思議の觀を呈せり。日英兩政府は互に同盟國と呼ぶも、其一同盟國が開戦するも、一方の同盟國は中立の地位に立つものなり。此結果如何。英國は清國に於ける商業上の利益若くは清國の領土權の侵害を受くる場合には、戦争に出づるも日本は中立の地位に立つの自由あり。果して然らば英國は日本の港灣に入ること能はざるが故に、同盟より期する所の便益は、全く薄弱なるものとなり。戦争は清國と起ることあるべし、又は露、或は佛、或は獨と起ることあるべし。然れども締約國の一方は、他同盟國が一國より攻撃を受くる場合には、中立を執るの自由あり。これ最も奇異なる約束と云はざるべからず。例へば日本が外國より攻撃を受けんに、其國は一國といふと雖、兵力は日本よりも強大なるべし。然るに英國は之を知りながら、交戦の原因自ら定まれりといふを以て、己れは中立を宣言して、其強大國が日本を生殺するに任せ、爲めに日本敗滅

することあらんも敢て妨ぐる所なきや。
 尙曰く、日英は同盟國なりと、これ極めて奇異の約束にあらずや。或は萬一日本が開戦することあらば、英國は之に加はると否とは自ら之を定むることを得るとせん乎。吾人或は曰く、交戦に加はるは英國の利益と相容れず、故に吾人は中立を守るものなりと。此事は協約第二條に之を規定して、各自の利益を防護せんが爲め云々とありて、共通の利益を防護すといはず、各自の利益と云へり。本協約を通讀するに、日英兩國は必らずしも共通の利益を防護する爲めに、協同の行動を執るものにあらざるを認むるなり。兩國は共通の利益を防護せんには、交戦理由の當否に就きて、互に先づ之を承認すべき者とす。曩に歐洲の一大聯合が、日本の驚くべきの俠勇と氣力とを以て、獲得したる戦勝の果實を日本より奪ひ去らんとして、英國に聯合を迫るや、時のローズベリー政府は之を峻拒したり。若し英國之に加はらば、日本に大不利益を與へたるならんも、政府が當時之を拒絶したるは、人皆之を得策として承認したりと信ず。カメル・パンナーマン氏は、兩締約國が交戦の場合に、兩者の負擔相等しからざるを説きたり。如何にも其言の如く、若し英

國が歐洲の一大國と開戦する場合には、交戦の地は清國、朝鮮又は支那海上に限られざるは明かなり。若し政府の慮るが如く、我英國二國より攻撃を受くる場合には、——此二國の何者たるやは之を隠さんとするも無用なり——此場合には戦争の起る所は清國にあらず、韓國にあらず、又直隸灣にあらずして、中央亞細亞ならん。而して又此戦争の對手たる一國は、我印度帝國境上へ向け、波斯及び亞富汗に無限の大兵を集注し得るの國ならん。政府は此條約の爲めに、印度帝國の平和及び將來を賭するものなり。又英國艦隊の戦ふ所は、清國沿海のみならず、地中海及びバルチック海に渉るべし。政府の此政略たるや、既に人々の之を説けるが如く、ナポレオン戦争より以來、我國の傳來とする政略とは相背くものと謂はざるべからず。又茲に本院の注意を請ふべき一問題あり、清國の此條約に對する地位如何。政府は頻りに清國の領土保存及び獨立を説くも、予を以て之を見れば、政府のなす所は即ち各獨立國の有する所の一權利を清國に否認せんとする者に似たり。例へば清國が任意上或種の國々に特殊の待遇を與へんとすることあらば、尙之をも拒まざるべからざる乎。清國に此權利なからしむるは、これ當然各獨立

國の有する權利を清國に否認する者にあらずや。クランボーン子爵の英國が勢力圏政略を賛せざるを説きたるは、予の全く同意する所なり。我國や列國が、清國の各部に自在に入込むの權利を得るは、遠く勢力圏を得るに勝る。然れども清國が、外國人を入込ましむる等の問題は、自ら之を定むるの權利あるは、何人も亦之を否認すること能はざるべし。乃ち若し清國にして我國に譲らず、私に一國と條約を結ぶことあらば、政府は清國と戦ひを開くべきや、否や、吾人は此點に就きて政府の明答を得んことを願ふものなり。何となれば此問題は滿洲に關する一切の問題に關聯あればなり。今世界中衰亡に瀕するの國を擧ぐれば、清國正しく其一に居るものなり。今や既に其政府は列國の力を以て再び起れり。然れども此條約の生存する五年中、其地位は又如何になり行くやも知るべからず。政府は戰爭に訴へても、五年間清國の領土保全及び獨立を支持せんことを誓へり。此五年中に清國の地位變すれば果して如何、予が見る所を以てすれば、以上の説く所の問題は、皆此局面如何に關するものなり。而して此種の條約に自ら批評を伴ふを免れず、曰く英國及び同盟國の利害相同じければ、條約なくとも同盟國たらん、或は

兩者の利害相同じからずして同盟條約を結び、以て協同の行動を相約するは、偶々其國に害を及ぼすとありと。故に共通の利害なくして同盟を結ばず、協同の行動を要するの時、一國は必らず避けて其義務を竭くさざるは、歴史の善く證する所なり。故に若し英國と日本と果して同一の利益を有せんか、其効果あるは予の信する所なり。即ち此場合には必要の時あれば、兩國能く協同の行動を執るべきも、一朝協同の行動を執るを英國の不利益とし、又英國の安全に反すと認むるの時來り、而も此種の條約の英國を拘束する事あらば、此條約は即ち英國をして破敗の境に陥らしむるものなり。これ予が此種の條約に反對するの大本なり。予は政府が此日英協約を結び、既往五十年來の方針を棄てたる理由に就きては、尙吾人及び國民をして首肯せしむるに足るの説明を聞かん事を願ふものなり。

サー・エッチ・ウィンセント氏(保守黨)は、予は大工業地選出議員として、政府が此條約を訂結したるに就きて政府、首相及び外相に勞を謝すといひ、ジー・ウォルトン氏(自由黨)は曰く、予は政府が此條約を訂結したるの急遽倉皇なるを咎めずして、却つて其既に晩きを思ふものなり。協約の目的皆最も稱すべし。列國は共に條約上清

帝國より受くる所の權利を保存し、是等の權利の列國平等に享有し得んことを願へり。協約中に規定したる政略は、列國をして一も反對を懐かしむるものあらず。此條約は戦争の誘因たらずして、却つて平和の保障たるべしと信ず。何れにもせよ、通商上の權利は最も英國に關繫あり、當代の我英國人は、祖先が自家の權利を主張するに何等の危険をも避けざりしのみならず、今日、東洋人種と同盟を訂結したりとて云々する者あるも、吾人は率先して法權を日本に返して、文明列國と對等の地位に置き、而して清國事變中、日本の軍隊は一二の歐洲國に模範たるべきの實を示したり。吾人は今日日本と同盟したり。その國政に任ずるの政治家は、皆我國の政治家と相譲らず、又既往の大進歩は、優に信認を表するに足るものあり。韓國は日本餘剰の人口を捌くに好處なり。決して之をして他外國の領たらしむべからず。吾人は固より日本に及ばずと雖、亦韓國に利害を有すと。パーシー伯保守黨マゴドナー氏保守黨共に之を承けて賛成の演説をなしたり。茲に於てノーマン氏は予が目的協約の審議は十分の満足を得たりといふ能はざるも、亦略之を達することを得たれば、動議を撤回する旨を説きて本議事は終りたり。

以上は英國上下兩院に於ける諸領袖の所見を徵知すべきものにして、かのロンドン・タイムスは此同盟發表に對して長文の論評を試みたり。

タイムスは先づ協約の各條を説明し、然る後に論じて、本協約及び協約に依りて生じたる重要な事、固より甚だ多しと雖、本協約によりて保護されんとする利益の尨大なるは言を要せざるなり。英國は商工業を以て其國を立つ、之が活動を杜絶すれば、遂に其國を持すること能はず。然るに此平和的事業を行ひ得るの土地、今は清國を措いて他に存することなし。清國に初めて鎖國の迷夢を破りたるものは英國にして、そが海岸及び内地の水流に沿ひ、今日の條約港をなしたるもの、亦皆一に當時の英國事業家の功に歸せざるを得ず。之が條約港の隆盛に關しては、各國民今等しく之が利益に浴し居れる所なり。清國をして外國との交通を開くに至らしめたるが爲めに、英國の商工及び航海の業が收得したる利益決して尠からず。當初の事業家が之に用ひたる精力及び清國に固定されたる英國資本の巨額は、皆即ち清國無限の富源が自由に公開さるゝ間、之より收獲せんとし、て下されたる種子たるなり。然るに今清國の運命は、方に其轉廻期にあり。拳匪事

件によりて授けられたる教訓幸ひにその効を奏し、清廷力めて其臣僚中、進歩主義なるものと、献替に依り、専ら秩序の整備を謀らんとするに至らば、清國は自ら救ふの途あらんとするものなり。清國にして微弱なる限りは、常に或種の強國等の之に對し、刀を用ひてその伏在せる富源を壟斷せんとすを免れず。外間よりして如何に之を支持せんとするも、到底救ふの途あらざるなり。然れども吾人は尙清國に活力回復の能力あるを信する者にして、之を回復せしむるが爲め暫らく之に時を假すを必要なりとす。日英協約は即ち北京に於ける日英兩國の勸告をして、重からしむるものなるを以て、上述の見解より論じ、清國の形勢に最も有益ならざるを得ずと云ひ、公使館教授及び北京談判に於て、日英兩國が常に事を共にしたるを述べ、元兇處刑に關する問題に於て、日本の取りたる態度を激賞して、當時日本は露國と共に清廷の好意を收むるに急なりき、即ち露國は李鴻章と露國公使館との間に商議されたる滿洲條約の批准を得んが爲めに、日本は又之を防止せんが爲めにして、互に之が必要を感じたり。茲に於て露國は其目的を達せんが爲め、列國との合同を脱するを憚らずとし、ラムズドルフ伯露國外務大

臣は公然英國大使に通告するに、宣教師虐殺の問題は露國の關する所にあらずるを以てしたり。日本は名に於ては基督教を信奉する國にあらず、露國と同一の態度に出でたりとするも、なほ恕すべし。然るに日本は事の國際信用に關するのみならず、清國に於ける外人安寧の全問題に關するを見て、其清帝の怨む所なるを辭せず、公使會議に於て依然英國公使の要求を支持したりと云ひ、協約の目的は單に列國共通の希望を達せんとするにあるとを説きて、之が成立の最も米國に歓迎さるべきを期し、佛國とは清國に於ける其利益大差なく、之と親密なる同盟の行動に出でたると一再のみならず、また一九〇〇年の英獨協商は、其規模之に比し狭小なりしと雖、其根本主義は共に相均しかりき。伊太利及び埃匈國の絶東に有するものは、政治的利益にあらず、商業的利益にして、本協約は開戶主義を唱ふるものなれば、必らず又之が賛成する所となるを疑はずと稱し、最後に露國に及び、露國に關しては、其政治家が屢示したる如く、其利益稍特異なるものありと雖、日英協約は、即ち我等の政策を明確に現はしたるものなれば、到底之に満足なる承認を與ふるものならずんばあらず。露國が侵略的意志を有するものに

あらざることは、其政府屢之を辯明したり。しかも何之を有せりとせずは非なるべし。然れども、冒險の活動を試みることは、露國外交の特色とする所にして、之が計畫は爲めに意外の紛亂を招くに至ることなきを得ざるなり。近年往々我等が絶東政策に於て示したる、かの動搖極りなくして、一定の目的を有せざるが如き態度は、即ち露國をして最も深く、右云へるが如き活動を試みんとするの念慮を附與するものなり。然るに今、日英協約は盡く我等の政策に關する誤解を散せしめ、同時に我等の政策は露國を始め、如何なる國と雖理に於て之に故障を云ふこと能はざるものたるを示したり。されば、絶東は固より全世界に於て平和を維持するに効あること、これを斷言するに憚らざるなりと云ひ、末節に至りて、若し不測の事變發生して、兩締盟國の一國が某國に對して平和的意志破壊さるゝに至ることありとするも、我等は東西兩洋の兩島國間に成立したるこの防禦的同盟に對し、最も深く信頼することを得ん。近く北清の戦役に於て、日本海陸軍隊の表彰したる勇氣と、能力及び慈仁は、必要の際に當りて我皇帝の陸兵及び海兵をして、日本の同盟戦友と共に相伍して、役にあるを其榮となさしむるを疑はずと云へり。

タイムスは更にまた、國の内外ともに日英協約の價值を盡く了解して、之に關する定説を作るに至るは、尙多少の時日を要すべし。先づ今日までの處に於ては、英人間に於て至當の歡迎を受けたるが如し。外國新聞紙の之に加へたる評論の傾向に就きては、深く意とすべき道理を有せざるなり。英國の公衆は、各階級を通じて本協約を目するに、實に其自然の結果なるを以て、黨派政策と分ちて之を國民政策となしたるの狀あり。我國の二大政黨は、實に共に此政策の建設に與かりたるものにして、屋舎はソールズベリー卿及びランズダウン卿に依り、現今の狀態に建造されたりと雖、之が地均と之が地盤は、ローズベリー卿によりて作られたるものなり。今を距ること八年前、他の列國は皆之を躊躇せる間に立ちて、時の自由黨内閣總理大臣は、我國と對等として我同盟國を遇せんとするの意を示し、其西洋諸國との條約改正に英國先づ同意を與へて、爰に初めて日本をして世界國民間に其正當なる位置を得せしめたり。其後露國の好意を得んが爲めに、獨佛兩國は露を助けて、日本が清國に於ける勝利に依り、正當に獲得したる結果を

横奪せんとしたる際に於ても、卿は斷乎として此等大陸國の計謀に加はるを拒絶せり。ゾールスベリ卿は即ち此政策を踏襲して、今日に至りたるものにして、兩國人民が其利益を共通にすることは、清國の事變に於て常に兩國をして共同の動作を執らしめたり。清國に於ける利益に關して協約に規定する政策は、既に若干年の久しきよしや他の問題に於て其見を異にするとも、英國人民の皆共に希望したる所なり。これ我國兩政黨の適用したる政策にして、兩國の間に良好の關係を保續し、遂に今回の同盟にまで成熟せしめたるもの、兩黨首領の共に功を分つべき所なりとす。米國に於ては豫期したる如くに、本協約果して其歡迎を受けたり。新聞紙中には、實に米國の論説を實際にしたるものなりとさへ論ずるものあり。米國人が其心中に抱懷し居たる目的を、斯く他國の動作によりて自國及び爾餘の文明世界に提供されたるを見、之に喜悅の情を表するは固より其然る所なりとす。米國はワシントンの遺策に従ひ煩累ある同盟に加はることは其避くる所なりと雖、聞く所に據れば、米國は絶東に於て中立の態度を執るものなりと云ふ。然れども米國人は新同盟の目的は其公正なるを承認するものなるを以

て、其中立たるや必らず好意あり同情ある中立ならざるを得ず。佛國の輿論は或度まで之に満足を表し、之に安心を感ずるものよし。佛國の論者は絶東に於ける英國の態度不定なるを見、常に疑懼の念を抱き居たるものなれば、即ち新協約によりて此態度の一定したるを見、之を以て平和の新保證なりとなすものなるべし。なほ論者中には、露國の欲望する所、日本の韓國併吞を防止するにありとの言、若し偽らずとせば、本協約は實に露國に於ても亦その同意を得ざるべからざるものなり。本協約が韓國に關しては、日本に取り事實に於て其自守的宣言なると我等タイムスは必らず、その巴里に於けるが如く、聖彼得堡に於ても首肯されん事を信ずるものなり。佛國の論者中には、又誤解を抱くものなきにあらず。滿洲を以て清帝國の範圍外なりとし、協約中に一の滿洲に言及するものなきを以て、露國は同地に其自由手腕を有するものなりとなせり。昨年三月二十八日のランズダウン卿の演説を繕閱せば、滿洲の英國政治家によりて、清帝國の一部として目されること明瞭なるべく、日本の外務大臣も亦殆ど之と同時に、其議會に於て之を以て其一部にあらずとする獨逸の解釋を否認したると、我等の記憶す

る所なり。獨逸の新聞紙は、殆ど皆共に本協約を以て、露國に抗せんとするものなり。然れども、絶東事件に關して、露國が屢、宣言したる主義を遵奉する限りは、其如何なる國なるを問はず、本協約これに抗する者にあらず。又獨逸新聞紙中には、爾餘の國よりも、之を以て寧ろ自國に便利なりとなすものあり。然れども佛國新聞と共に亦之を以て日本に不利の契約なりと斷せんとするものなきにあらざる。此所論を一顧すること頗る興味ありとす。デバールは平然として、歐米の列國にして日本に抗する爲め、露國に投合せんことを夢想するものありやは、甚だ明白ならずと云ひ、ベルリール、ソイエ、ナッパ、リヒテンは何れにしても、佛國が其同盟國たる露國を支持するため、東洋に事を構ふるが如き動作を取るものにあらず。蓋し兩新聞は、僅に七年前に於て佛獨兩國の日本に抗する爲め、露國に投合せたるを忘れたるものなり。さるにても當時日本にして、強硬に出でたりとせば、此等の二國は其以上に露國の爲めに無形的援助を持続することを夢想せざりしものと解釋すべきや如何。近き過去に於てなされたる所は、將來に於ても亦なさるべきを思ひ、之に對する豫防を加へたるは、決して日本

の愚なるにあらざるべしと云へり。タイムス又曰く、絶東に於ける日英兩國通有の利益を保護する爲め、兩國政府の間に締結されたる協約が速に議會に提出せられ、兩院の之に對して用ひたる討論は國民輿論の強度と一致を表示するに於て、聊かも遺憾なかりしことにつき、頗る満足を表し、外務大臣は昨日上院に臨むに當りて、大喝采を以て迎へられたり。斯くの如き感情の發現は、其莊重なる議場に於て、甚だ其例を見ざる所なり。雖、同院に提出されたる問題が、英國に取りて最も重大なる同盟の約半世紀を経て、初めて實際の形に締結されたるにありしを見れば、斯くの如き感動を發露したるも亦諒とすべきなり。またローズベリー卿の演説は、卿の經歷及び卿が外務大臣たりし際に行はんとしたる主義に極めて好く合するものにして、卿は全然之に賛成して政府の成功を祝し、唯之が實行さるゝの今日に遅延したるを遺憾となしたるのみなりき。卿の賛成は下院に於ける反對黨の如何なる議論よりも、遙に價值あるものなり。カメル・パンナーマン氏及びハーコート氏の如きは、如何なる崇拜者と雖、之を目して國際政策に通ずる人となさざるべく、ランスダウン卿が

其大信用を以て行ひ、ローズベリー卿によりて歓迎されたる協約に、右の兩氏が盡く同意すること能はざりしこと、毫も之が價值を輕重するものにあらず。カメル・パンナーマン氏は、其批評に於て僅に處々の點につき警戒を與へたるに過ぎずして、我等は其如何なる責任をも負擔することなくして、盡く同盟の利便を獲得することを得べかりし旨注意せり。斯くの如き所説は、決してローズベリー卿の贊成論及び絶東の事に通せるワルトン氏の如き自由黨議員の熱心なる贊成に對して、之を動かすに足るべき重量を有するものにあらず。ハーコート氏は一方に於て、餘り深く米國の日本に結合されたることを恐れ、他方に於て日本が唯一國のみに依りて脅迫されたる場合には、英國の之を助くる能はざるものなることを疑へり。然りと雖、思ふに兩締盟國は斯くの如くにして一切の危険を豫想せば、如何なる國際の契約も初めより之をなさざるの勝れるに若かざるを認めたるならん。と論破し、更に進んでは、日英兩國及び英國の植民地により、熱心を以て歓迎され、英國の政策を嫉視する外國に於ても、尙公平なりとして認められたる此協約に對し、よしや締盟國の一方に、尙不利なるもの存せりとの見を抱くも

のありとするも、今は殆ど之が駁論の要を認めざるべし。然れどもノルマン氏は下院に於て、日本は絶東に於ける外、英國と其利益を共通にするものにあらず。然るに英國の利益は世界到る處に其他の強國と接觸する者なりと云ひ、同一の見は尙反對黨議員の間に行はれたるが如し。と雖、世界の他の部分に其利益錯綜せるの故を以て、我同盟國が其英國に對する信義を弱むるが如き憂ひなきの一事は、日本との此協約に於て、我等が其主要なる利便の一としたる所なり。我等は亦日本實際に世界の他の部分に其利益を有せざるが爲めに、更に之に考慮を加ふるゝとなくして、絶東に於て日本を助くるを得べし。英國若し其日本を信用したるが如くに、他を信用したらんには、歐洲大陸國と之が同盟を締結することも亦必らずしも難かりしにあらず。と雖、若し大陸國と之を締結したらんには、其決して斯くの如くなるを得ざるべし。又一國のみの攻撃を受けたる場合には、日本は本協約に據りて英國の援助を受くること能はずとのハーコート氏の疑義は、恐らくは下の事實を解せざるより出でしならん。即ち若し必要に際しては、全く條約上の義務以外に、其友國を扶助すること、是如何なる國も皆共に其所有する權利

あり、斯くの如き助力は學說上の根據よりして之を要求するを得べきものにあらずと雖、新協約に依りて説述したる我國と日本との間に存せる利益の一致は、甚だしく之が要求をなさしむるに力あるものにして、尙時日の経過して兩國の勢力漸次兩國双方の爲めに用ひらるゝに至るに従ひ、之が要求をなし得べき力は漸次増大するを疑はざるなり。本協約は日英兩國によりてのみならず、英國植民地及び米國に依りても亦歓迎されたるを以て、絶東太平洋及び南洋に於て、常に其進歩を妨げたる嫉妬と誤解を散するに至るべく、清國の爲めに論ずる者は多く日本を目して革命的國民となしたりと雖、今や英國政府の保守的目的と其政策を共にするに至りたるを以て、最早此疑ひを存するものなかるべく、英國商業上の利益は清國に大なるに對して、日本は清國の習俗を知るに其便を有するものなり。此二國今相同盟す。其物質的勢力は必らず絶東海面を壓すべく、又清國改革派は英國外交の浮動に落膽し居たりと雖、今斯く確定を見るに至り、なほ日本人に對する信用も、既に同國に回復されたるを以て、實際の進歩は即ち期して待つべきなり。之と同時に又濠洲が此同盟を以て、戰時外國より海軍攻撃を受

くべき危険が、最早實質的に取除かれたる者と云ふを得べし。今後濠洲の人民は、母國外交の此結果に依り、帝國海軍力の組織に益貢獻するの覺悟をなすべく、又英國が同盟國として歓迎したる敢爲にして進歩的なる人民に對し、相當の迎接を加ふることを試みるべきなり」と云へり。

次に歐洲大陸の諸新聞の論調如何を一顧するを要す。今先づ佛國の論調を見ん。デリーの論じたる要旨に曰く、本協約の締結は、絶東に於ける英國の大成功にして、南阿弗利加に戰爭の開始されたるまでは、英國は經濟上の點に於て、絶東に超越の地歩を占め居たるも、清國が全世界の爲めに分割さるゝに至りて、英國は清國の市場に多數の危険なる競争者を見るに至れり。之と同時に日本は清國との戰爭を終へて後、常に韓國問題の協定を得るに至らざるに艱み居たるを以て、双方に特別の同情成立し、互に相密着せんことを欲するに至りたるものなり。然れども本協約が果して合理にして、且つ至當なるものなるや如何。即ち締盟者の一方にのみ利益するが如きものあらざるなきや、尙疑問に屬せりとす。又其協約第一條は上半部に於て頗る穩健なりと雖、下半部兩締盟國は若し別國の侵略的行動